

# Yanaginogosho Site

The 76<sup>th</sup> Excavation Report of the Local Government Office in Hiraizumi of the 12<sup>th</sup> Century



2016

Iwate Board of Education , JAPAN

岩手県文化財調査報告書第147集

平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

岩手県教育委員会

岩手県文化財調査報告書第147集  
平泉遺跡群発掘調査報告書

# 柳之御所遺跡

第76次発掘調査概報



2016

岩手県教育委員会



岩手県文化財調査報告書第147集  
平泉遺跡群発掘調査報告書

# 柳之御所遺跡

第76次発掘調査概報

2016

岩手県教育委員会



## 序

平泉町に所在する柳之御所遺跡は、平安時代末期の約100年間にわたり北方の王者として繁栄を誇った奥州藤原氏の残した遺跡で、特別史跡中尊寺境内、特別史跡毛越寺境内附鎮守社跡、特別史跡無量光院跡などの文化財と並び、当時の平泉の核をなしていた遺跡の一つであります。本遺跡は、昭和63年から（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会が実施した一級河川北上川上流改修一閘遊水地事業及び国道4号改修平泉バイパス建設事業に伴う緊急発掘調査により、大規模な掘立柱建物跡・園池跡・堀跡などが確認され、また、膨大な量のかわけや各種木製品など、質・量ともに卓越した遺物が出土いたしました。これらの豊富な遺構・遺物により、本遺跡が『吾妻鏡』に記された「平泉館」であることが指摘されています。

このような経過のなかで、遺跡に対する建設省（現国土交通省）のご理解により、平成5年には遺跡の保存が決定し、平成9年3月に『柳之御所遺跡』として国の史跡に指定されました。県では、本遺跡が国民共有の貴重な財産であるとの認識から、史跡公園として整備して後世に伝えるとともに、広く活用していきたいと考え、平成10年度から史跡整備に向けた発掘調査を実施してきました。史跡公園の公開も進み、これまで多くの方々にご来園いただいております。

また、平成23年に「平泉の文化遺産」が世界遺産に登録されました。残念ながら柳之御所遺跡は漏れてしまいましたが、平成24年に暫定リストに登載されています。今後は本遺跡をはじめ未登録の遺跡についても、その価値評価にむけて活動を継続していく所存であります。

最後に、発掘調査の実施と報告書作成に当たり、ご指導・ご協力を賜りました平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方、文化庁記念物課、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所をはじめ関係各位に深く感謝申し上げますとともに、本書が平泉文化研究発展の一助になれば幸いです。

平成28年3月

岩手県教育委員会  
教育長 高橋嘉行



## 例 言

1. 本書は、岩手県教育委員会が平成26年度に実施した柳之御所遺跡整備調査事業に係る、史跡柳之御所遺跡の発掘調査の概要報告である。調査期間は平成26年5月11日から11月30日である。
2. 本事業は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が主体となり、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの協力を得て実施した。
3. 遺構の呼称は、昭和63年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した調査時の方法に準拠し、下記の略称を使用し、本書でも記載している。遺構名の記載については遺構略号の前に調査次数を付してある。なお、複数年次にわたる調査で明らかに同一と認定される遺構については当初の調査時の遺構名を継続して使用した。  
SA: 塀・柱列 SB: 掘立柱建物 SC: 道路状遺構 SD: 溝・堀  
SE: 井戸・井戸状遺構 SG: 園池 SK: 土坑・柱穴の一部 SX: その他  
SI: 竪穴住居 P: 柱穴  
例: 76SK1 第76次調査の第1号土坑
4. 図版、写真図版、遺物観察表中の遺物番号は共通である。遺物の実測図については一部を除いて縮尺を1/3を基本にし、スケールを図中に表示した。遺構遺物写真については縮尺不定である。
5. 本書に係る編集・執筆は生涯学習文化課柳之御所担当で協議の上、櫻井友梓・村上拓が行った。執筆分担は、各項目の文末に記載している。
6. 調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備指導委員会等で公表してきたが、本書の内容が優先するものである。
7. 遺構の埋土観察、遺物の色調観察に際しては、『新版標準土色帖』を参考にした。
8. 自然科学分析についてはパリノ・サーヴェイ株式会社への分析委託により実施したものである。
9. 後述する平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方をはじめとして、下記の方々・機関の御協力を得た。  
安達訓仁 井上雅孝 及川 司 及川真紀 島原弘征 鈴木弘太 高橋千晶 羽柴直人  
本澤慎輔 前川佳代 八重樫忠郎 (50音順: 敬称略)  
岩手県立博物館 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 平泉文化遺産センター  
文化庁記念物課
10. 本事業に係る調査で得られた諸記録及び出土遺物は、岩手県教育委員会が保管している。

## 目 次

I 序 論	1
1 遺跡の位置と調査経緯	1
2 調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会	3
3 今年度の調査	5
II 調 査 内 容	9
1 調 査 の 概 要	9
2 検 出 遺 構	11
3 出 土 遺 物	22
III 自然科学分析	48
IV 総 括	58
V 付章 高館跡第7次調査の概要	63

## 図 版 目 次

図版 1 遺構 調査区全景①	図版 9 遺構 76SD3検出①、②
図版 2 遺構 調査区全景②、③	図版10 遺構 76SD3断面①、②、③
図版 3 遺構 21SD1調査状況、 植物質遺存状態	図版11 遺構 かわらけ①
図版 4 遺構 21SD1断面、 21SD1・調査区断面	図版12 遺構 かわらけ②
図版 5 遺構 21SD1・76SD3 (1トレンチ) 断面①、②、21SD1-C層 堆積状況	図版13 遺物 かわらけ③
図版 6 遺構 21SD1北側検出状況、 21SD1-C層堆積状況、 拡張トレンチ検出状況	図版14 遺物 かわらけ④
図版 7 遺構 21SD2調査状況、 21SD2底面遺物出土状況	図版15 遺物 かわらけ⑤
図版 8 遺構 21SD2断面①、②	図版16 遺物 かわらけ⑥
	図版17 遺物 国産陶器①
	図版18 遺物 国産陶器②
	図版19 遺物 国産陶器③
	図版20 遺物 国産陶器④
	図版21 遺物 国産陶器⑤
	図版22 遺物 輸入陶磁器・瓦・木製品
	図版23 遺構 高館跡



## 挿 図 目 次

図1	遺跡位置図	2	図25	21SD1出土土器類実測図13	38
図2	調査位置図	7	図26	21SD1出土土器類実測図14	39
図3	遺構配置図	10	図27	21SD1出土土器類実測図15	40
図4	21SD1平面図	12	図28	21SD1出土土器類実測図16	41
図5	21SD1植物質遺存範囲	13	図29	21SD2出土土器類実測図1	42
図6	21SD1断面図	14	図30	21SD2出土土器類実測図2	43
図7	21SD2平面図	15	図31	遺構外出土土器類実測図	44
図8	21SD2断面図(西側断面)	17	図32	瓦類実測図	46
図9	21SD2断面図(東側断面)	18	図33	木製品実測図	47
図10	76SD3平面図	19	図34	柳之御所遺跡の大型植物遺体	55
図11	76SD3断面図	20	図35	柳之御所遺跡の木材	56
図12	遺物取り上げグリッド	22	図36	木 材	57
図13	21SD1出土土器類実測図1	26	図37	柳之御所遺跡の堀跡の位置	59
図14	21SD1出土土器類実測図2	27	図38	21SD1-C層模式図	60
図15	21SD1出土土器類実測図3	28	図39	柳之御所遺跡の南端部の関連遺構	61
図16	21SD1出土土器類実測図4	29	図40	高館跡調査位置	64
図17	21SD1出土土器類実測図5	30	図41	高館跡第7次調査遺構配置図	65
図18	21SD1出土土器類実測図6	31	図42	高館跡第7次調査平面図	66
図19	21SD1出土土器類実測図7	32	図43	遺構平面図	68
図20	21SD1出土土器類実測図8	33	図44	堀跡平面図	69
図21	21SD1出土土器類実測図9	34	図45	堀跡断面図1(西側断面)	70
図22	21SD1出土土器類実測図10	35	図46	堀跡断面図2(東側断面)	71
図23	21SD1出土土器類実測図11	36	図47	3トレンチ断面図	72
図24	21SD1出土土器類実測図12	37			

## 挿 表 目 次

表1	平泉遺跡群調査指導委員会	3	表8	柳之御所遺跡の樹種同定結果	52
表2	発掘調査年次計画	4	表9	樹種同定結果	53
表3	平泉遺跡群調査整備指導委員会協議 事項	5	表10	高館跡の調査計画	63
表4	土坑・柱穴一覧表	21	表11	遺物観察表(かわらけ)	74
表5	76次調査出土遺物数量表	23	表12	遺物観察表(国産陶器)	79
表6	柳之御所遺跡の放射性炭素年代測定 結果	50	表13	遺物観察表(輸入陶磁器)	87
表7	柳之御所遺跡の微細物分析・種実同 定結果	51	表14	遺物観察表(瓦)	88
			表15	遺物観察表(木製品)	89

# I 序 論

## 1 遺跡の位置と調査経緯

柳之御所遺跡は、岩手県西磐井郡平泉町平泉字柳御所に所在し、経度・緯度は北緯38度59分28秒、東経141度7分35秒（旧日本測地系）である（図1）。遺跡の背後（北東側）には高館の丘陵があり、東に北上川、西から南にかけて猫間が淵と呼称される低地によって区切られた河岸段丘上に立地する。遺跡内の標高は南側で25.3m、中心部で27m、北側で32mであり、北西側が高く、南東側に傾斜している。遺跡の北側の一部は北上川の流路により浸食されたと考えられるため、本来の遺跡の形状には不明な点が残る。遺跡の範囲は調査前には住宅地と田畑があった場所で、緊急調査後に岩手県による公有地化が行われている。

遺跡は一関遊水地事業や国道4号バイパス事業に伴い、大規模な発掘調査が行われた。調査当初より多くの遺構、遺物が確認され、調査の進展に伴って内容が明らかになり、その価値が高く評価されることとなった（岩手県埋蔵文化財センター1995）。この成果を受けて遺跡の保存運動が高まり、建設省（現在の国土交通省）や関係機関の尽力により遺跡の保存が決定し、治水と遺跡保護との両立が図られることとなった。その後、平成9年に史跡指定され、以降順次史跡範囲を広げながら現在に至っている。岩手県教育委員会では遺跡が国の史跡に指定されたことから、史跡公園として整備し保存活用を図るため、文化庁及び柳之御所遺跡調査研究指導委員会（現平泉遺跡群調査整備指導委員会）の指導助言を得て、平成10年度から主に未調査区域を対象とした内容確認の発掘調査を計画し、継続して実施している。これまでの調査は当面の整備対象となる堀内部地区を中心に行ってきた。これらの調査により、堀内部地区の大部分が調査され、遺構遺物の両面から研究が深化している。なお、柳之御所遺跡堀内部地区は、平成22年より史跡公園として公開を行い、現在も史跡整備工事を継続している。

柳之御所遺跡の周辺には、西には隣接して猫間が淵跡、無量光院跡が位置し、北には高館跡、南には伽羅御所跡が接している。無量光院跡はこれまでの発掘調査で、宇治平等院と類似しつつも、細部で異なる伽藍や浄土庭園の内容が確認されている。伽羅之御所跡は地名から『吾妻鏡』に記載される伽羅御所に比定される見解もある。これまで複数の地点で調査が行われ、貴重な遺物も出土しているが、小規模の発掘調査にとどまり遺跡の様相や性格を明確に示すものは確認されていない。近年の調査により周辺部で溝跡等も確認されており、区画の様相も検討されつつある。平泉町内ではこの他に志羅山遺跡や泉屋遺跡、倉町遺跡といった当時の平泉の街並みに関連する遺跡が調査されている。また平泉町内以外でもその周辺からは、北上川を挟んだ東岸域や衣川を挟んで北側の奥州市接待館遺跡、白鳥館遺跡などの調査も行われており、当時の平泉の範囲が周辺に広がることが明らかになり、検討が行われてきている。



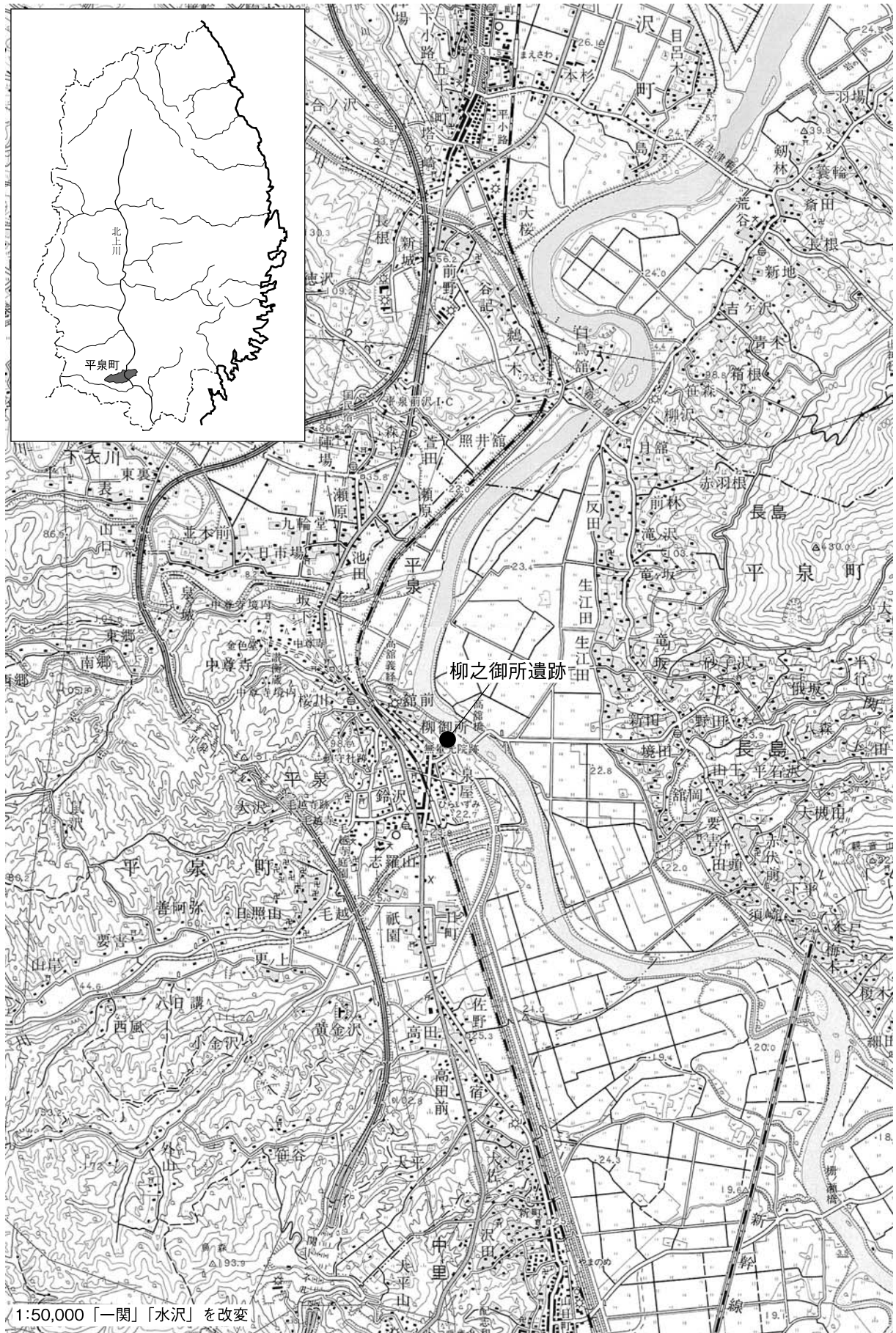


図1 遺跡位置図

## 2 調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会

岩手県教育委員会では柳之御所遺跡の調査を3カ年ずつ計画を立て進めている（表2）。

平成26年度調査（76次）は第6次3カ年計画の1年目にあたる。第6次3カ年計画は堀跡を中心に発掘調査を行い、堀跡や堀内部地区への導入施設などの検討と整備に関わるデータ収集を主な目的とした。なお、平成24年度も堀内部地区北端部周辺の調査を行っており、堀跡を中心として遺構や導入施設の有無や様相の確認を主な目的としている。第5次3カ年計画では北端部周辺の堀跡を中心に調査を行い、第6次3カ年計画では遺跡の南側を含む堀跡周辺の調査へと進んでいく予定である。これまでの計画と今後の計画については表2に示した。調査整備にあたっては平成10年度から「柳之御所遺跡調査研究指導委員会」を設置し、柳之御所遺跡及び平泉遺跡群の発掘調査及び調査研究に対して指導助言を得てきた。平成12年に名称を「柳之御所遺跡調査整備指導委員会」に改め、平成15年度は世界遺産本登録に向けた周辺遺跡の検討の必要性から「平泉遺跡群調査整備指導委員会」と改称した（表1）。平成26年度の委員会・専門部会は表3の通り開催した。

表1 平泉遺跡群調査整備指導委員会

（平成26年4月現在、役職は当時）

氏 名	役 職	専門部会
入間田宣夫	東北大学名誉教授	整備
遠藤セツ子	メビウスの会事務局	整備
○岡田 茂弘	国立歴史民俗博物館名誉教授	保存・整備
小野 正敏	国立歴史民俗博物館名誉教授	遺構
坂井 秀弥	奈良大学教授	遺構
斉藤 利男	弘前大学教授	遺構
佐藤 信	東京大学教授	保存・整備
清水 擴	東京工芸大学名誉教授	遺構
清水 真一	徳島文理大学教授	遺構
関宮 治良	前平泉町商工会事務局長	整備
田中 哲雄	元東北芸術工科大学教授	保存・整備
◎田辺 征夫	奈良県立大学特任教授	遺構
玉井 哲雄	国立歴史民俗博物館名誉教授	遺構
西村 幸夫	東京大学教授	保存

※ ◎委員長 ○副委員長 遺構：遺構検討部会、保存：保存管理計画検討部会、整備：整備検討部会



表2 発掘調査年次計画

	年次	調査回数	調査内容等	調査面積	調査期間	備考
第1次三カ年計画	平成10年度	第49次	・堀内部地内の中心建物群、特に最大建物である南北棟4間9間42SB1(28SB4と一部重複)の東側地区の解明。	500㎡	5月15日 ～10月31日	国庫補助
			・23次調査時の23SB2建物跡の延長確認。			
			・23SA3柱列跡、23SA1堀跡の延長確認。 ・48SB1建物跡の延長確認と所属時期の検討。			
	平成11年度	第50次	・池跡及び中心建物群を囲む23SA1堀跡の追跡。	1,800㎡	5月13日 ～10月31日	国庫補助
			・4間9間の南北棟の東側の状況及び建物群の伸長。			
			・42SD1大溝とされていた遺構の時期及び伸展状況追跡。 ・37次、42次の内容確認調査に確認されていた溝・堀類の時期及び伸展状況の把握。			
	平成12年度	第52次	・堀内部地区、中心建物群の西側及び北西側地域の解明。	2,500㎡	5月15日 ～11月17日	国庫補助
			・祭祀遺構周辺地域の解明。			
			・無量光院との対峙地域の解明。 ・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。			
第2次三カ年計画	平成13年度	第55次	・中心建物群の北側地区の解明。	3,100㎡	5月11日 ～11月13日	国庫補助
			・中心建物群を囲むと推定される堀跡の検出。			
			・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。			
			・現存する微高地状の高まりの性格把握。 ・北上川縁地域の状況把握。			
	平成14年度	第56次	・第52次発掘調査の際に検出された大規模な堀(内堀)と張出施設を伴う溝の追跡。	4,000㎡	5月13日 ～11月29日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・北上川右岸縁での大型建物の展開の把握。			
			・遺跡を二分する外堀の追跡。			
	平成15年度	第57次	・旧池跡の規模と造成時期の把握。	4,000㎡	4月14日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・遺跡中核を囲う堀の追跡調査及び門跡の確認。 ・高館南側裾部分未調査地域の遺構分布の確認。			
第3次三カ年計画	平成16年度	第59次	・中心建物群の規模と新旧関係の解明。	3,500㎡	5月10日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・園池北部の構造及び規模と造成時期の把握。 ・北上川縁地域状況把握。			
	平成17年度	第64次	・園池の構造及び規模と造成時期の把握。	2,500㎡	4月15日 ～9月30日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・池跡から東側への建物等の展開状況の確認。			
	平成18年度	第65次	・遺跡中核を囲う堀の追跡調査及び門跡及び道路遺構の確認。	1,500㎡	5月8日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・既調査区の再検証。			
第4次三カ年計画	平成19年度	第68次	・道路遺構(21SC1)及び堀跡(23SA1)の延長確認。 ・遺跡南端外堀の有無の確認。	1,200㎡	5月7日 ～10月15日	国庫補助 ※整備関係予算含む
	平成20年度	第69次	・遺跡を区画する二重堀の構造や構築時期の特定。 ・既調査で一部確認されている橋跡の追跡調査。	1,100㎡	5月7日 ～12月10日	国庫補助 ※整備関係予算含む
	平成21年度	第70次	・堀内部北部のトイレ状遺構の分布。 ・堀内部北端部の構造確認。	1,100㎡	5月8日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む
第5次三カ年計画	平成22年度	第72次	・遺跡北端部の堀の延長確認。 ・堀内部北端部の様相確認。	1,100㎡	5月11日 ～9月30日	国庫補助 ※整備関係予算含む
	平成23年度	第73次	・堀内部と堀外部との導入施設の確認。 ・堀跡の延長確認。	1,100㎡	6月1日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む
	平成24年度	第74次	・堀内部地区の道路の延長の確認。 ・堀内部と堀外部の導入施設周辺地域の確認。	1,100㎡	6月1日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む
第6次三カ年計画	平成25年度	第75次	・猫間が淵跡周辺における堀跡の様相の確認。	1,100㎡	6月1日 ～11月30日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・交通施設の有無及び遺構の把握。			
	平成26年度	第76次	・遺跡南端部における堀跡の状況確認。 ・堀周辺の遺構の延長確認。	800㎡	6月1日 ～11月30日	国庫補助 ※整備関係予算含む
平成27年度	第77次	・遺跡南端部周辺における遺構の分布状況の確認。	1,100㎡			

※ 第51次・53次・54次・58次・60～63次・71次調査は平泉町教育委員会が実施。

表3 平泉遺跡群調査整備指導委員会 協議事項

回	日 時	内 容
遺構・整備部会	26. 7.11	今年度の調査整備の内容について
		堀跡の復旧工事について
		平泉遺跡群の調査整備について（無量光院跡の整備）
保存管理部会	26. 7.11	世界遺産に係る資産影響評価
第1回委員会	26.9.18～19	今年度の調査について
		今年度の整備について（植栽、看板等について）
		堀跡の復旧工事について
		看板等の整備について
		世界遺産に係る資産影響評価及び受容力調査について
		無量光院跡の調査状況、整備計画について
遺構・整備部会	26.12.24	今年度の整備工事について
		来年度以降の整備計画について
		看板等の整備について
		無量光院跡の調査状況、整備計画について
第2回委員会	27.2.5～6	今年度の整備について
		今後の柳之御所遺跡の整備計画について
		汚物廃棄穴の整備について
		無量光院跡の調査状況、整備計画について
		平泉遺跡群の今年度の調査成果について
		世界遺産に係る資産影響評価

### 3 今年度の調査（図2）

#### (1) 調査体制

〈岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課〉

総括課長	松下 洋介
世界遺産担当課長	細越 健志
上席文化財専門員（柳之御所担当）	岩渕 計
主査（柳之御所担当）	渕上 恭子（H27.4.1から）
文化財調査員（柳之御所担当）	大沢 勝（H27.3.31まで）
文化財調査員（柳之御所担当）	櫻井 友梓

〈（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター〉

所 長	中村 英俊
文化財専門員	村上 拓（H27から）
文化財調査員	伊藤みどり（H27.3.31まで）



## (2) 調査区の位置と調査目的

平成26年度調査（76次）は遺跡の南端部周辺の未調査範囲を主な対象とした（図2）。今回の範囲は近年まで宅地等が所在し、これまで未調査の範囲で遺構の分布状況等に不明な点が多い。ただし、遺跡南端部の周囲はこれまで多くの調査が行われている範囲で多くの事実が示されている。これまでの調査では柳之御所遺跡の緊急調査が開始された21次調査（昭和63年）および23次調査（平成元年）でこの周囲が調査されたほか、69次調査（平成20年）と70次調査（平成21年）で21・23次と重複する周囲の調査を行っている。また、平泉町教育委員会が小規模の調査を行った範囲も近接する。これらの調査で内側の堀跡（21SD1）や外側の堀跡（21SD2）、関連する遺構（21SX4）が確認されているほか、伽羅之御所跡の方向へ伸びる橋跡の遺構も確認されている。

今回の調査範囲は遺跡を囲む堀跡のうち、これまで調査が行われてきた南端部と猫間が淵跡周辺（75次調査）の間に位置し、未調査の範囲にあたる。遺跡を区画する堀跡の位置については地形の観察などから推察されてきたが、明確な位置については不明な部分も残されていた。そこで堀跡の位置を確定し、一部について走行方向を確認することと合わせて時期等を検討する資料を得ることをひとつの目的とし、猫間が淵跡方向へ至る地形の様相や遺構の分布状況の確認を第2の目的とした。

柳之御所遺跡を囲む二条の堀跡については遺跡を位置づける上で重要な遺構だが、時期的な変遷については課題も残されていた。大きな変遷としては外側の堀跡から内側の堀跡へと変化が想定できるものの、地点ごとの様相の相違もあり、時期やそれぞれでの規模について課題が残る。それらの検討の材料を得ることを目的とする。

なお、調査は遺構の分布や所属時期の確定、遺構の性格等を把握することを目的としているが、遺構の保存のために、精査の際の掘削は必要最小限にとどめている。調査終了後は、調査区全体と一部の掘削を行った遺構についてはいずれも砂の埋め戻しによる保護層を確保した上で、調査以前の地形と合わせて埋め戻しを行い、遺構の保護を図っている。

## (3) 調査の方法

### グリッド

柳之御所遺跡の調査に際しては、遺構の測量や遺物の取り上げなどの作業に際し、基準となるグリッドを設定している。このグリッドは（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが1988年から始まる緊急調査に際し平泉町教育委員会と協議のうえ設定したものである（岩手県埋蔵文化財センター1995）。平面直角座標第X系（旧日本測地系）をもとにした5×5mグリッドで、南北方向の基準線に対し真北は、西に0°11′振れる。遺跡範囲の北西端辺りが原点（0，0）となる。

なお、49次調査まではグリッドの呼称をX座標方向、Y座標方向の順にしていたが、50次調査以降、その順を逆転させY座標方向、X座標方向の順で呼称・記載している。混乱を最小限にとどめるため、本書においてもこの方式を採用し、たとえば66-70(Y-X)グリッドならばX軸方向が70、Y軸方向が66を示している。以下の記載についてはこのグリッドによって調査を行い、遺物の取り上げも、近現代の改変による耕作土の出土遺物等を一部除いて、基本的にこのグリッドによって行っている。なお、調査時の錯誤により、地震後の改測の成果と以前のものとの混同したため今年度調査時にグリッドの位置が錯誤しており、その対応については取り上げグリッドを後述した。

なお、東日本大震災後に行った再測量において当遺跡内では座標が変動したことが改めて確認できた。基本的には遺跡内での変異はほぼ同程度であり、遺跡内という限定された範囲では平行移動に近いこ





とが推察される。

柳之御所遺跡内での継続調査においては1988年以来進めているグリッド内での位置を明示することが調査研究の継続上有効と考えており、旧座標におけるグリッド表記を行うこととする。そのため調査においては旧日本測地系の座標を基準として設定している。ただし、柳之御所遺跡は周囲の遺跡との関係性も研究上重要であることが認識されてきており、それらの比較や整備、その基準となる図面作成においては世界測地系の正確な座標値を把握、更新する必要性も高い。そのため東日本大震災後の成果に基づいた改測成果を把握し、これらへの対応にもついても備えることとする。

以上の通り、その改測においては発掘調査における測量及び報告書等の記載は従来の局地座標で行う。世界測地系座標の表示も適宜行うが、その場合にはそれを明記する。

#### 表土掘削・遺構検出

今回の調査では、昨年度の調査で表土の厚さを確認していた範囲については、バックホーを使い、表土を除去した。また、表土が薄いことが想定された以前の宅地部分の範囲については人力で表土除去を行った。表土の除去後は遺構の検出を、鋤簾などの道具を使用して確認調査（検出作業）を行った。

#### 遺構精査・記録

検出作業によって確認された遺構については、遺跡保護のため基本的には掘削を伴う精査は行っていない。しかし、一部の遺構については遺構の年代把握や遺物検討のために、半裁等によって土層観察を行い、遺構の断面を記録した。平面図の実測は5 mグリッドを分割した1 m×1 mのメッシュを使用して手作業で行った。今次の調査で検出された遺構はもちろんであるが、既知の遺構についても、検出したものについてはあらためて平面図の作成を行っている。写真については6×7版カメラ（モノクロ・リバーサルフィルム）を中心に、適宜35mm版カメラやデジタルカメラを使用して撮影を行った。調査区全景写真撮影に際しては高所作業車を使用して、調査員が撮影を行っている。

#### 遺構名称

今次調査における遺構名は新規の遺構については頭に今回の調査回数である76を付して上記遺構略号を使用した（例.76SK○○）、既往の発掘調査で確認された遺構と同一であることが想定できる遺構については旧番号（既調査で命名）を本書においても使用している。具体的には2条の大規模な堀跡については既調査で確認されている遺構と同一であることから21SD1、21SD2の遺構名称を継続して用いる。

#### 整理作業

野外調査終了後の平成26年12月1日から平成27年3月31日まで行った。遺物は水洗後に注記→接合→実測→トレース→図版作成→写真撮影の順で作業を行った。遺構については点検、合成の後、必要に応じて第2原図を作成し、その後トレース→図版作成の順で作業を行った。

#### 記載内容

この報告では、今次の調査で検出した遺構と既知の遺構でも精査の際に半裁した遺構について記載している。また、新たに精査した柱穴が含まれる建物跡や新たな知見が得られた遺構についても記載している。

#### 普及活動

普及活動の一環として、野外調査の全容がほぼ明らかとなった10月4日に現地説明会を行った。晴天に恵まれ、約100名の参加者を得た。そのほかに、遺跡を訪れる観光客や小中学校の見学などに対して、必要に応じて随時現場を公開した。

（櫻井）

## Ⅱ 調査内容

### 1 調査の概要

今回の調査区は平成21・22年度に実施した69・70次調査区に近接する、遺跡の南端部の範囲である。76-103グリッドから84-112グリッドにかけて設定した調査区で、調査対象面積は約800m<sup>2</sup>である。公有地化以前の状況は宅地で、現況の地形は平坦になっているが、本来の地形は周囲の地形から猫間が淵跡方向へ下る範囲であることが推察された。今回の調査は、21次調査および69次・70次調査で検出された21SD1・21SD2堀跡の延長部分にあたりと考えられ、2本の堀跡の位置や状況を把握することや周囲の遺構の分布状況の確認を目的とした。

調査区内は宅地造成時の削平や地形の改変が著しい。検出面までの層序は、調査区内の基本層序は下記の通りである。

- I 表土層
- II 宅地造成時とみられる盛土層
- III 調査区東に堆積する土層で遺物を含む。12世紀以降の堆積層。
- IV 黒褐色の土層。12世紀以前の時期の旧表土にあたる層だが、多くの範囲では削平等により確認できない。この土層が残る範囲はこの土層の上面で遺構検出面となるため掘削は行っていないが、2層に分かれる。
- V 黄褐色の粘土層で、遺跡全体の多くの範囲で遺構検出面となる土層。

なお、このうちⅢ・Ⅳ層は調査範囲全体では確認できず、調査範囲の東側の一部でのみ確認できる。多くの調査範囲はⅤ層の上面にⅡ層の盛土層が堆積し、削平等により改変が行われたことがわかる。21SD1堀跡の一部を除き、遺構の多くはⅤ層上面での検出となる。

今回の調査における検出遺構は以下の通りである（図3）。

- 堀跡 2条
- 溝跡 1条
- 柱穴 15個

調査区全体の地形は猫間が淵跡と呼ばれる低地が広がる南側に向かって緩やかに傾斜する。もっとも標高の高い21SD1の内側の肩部分からもっとも低い南側への比高は5 m程である。21SD1より南側の範囲ではⅤ層の直上にⅡ層の盛土層が厚く堆積しており、大きく地形が改変されたことが窺える。この範囲では遺構が確認できないが、それが遺跡が機能した時点での本来の様相及び地形であったかは不明である。猫間が淵跡への傾斜は急激なものではなく自然の傾斜となっており、規模の大きな遺構や柱穴は存在していないものと判断でき、本来の遺構分布も希薄だったと考えられる。なお、69次・70次調査においては21SD2のさらに南側に溝跡を検出している。今回の調査範囲にもこれらの遺構が継続する可能性が考えられたが、今回の調査範囲では確認できなかった。既調査範囲での底面標高は約21.5mであり、削平された場合でも底面の一部は残存する可能性もある。ただし、この遺構は一部を確認したのみで、走行方向等に不明な点が残るため今回の調査区に延長するかは判然としない。

次節では精査を行った遺構を中心に記述する。



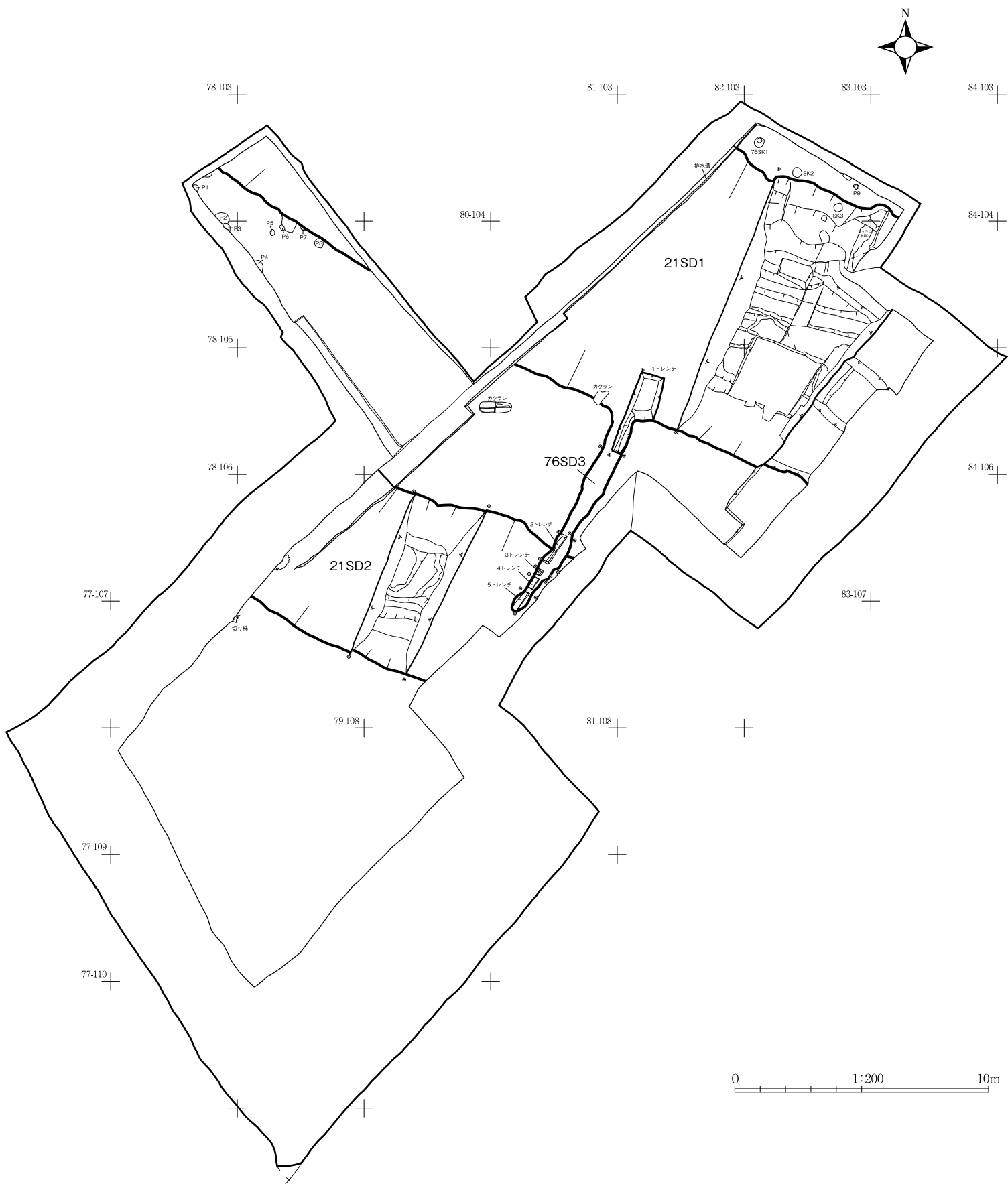


図3 遺構配置図

## 2 検出遺構

### (1) 21SD1 (図3・4)

調査区北側の範囲に位置する。過去に調査された内側の堀跡と一連の遺構にあたる。今回の調査区は21・69・70次の調査区と近接しており、同一遺構として把握できることから、遺構名称は21SD1としている。調査区内ではV層で検出した。東西方向はY=82~83グリッドにて、南北方向はX=103~105グリッドで確認している。東西方向に走るが幅の中央付近で計測すると走行方向は東西方向である。また、調査区を拡張したグリッドにおいても南側の肩部分を確認しており、延長方向を想定することが可能である。この範囲も含めて、今回の調査区内では20mほどの延長を確認している。

上幅は11mで確認しており、これまでの他の調査区で確認している規模とおおむね同様である。走行方向は北東-南西方向に走っており、隣接している過去の調査区の延長に位置することがわかる。ただし、現在の地形から想定できる方向よりはやや南側に延び、これまで確認している方向からやや南側を開く方向である。

今回の調査範囲では柱穴等では重複関係をもつ遺構はみられないが、76SD3が21SD1と直交して確認できた。平面での確認では21SD1が76SD3を切るように確認できた。この部分は76SD3の延長としてトレンチを設定して断面を確認している。このトレンチの所見は76SD3の遺構堆積土とも関連するため、後述する。

今回は一部分のみ掘り下げを行った(図5・6)。検出面からの深さは2.5mほどで、底面標高は21.4m程である。底面は幅3mほどのやや平坦な面をもち、断面形状は逆台形状になる。両側ともやや緩やかに立ち上がり、北側で30°ほど、南側で35°ほどの傾斜で直に立ち上がる形状である。法面にはやや平坦になる部分もあるが、大きく平坦面を造成した範囲は確認できず、狭い段をもちながら立ち上がると捉えられる。遺跡南端部の21次調査では平坦な範囲が造成されており、それとの関係は位置が離れ判然としない。しかし、今回の調査範囲で北側の肩とした範囲と平面的な位置関係が連続する可能性もあり、その場合本来の21SD1の肩はさらに北側に位置する可能性もある。底面は既述の通り幅3mほどでやや平坦な形状となるが、必ずしも平坦に整形されたものではなく、溝状に掘り込まれて段差をもつ。このことから底面は凹凸のある形状だったことがわかる。ただし、全体に溝状の掘り込みが筋状に入るものではなく、他の範囲に広がるものではないことから、これらの凹凸が規格的に整形が行われたとみなすことは現状では難しい。

土層は30層に分層した。いずれも自然堆積の土層である。土層の特徴から、大きく4つの段階に分けることができる(A~D)。上層から確認すると、A層は12世紀代以降に形成された自然堆積の土層である。かわらけ片、炭化物を含む土層で、近世以降の陶磁器を含め、多くの土器類が出土している。土器類の多くは摩滅したもので自然堆積による土層の形成との想定と整合的だが、完形品に近い遺物も出土しており、周辺部の遺構が削平されたことにより堆積した遺物も含まれるとみられる。21SD1は長大な遺構で堆積にも複数の時期があり、完形品に近い資料の出土と遺跡機能時もしくはその直後の堆積とが必ず対応するものでもないが、この部分までは近世段階まで窪みとして残っていた可能性が高い。また、他調査区においても同様に上層部分には近世以降の土層が堆積しており、同様の状況がみられる。

B層も自然堆積土層で、堀跡全体の堆積土のうち中層にあたる。この層より下層のD層は完形等の遺物が少なく、B層の下層には遺物を完形も含めて一定量含むことから、B層は遺跡が廃絶した後の近い時期も含めた堆積土層とみられる。B層は下層付近を中心にかかわりを中心とした遺物や炭化物





図4 21SD1 平面図

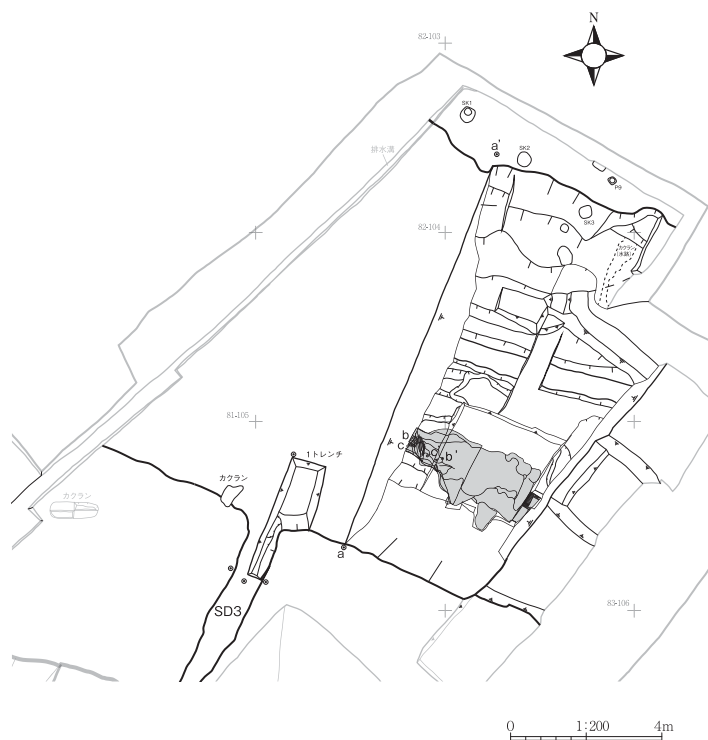


図5 21SD1 植物質遺存範囲

この土層にはかわらけ等の遺物が含まれるほか、土壁なども含まれる。以上のように、この土層は人為的な様相を示すものの、ブロックの入り方が水平方向ではなく、斜行して確認できることから積み土等ではなく崩落土層と判断した。

D層は下層付近を含む自然堆積の土層である。C層以下の土層を一括したが、土質等には差異もある。いずれも遺物をそれほど多く含まない土層である。端部には堀跡の壁の崩落とみられる土層がある。また、グライ化した土層やラミナ状の堆積が確認できる土層もあり、水成堆積によるものとみられる土層である。遺物がそれほど多くなく、崩落等もあることから、21SD1の構築後間もない時期からの堆積と考えられ、堀構築から遺跡廃絶前後までの時間で堆積したものと考えられる。断面の観察では掘り直しは確認できない。この土層の上面の調査区南側で植物質遺体が層状に堆積している。分布範囲は図5の通りである。概ねC層が堆積する下層にのみ限定的に確認できることから、人為的な状況の可能性を想定し平面的に検出した後に一部の断ち割りを行った。植物質遺体は面的には広がるものの詳細に見ると、複数の細かい層で形成されており、その間には自然堆積の土層が堆積することが確認できた。なお、柳之御所遺跡では植物質の樹皮等を組み合わせた敷葉工法とみられる部分が69次調査の21SD2で確認しているほか、平泉町内では中尊寺大池跡でも確認されている。しかし、これらで確認されたように木の枝等が組み合わされている状況や葉が敷き詰められている状況は確認できず、木の枝や樹皮、葉等が規則性をもたずに乱雑な様相でランダムに堆積する状況であった。また、その直下には薄い砂などが確認でき、ラミナ状の部分があることから直下は水成堆積の土層とみられた。砂の堆積は植物質の堆積の間層になる範囲も確認できた。また、これは間接的な根拠になるが、堀内部の底面付近で他に顕著な構築物や人為的な土層は確認できず、位置的にも構築物とは想定しがたい。これらのことから、これらの植物質遺体は自然堆積のもので、C層の堆積により後世のB層で確認されるような水成堆積等の影響を受けなかったためにこの範囲に残存したものと判断した。

出土遺物はかわらけが275994.6g、国産陶器が20591.8g、輸入陶磁器が172.3g出土している。多

を含む。下層を中心にラミナ状の堆積も確認でき、水成堆積による土層が間に入るとみられる。A層とB層は12世紀以降の堆積とみられるが、B層はそのうち、機能廃絶後から徐々に堆積した土層と考えられる。

C層は21SD1の南側部分にのみ確認できる土層である。土層の堆積の方向から、21SD1の南側から斜め方向に堆積したことが確認できる。土層は地山ブロックを多く含む土層が厚く堆積し、間層にうすく旧表土の可能性のある暗褐色の土層が堆積する。この土層は一部には炭化物を含む。この範囲では崩落土層とみられ自然堆積の土層だが、地山土とみられる黄褐色の土壌が5～10cm程度の径でブロック状に含まれる土層で人為的な様相を示す土層である。なお、





くは近世を含む自然堆積土層にあたるA層から出土している。なお、数量や遺物の特徴等は遺物の項目で記述する。

(2) 21SD2 (図3・7)

調査区南側の範囲に位置する。過去に調査された外側の堀跡と一連の遺構にあたる。今回の調査区は21・69・70次の調査区と近接しており、同一遺構として把握できることから、遺構名称は21SD2としている。調査区内ではV層で検出した。東西方向はY=79~80グリッドにおいて、南北方向はX=106~107グリッドで確認している。走行方向は東西方向に走るが幅の中央付近で計測するとN-85°-Wである。今回の調査区内では8mほどの延長を確認している。

上幅は6.5mで確認しており、これまでの調査区で確認している規模とおおむね同様である。走行方向は既述の通り、北西-南東方向に走る。今回の調査範囲では柱穴等では重複関係をもつ遺構はみられないが、76SD3が21SD2と直交して確認できた。2つの遺構が重複する範囲は21SD2の人為堆積土が確認できる範囲で、後述するように76SD3も人為堆積土で埋められており平面的な前後関係の認定は難しいが、平面での確認では土質の特徴から76SD3が21SD2の堆積土を切るように確認できた。この部分は76SD3の延長としてトレンチを設定して断面を確認している。このトレンチの所見は76SD3と関連するため、後述する。

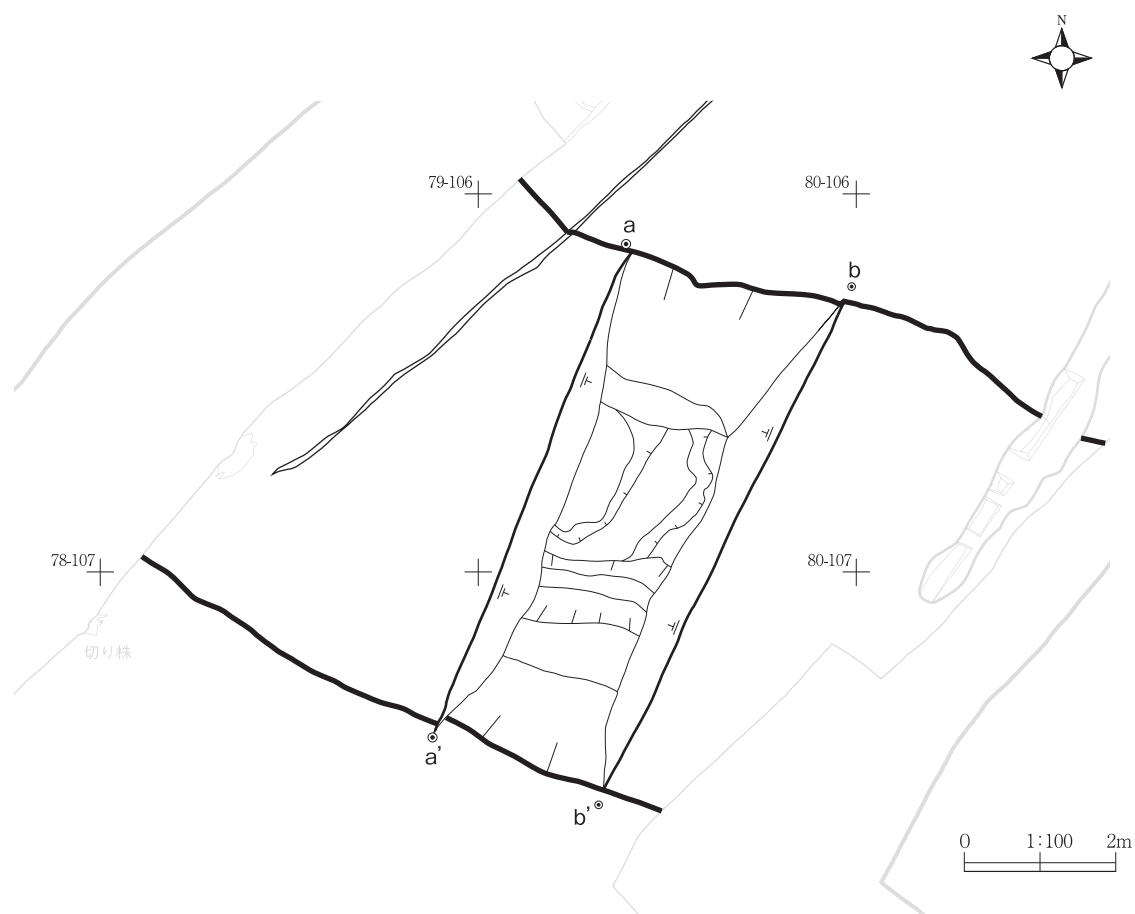


図7 21SD2平面図

今回は一部分のみ掘り下げを行った(図8・9)。検出面からの深さは1.5mほどで、底面標高は21.8m程である。東断面と西断面の両者を記録しているが、土層やそれぞれの土質の微細な部分は狭い範囲内でも自然堆積土層を中心に若干の相違がある。ただし、狭い範囲であることから、概ね対応は可能で、それぞれの対応は図に記した。また細かい土層では差異も生じるが、これらの土質による大枠での堆積の変遷としては共通している。ここでは上層から、西断面の土層名を基本に記述する(図8 SPa-a')。

最上層は自然堆積の土層が厚く堆積する。1～4層は土質等からやや新しい時期も含む可能性があるが、自然堆積土層のうち下層の土層(北壁5～8')は遺跡の機能が廃絶した段階に近い時期の堆積とみられる。1～2層や8・8'層などのこれらの範囲の下層付近では炭化物を含むほか、かわらけを含む遺物量も比較的多く出土しており、自然堆積のこれらの土層が遺跡廃絶後に堆積したものとみられる。1～2層はしまりも弱く、土器類を多く含むものの摩滅した資料も多い。3～5層は土器類も少ない。土質からしまりも弱く砂質も多く含むことから、遺跡廃絶後に一定期間経過後の堆積とみられる。この範囲が溝状のものか後世の自然堆積で大きく削られたためにできた土層かはこの範囲のみでは判然としないが、今回の範囲の所見では、21SD2の機能時や21SD1と同様の大きな堀跡としての大きな区画としての機能は掘り込みとした場合でも底面まで浅いこと、他の堀跡と比べると立ち上がり弱いことから、想定が難しい。ただし、遺跡全体の中でも同様の土層が確認できる範囲があることから、注意する必要がある。

21SD2の北側には人為堆積の土層が確認できる(16～18層・9～12層)。この土層は東側でより残存が良好だが、水平堆積の土層が複数確認できる。9～12層は東側では確認できず、部分的なものでは土質が斜行する部分があり崩落の可能性があるかと判断した。この範囲の下部の人為堆積土層は土層の違いから複数回の堆積が想定できるが、底面を中心に水平方向の堆積であることブロック状の地山土も斜行などは顕著ではなく水平方向の堆積を含むことからまた、下層で水平の堆積が顕著なことから人為的な埋め土と判断した。端部は崩落も確認できるため、人為土層形成後に表土として機能した時期は、長期間ではないがやや時間幅をもつことが想定できる。

これより下層は21SD2の機能時の堆積である。断面の形状は大きく1回の掘り直しが確認できる。これをもって新期と旧期と記す。また、この掘り直しによる底面形状の変化は明瞭だが、それ以外の部分でも底面は凹凸が多く不整形なあり方が顕著である。これらの他にも堆積の様相からは小規模な改修が想定でき、複数回の造作が行われたと考えられる。新期、旧期のいずれとも自然堆積によって中間部ほどまで堆積していたとみられる。旧期は幅6mの台形形状である。新期は緩やかなV字状の形状である。

出土遺物はかわらけが37283.2g、国産陶器が505.8g、輸入陶磁器が63.8g出土している。多くは上層から出土している。

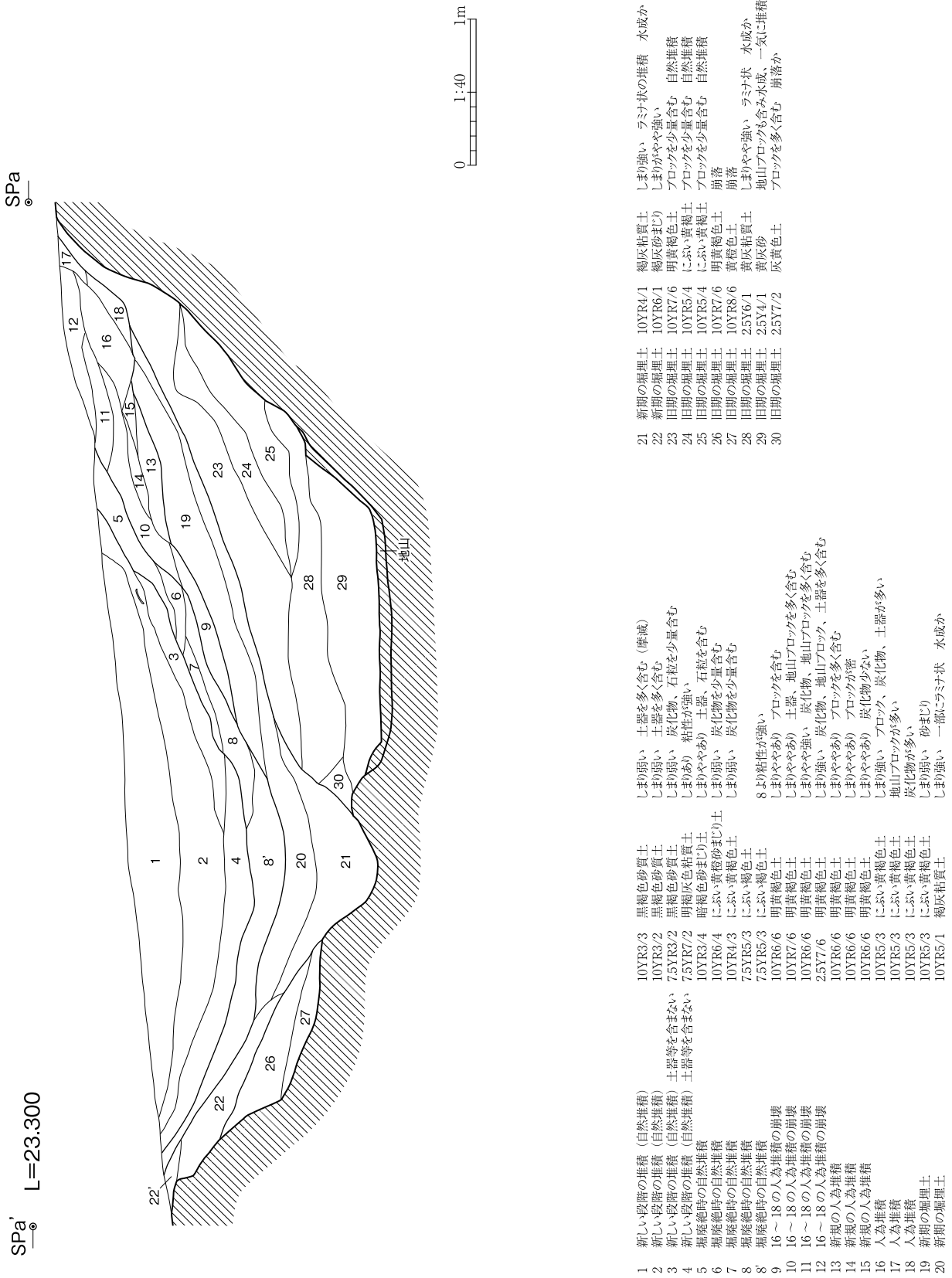
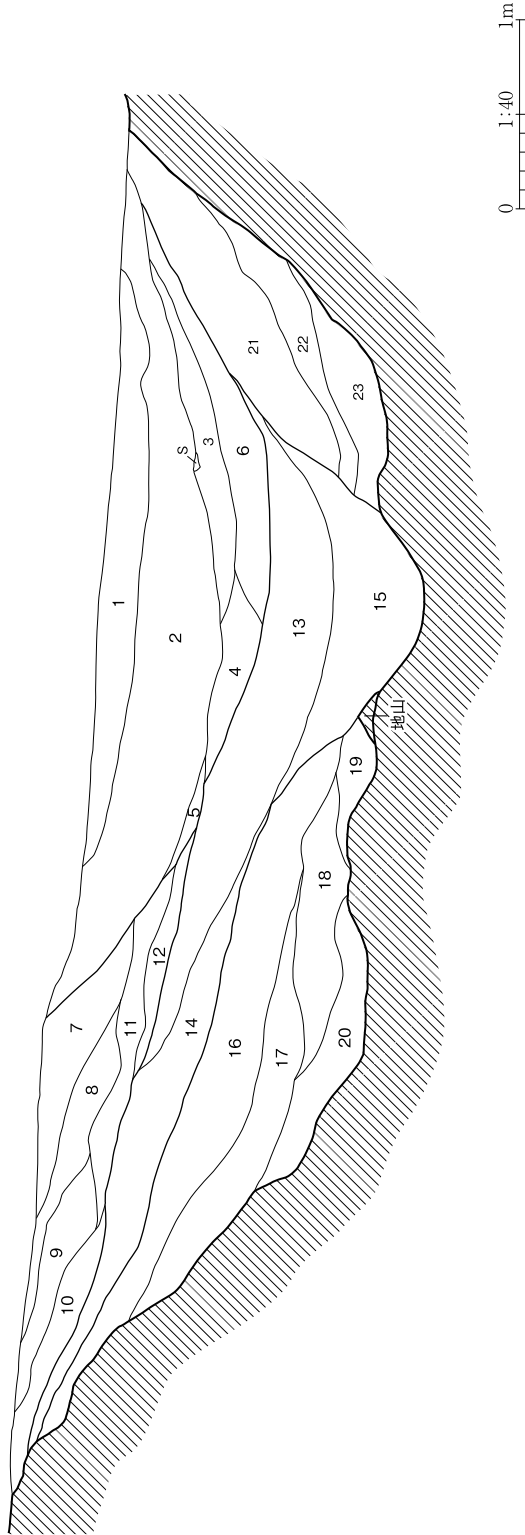


図8 21SD2断面図 (西側断面)



SPb'

SPb L=23.300



1	北側の1,2と対応	新しい段階の堆積	10YR3/3	10YR3/2	黒褐色砂質土	土器を多く含む (層滅)	16	北壁の23と対応	旧期の埋埋土	10YR7/6	明黄褐色土	17	北壁の27と対応	旧期の埋埋土	10YR8/6	黄褐色土	18	北壁の28と対応	旧期の埋埋土	25Y6/1	黄灰粘質土	19	北壁の30と対応	旧期の埋埋土	25Y7/2	灰黄色土	20	北壁の29と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	黄灰砂	21	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	にぶい黄褐色土	22	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	にぶい黄褐色土	23	北壁の26と対応	旧期の埋埋土	10YR7/6	明黄褐色土
2	北側の1,2と対応	新しい段階の堆積	10YR3/3	10YR3/2	黒褐色砂質土	土器を多く含む (層滅)	17	北壁の27と対応	旧期の埋埋土	10YR8/6	黄褐色土	18	北壁の28と対応	旧期の埋埋土	25Y6/1	黄灰粘質土	19	北壁の30と対応	旧期の埋埋土	25Y7/2	灰黄色土	20	北壁の29と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	黄灰砂	21	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	にぶい黄褐色土	22	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	にぶい黄褐色土	23	北壁の26と対応	旧期の埋埋土	10YR7/6	明黄褐色土					
3	北側の4と対応	新しい段階の堆積	7.5YR7/2	7.5YR7/2	明褐色砂質土	粘性が強い	18	北壁の28と対応	旧期の埋埋土	25Y6/1	黄灰粘質土	19	北壁の30と対応	旧期の埋埋土	25Y7/2	灰黄色土	20	北壁の29と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	黄灰砂	21	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	にぶい黄褐色土	22	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	にぶい黄褐色土	23	北壁の26と対応	旧期の埋埋土	10YR7/6	明黄褐色土										
4	北側の3と対応	新しい段階の堆積	7.5YR3/2	7.5YR3/2	黒褐色砂質土	粘性が強い	19	北壁の30と対応	旧期の埋埋土	25Y7/2	灰黄色土	20	北壁の29と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	黄灰砂	21	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	黄灰砂	22	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	にぶい黄褐色土	23	北壁の26と対応	旧期の埋埋土	10YR7/6	明黄褐色土															
5	北側の3と対応	新しい段階の堆積	7.5YR3/2	7.5YR3/2	黒褐色砂質土	粘性が強い	20	北壁の29と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	黄灰砂	21	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	黄灰砂	22	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	黄灰砂	23	北壁の26と対応	旧期の埋埋土	10YR7/6	明黄褐色土																				
6	北側の8と対応	新しい段階の堆積	7.5YR5/3	7.5YR5/3	にぶい褐色土	粘性が強い	1	北壁の23と対応	旧期の埋埋土	10YR7/6	明黄褐色土	2	北壁の27と対応	旧期の埋埋土	10YR8/6	黄褐色土	3	北壁の28と対応	旧期の埋埋土	25Y6/1	黄灰粘質土	4	北壁の30と対応	旧期の埋埋土	25Y7/2	灰黄色土	5	北壁の29と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	黄灰砂	6	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	にぶい黄褐色土	7	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	にぶい黄褐色土	8	北壁の26と対応	旧期の埋埋土	10YR7/6	明黄褐色土
7	北側の10と対応	堀廃絶時の自然堆積	10YR7/6	10YR7/6	明黄褐色土	粘性が強い	2	北壁の27と対応	旧期の埋埋土	10YR8/6	黄褐色土	3	北壁の28と対応	旧期の埋埋土	25Y6/1	黄灰粘質土	4	北壁の30と対応	旧期の埋埋土	25Y7/2	灰黄色土	5	北壁の29と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	黄灰砂	6	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	にぶい黄褐色土	7	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	にぶい黄褐色土	8	北壁の26と対応	旧期の埋埋土	10YR7/6	明黄褐色土					
8	北側の11と対応	人為堆積の崩落	10YR6/6	10YR6/6	明黄褐色土	粘性が強い	3	北壁の28と対応	旧期の埋埋土	25Y6/1	黄灰粘質土	4	北壁の30と対応	旧期の埋埋土	25Y7/2	灰黄色土	5	北壁の29と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	黄灰砂	6	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	にぶい黄褐色土	7	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	にぶい黄褐色土	8	北壁の26と対応	旧期の埋埋土	10YR7/6	明黄褐色土										
9	北側の16と対応	人為堆積	10YR5/3	10YR5/3	にぶい黄褐色土	粘性が強い	4	北壁の30と対応	旧期の埋埋土	25Y7/2	灰黄色土	5	北壁の29と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	黄灰砂	6	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	黄灰砂	7	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	にぶい黄褐色土	8	北壁の26と対応	旧期の埋埋土	10YR7/6	明黄褐色土															
10	北側の17と対応	人為堆積	10YR5/3	10YR5/3	にぶい黄褐色土	粘性が強い	5	北壁の29と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	黄灰砂	6	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	黄灰砂	7	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	黄灰砂	8	北壁の26と対応	旧期の埋埋土	10YR7/6	明黄褐色土																				
11	北側の18と対応	人為堆積	10YR5/3	10YR5/3	にぶい黄褐色土	粘性が強い	6	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	黄灰砂	7	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	黄灰砂	8	北壁の26と対応	旧期の埋埋土	10YR7/6	明黄褐色土																									
12	北側の18と対応	人為堆積	10YR5/3	10YR5/3	にぶい黄褐色土	粘性が強い	7	北壁の25と対応	旧期の埋埋土	10YR5/4	黄灰砂	8	北壁の26と対応	旧期の埋埋土	10YR7/6	明黄褐色土																														
13	北側の20と対応	新しい埋埋土	10YR5/1	10YR5/1	褐灰粘質土	粘性が強い	8	北壁の26と対応	旧期の埋埋土	10YR7/6	明黄褐色土																																			
14	北側の20と対応	新しい埋埋土	10YR5/1	10YR5/1	褐灰粘質土	粘性が強い	9	北壁の26と対応	旧期の埋埋土	10YR7/6	明黄褐色土																																			
15	北側の21と対応	新しい埋埋土	10YR4/1	10YR4/1	褐灰粘質土	粘性が強い	10	北壁の26と対応	旧期の埋埋土	10YR7/6	明黄褐色土																																			

図9 21SD2断面図 (東側断面)

## (3) 溝 跡

## 76SD3 (図10・11)

21SD1と21SD2に直交する溝跡である。幅1 m程で、走行方向は南北方向で、 $N-20^{\circ}-E$ ほどで東に振れる。21SD2の北側に確認できる人為堆積土を切り、21SD1に切られる。21SD2部分では南側に下がり傾斜するため、21SD2の人為堆積土上で溝が終わるが、本来の遺構の延長は不明である。

21SD1と関連する部分に1トレンチを設定した(図11 SPb-b')。断面で確認できる土層は大きく21SD1の堆積土にあたる土層と76SD3の堆積土にあたる土層、両者の間の堆積層に分けられる。1層は地山ブロックでほぼ構成される土層で76SD3を埋め戻した土層である。他の範囲で確認されている人為堆積土では、暗褐色土や炭化物などを含むものが多いが、この土層はこれらの夾雑物がきわめて少ない。76SD3をこの人為的な土層で埋め戻した後、21SD1が構築される。2～4層は1層と同質とみられるが、ややブロックの粒が異なり、分層した。土層の様相では21SD2と接する端部では上部の5、6層では斜方向の堆積があり、21SD1のC層と関連する可能性もあるが、下層は水平方向の堆積が確認できる。土質は地山ブロックを主体に暗褐色土を含む土質で締まりも強い人為堆積の土層である。

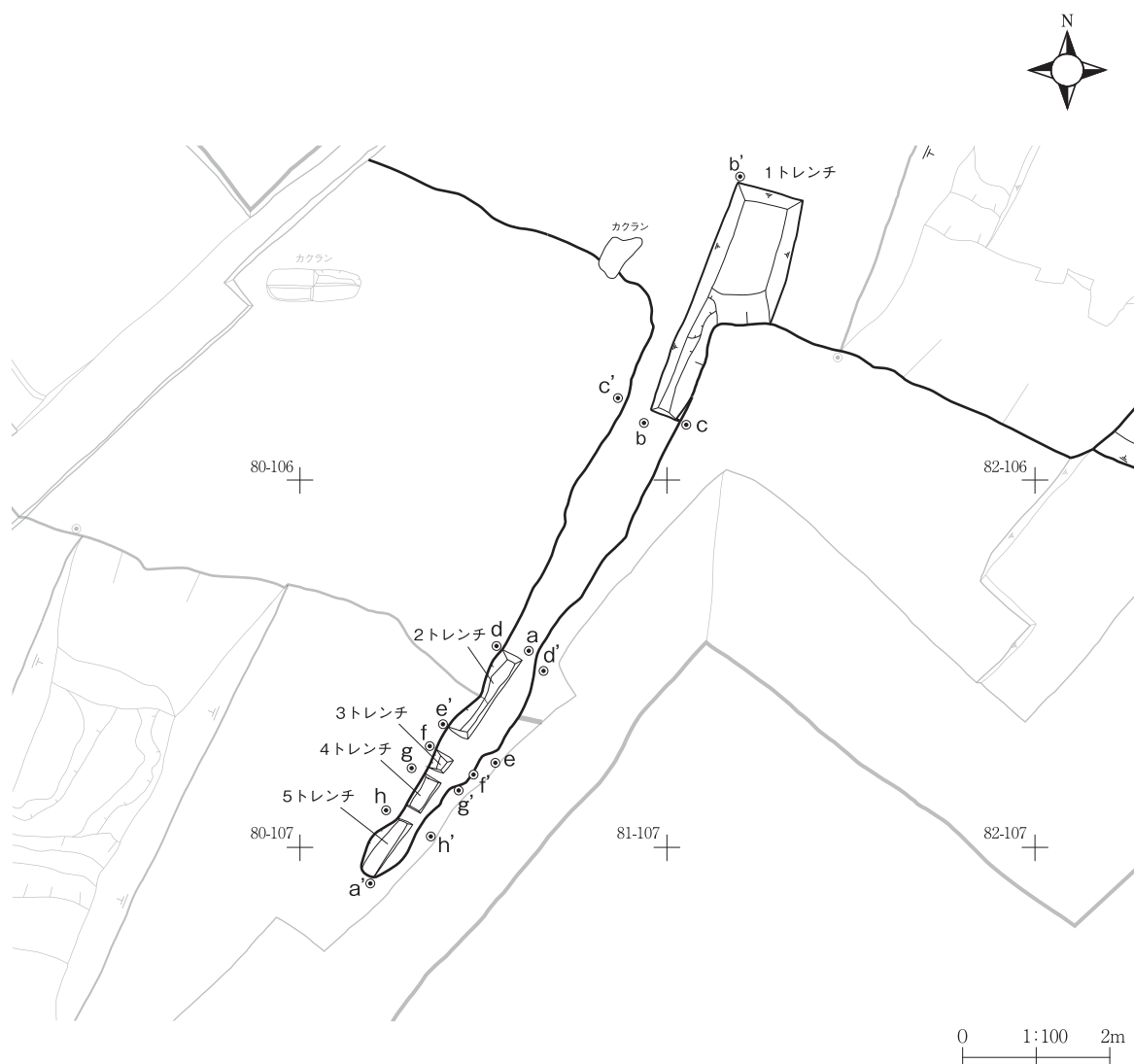


図10 76SD3 平面図

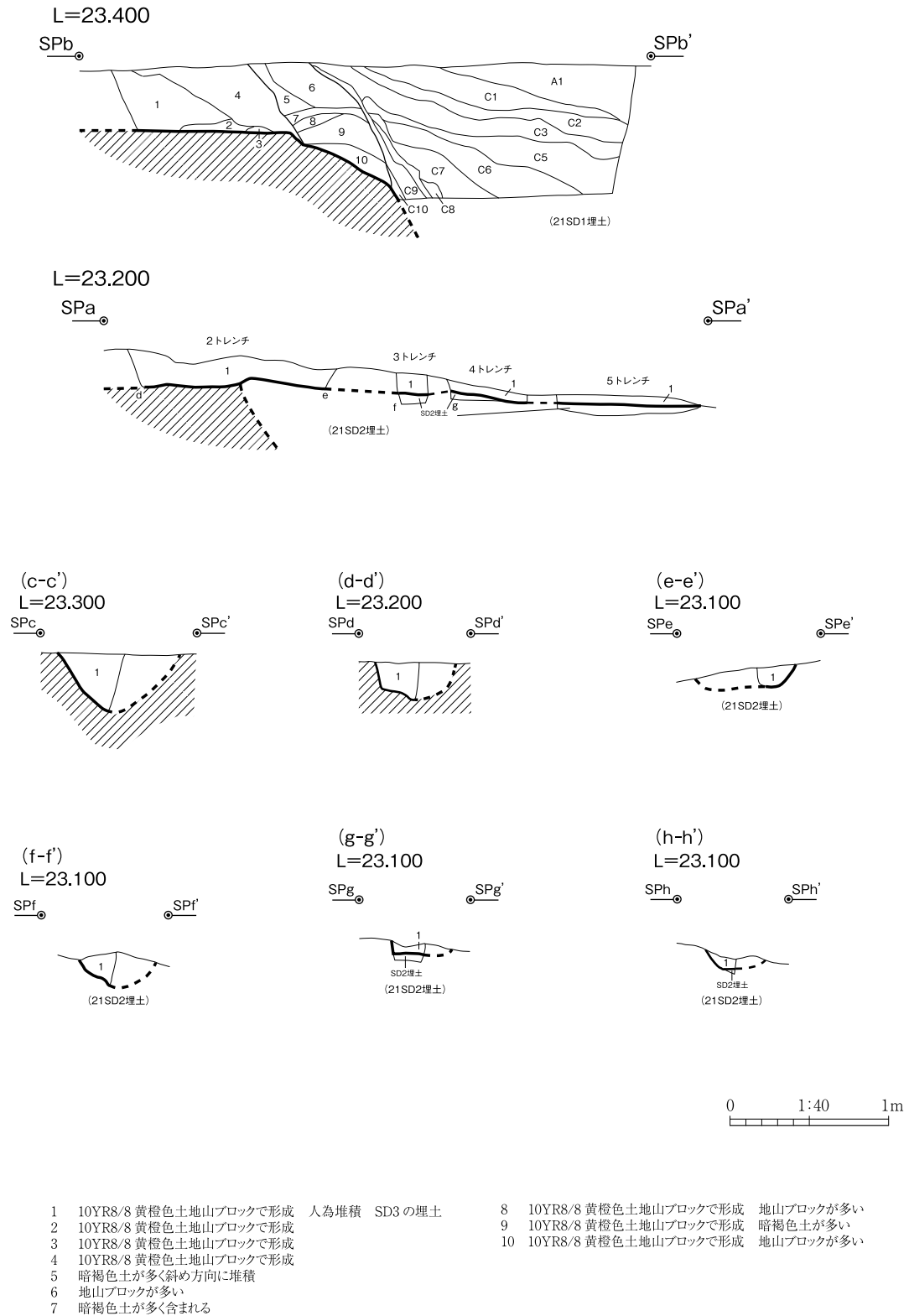


図11 76SD3 断面図



21SD1側の堆積はC層の堆積土である。この土層の特徴については21SD1の項目で記した通りである。C層と5～10層との層界部分では地山ブロックを主体に構成される土層同士の間層として、旧表土の可能性のある暗褐色土が薄く堆積しており（C9層）、ここを掘の端部とみなした場合に21SD1の他の位置での平面的な関係とも整合するため、この部分と6～10層の層界が表土となる時期が想定できる。したがって、76SD3を埋め戻し、端部を埋め戻しもしくは一部が崩落した後に、21SD1を埋めるように斜め方向に人為堆積土が崩落したものと判断した。

このほか、21SD2と接する部分に4カ所のトレンチを設定した（2～5トレンチ）。いずれのトレンチでも、76SD3は1トレンチ1層と同一の土層で埋め戻されている。地山面が検出面となる範囲が多いが、1層との間には間層をはさまず、直接地山面の掘り込みの直上に堆積する。21SD2と重複する範囲はいずれの土層も地山ブロックを多く含む人為堆積土層のため、平面での確認が難しい部分もあるが、21SD2の土層は暗褐色土などの旧表土等とみられる土質も含む一方で、76SD3の1層はほぼ黄褐色土の地山ブロックのみで構成され暗褐色土等の異なる土質を含まないことから両者を区別できる。平面的な確認およびトレンチでの断面の観察から21SD2→76SD3の構築順序の前後関係を確認できる。

遺物は1トレンチで出土しているが、多くは21SD1-C層からの出土である。76SD3の埋土は、遺物を含まない、上述の通りほぼ黄褐色の地山ブロックのみで形成される土層である。

#### (4) その他の遺構

##### 土坑・柱穴（表4・図3）

今回の調査区では土坑が3基、柱穴が9個確認された。平面での検出にとどめており、12世紀代以降の遺構も含まれるとみられるが、規模と位置を一覧表で示す。

表4 土坑・柱穴一覧表

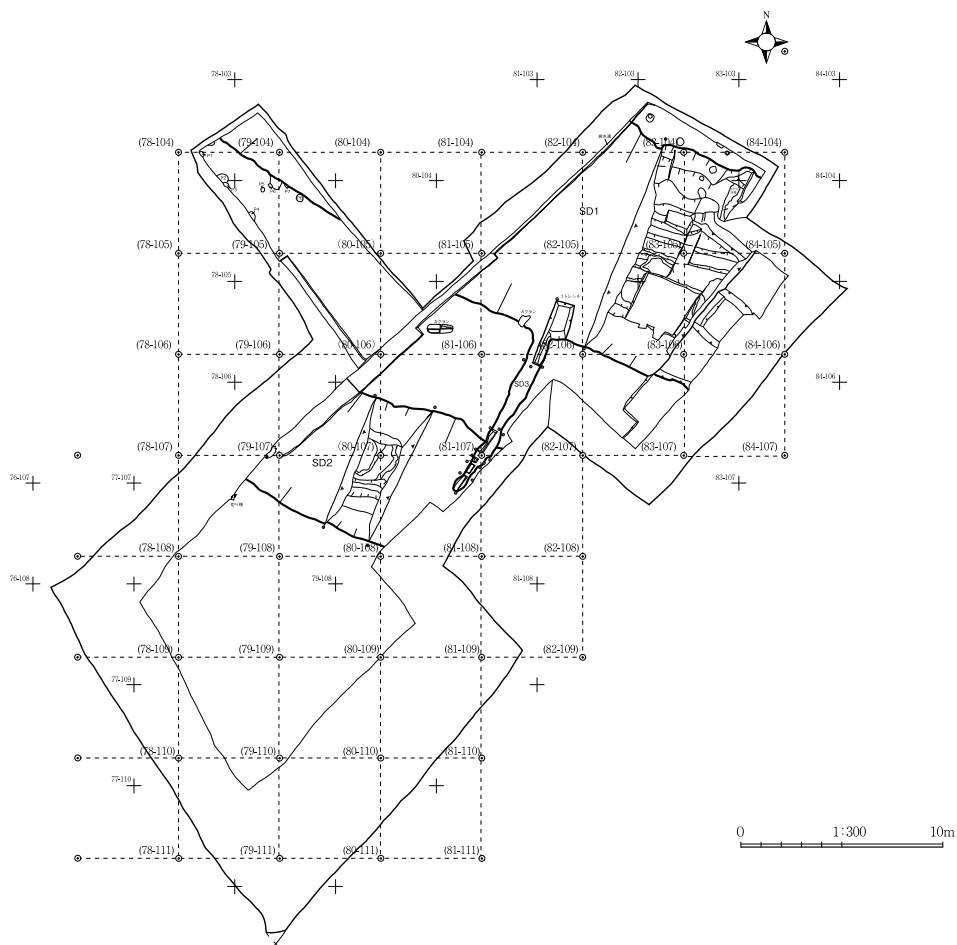
遺構番号	グリッド	規模
		径×径(cm)
76SK1	82-103	41×36
76SK2	83-104	40×36
76SK3	83-104	34×31
76P1	78-104	27×(18)
76P2	78-104	56×(39)
76P3	78-104	37×21
76P4	78-104	52×(22)
76P5	78-104	25×18
76P6	78-104	22×15
76P7	78-104	28×(11)
76P8	79-104	36×34
76P9	83-104	20×19

### 3 出土遺物

出土遺物は総重量で709570.2gである。遺物は総重量のうち、かわらけが326589.5gと最も多く、約80%を占める。次いで陶磁器類が21997.0gと多い。陶磁器類は国産陶器が21744.6gで、このうち渥美窯産と常滑窯産が大部分を占める。その他に須恵器、須恵器系陶器がある。古代の須恵器も坏類が含まれるが、それに対して甕類も多く、それのみでない可能性も高い。輸入陶磁器は57点で252.4g出土している。また、今回の調査範囲では細片が多いが、壁土が4225.2g出土している。

今回の調査区内では近世以降の盛土層を除去した直下に遺構検出面にあたる土層が確認できる範囲が多く、包含層等も多くは遺構内からの出で、その他に遺構検出面においても遺構の平面プラン内からの出土である。

なお、かわらけはおおむね1/4以上残存し器形が復元可能なものを図示し、国産陶器類と輸入陶磁器、瓦は全点を登録し表に掲載、そのうち図示可能なものを示した。また、輸入陶磁器の分類にあたっては「大宰府分類」(太宰府市教育委員会2000)を参考にしている。



( ) は遺物取り上げグリッド

図12 遺物取り上げグリッド

またIで触れた通り、取り上げのグリッドが現在の調査区グリッドと異なる部分が生じている（図12）。表記載の取り上げグリッドについてはこちらの位置と対応する。

表5 76次調査出土遺物数量表

遺構名		かわらけ	瓦	国産陶器	輸入陶磁器	鉄製品	石製品	鉄滓	鉄製品	動物遺体	その他土製品	うち壁土	土師器	縄文土器	合計
21SD1	合計	275994.6	1890.5	20591.8	172.3	264.2	1565.3	1331.5	264.2	46.3	4467.1	3849.9	445.3	539.3	307572.4
	A	203461.8	648.2	11351.7	119.1	44.5	980.4	370.2	44.5	—	297.2	135.2	252.2	155.0	217724.8
	B	48000.7	55.6	6445.6	15.1	4.0	548.7	21.9	4.0	—	113.8	113.8	110.2	107.8	55427.4
	C	13669.9	1073.2	782.4	14.5	215.7	—	459.4	215.7	—	3954.9	3499.7	66.1	82.0	20533.8
	D	3737.0	—	1248.7	—	—	23.3	—	—	—	5.1	5.1	11.0	53.9	5079.0
	検出面・攪乱	7125.2	113.5	763.4	23.6	—	12.9	480.0	—	46.3	96.1	96.1	5.8	140.6	8807.4
21SD2	合計	37283.2	650.9	505.8	63.8	0.0	92.5	319.3	22.0	0.0	89.3	82.7	30.4	232.3	39289.5
	トレンチ	36728.0	647.6	505.8	63.8	—	92.5	319.3	22.0	—	89.3	82.7	30.4	232.3	38731.0
	検出面	555.2	3.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	558.5
76SD3	トレンチ(SD1 C層)	3599.2	210.5	39.3	—	—	—	—	6.7	—	316.0	292.6	—	5.7	4177.4
	その他	1405.4	—	23.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7.1	1435.9
検出面・その他		8307.1	104.5	584.3	16.3	—	27.3	6.8	30.8	1.5	26.4	—	58.7	925.4	10089.1
合計		326589.5	2856.4	21744.6	252.4	264.2	1685.1	1657.6	323.7	47.8	4898.8	4225.2	534.4	1709.8	709426.2

※ 重量の単位はいずれもgである。

### 【土器・陶磁器類】

#### 21SD1出土遺物

21SD1は掘り下げを行ったのはトレンチ部分のみだが、多くの遺物が出土している。検出面を含めて、かわらけが275994.6g、国産陶器が20591.8g、輸入陶磁器が172.3g出土しており、このうちかわらけ216点、国産陶器598点、輸入陶磁器45点を図示した（1～859）。ただし多くは検出面や上層の近世の堆積とみられるA層からの出土である。また、A層以外の土層も自然堆積土層からの出土で原位置を保つものではない。以下では下層の出土遺物から記述する。

1～31はD層とした下層の自然堆積層から出土したかわらけである。1～3はロクロかわらけの大皿、4～24は手づくねかわらけの大皿、25～30は手づくねかわらけの小皿である。ロクロかわらけは器高が低い皿状の器形である。手づくねかわらけの大皿は口径が15.5cmと大きい個体もみられるが、多くは14cm以下の器形である。また、その中でも12～13cmと口径が小さい器形の資料が多い点は特徴的である。31は内折れかわらけである。32～44は国産陶器類である。甕類の体部片が多いが41・44など片口鉢片も含まれる。甕類では押印が確認できる資料もある。D層からの遺物はかわらけも含めて出土が少ないが、手づくねかわらけが多く、器形からも後出の特徴をもつ。

人為堆積土層にあたるC層からの出土資料は人為堆積土層およびその間層に入る炭等が混じる土層からの出土である。45～55はロクロかわらけ大皿である。器高をみると4cm近いやや高い器形のものもみられるが、多くは3cm前後以下の低い器形のもので皿形の器形を主体とする。体下部から底部の器形では54のように底部が突出して立つ器形の資料もみられる。56～63はロクロかわらけの小皿である。64は底部のみで小形の資料だが、柱状高台状の器形である。65～86は手づくねかわらけ大皿である。口径は14cm以上のものみられるが、13cm以下の小形の器形が多い。器高はやや高い器高の資料も含ま



れる。87～92は手づくねからけ小皿である。93～110は国産陶器類である。93、94は片口鉢の口縁部、95、102は山茶碗とみられる。その他、甕類の体部片が多い。111～114は輸入陶磁器類である。いずれも白磁で壺類が多い。

B層は12世紀代以降の遺跡廃絶後の自然堆積土層で出土遺物も多い。115～129はロクロかわらけの大皿である。口径は14cm以下で器高が3.5cm以下の資料が多い。多くは皿形の器形だが、椀型に近い器形も少量含まれる。128のように底部が突出する形態もあるが、130～135はロクロかわらけの小皿である。136～209は手づくねかわらけの大皿である。口径が15cmを超える大型の器形がある一方で、13cm以下の小型の器形も多く含む。210～228は手づくねかわらけの小皿も口径が9cmを超える器形もあるが、多くは8cm前後以下の器形である。229～232は内折れかわらけである。233～316は国産陶器類である。多くは甕類の体部片だが、片口鉢や片口碗(287)も含む。317～319は輸入陶磁器類である。317は白磁壺類、318、319は青白磁である。

A層は近世を含む12世紀以降の自然堆積土層である。かわらけは完形、細片を含めて多くの量が出土しているものの、遺構の時期決定等に関わる資料ではないことから、完形品等に限って図化した。330、333は内面に油煤が付着する。336～338は内折れかわらけである。339～781は国産陶器類である。782～809は輸入陶磁器類である。検出面での出土資料は810～849は国産陶器類、850～859は輸入陶磁器類である。国産陶器類は甕類、片口鉢、山茶碗を含み、甕類の体部片が多い。押印は縦長格子文が多く、方形の格子文の資料が次いで多い。この他に480のような花文状のものや574のような波状文などもみられる。

21SD1の出土資料の様相をまとめると、A層は12世紀以降の自然堆積土層で遺物の特徴からも複数の時期にまたがる雑多な資料が出土している。B層は下層では完形の資料を含むなど遺跡機能時に近い時期も含むとみられるが、自然堆積土層でもあり複数時期の資料を包含する。手づくねかわらけが多く、器形からも12世紀後半の資料を主体とする。D層は遺跡が機能した段階を含むとみられるが、12世紀後半代の資料が多い。上層のC層とは遺物の特徴からもおおむね同様の傾向を示し大きな時間差は想定できないが、D層に比してC層がやや古相の特徴をもつ遺物もみられる。いずれの土層でも手づくねかわらけを多く含む、ロクロかわらけよりも量比が多い。これらをまとめると器形の特徴から、いずれの土層の出土資料も12世紀後半代のものとみられる。ただし、21SD1の機能時点に近いとみられるD層出土資料や、廃絶時に近いとみられるB層出土資料も12世紀後半代の資料で、そのなかでも後出の特徴をもつものが多く、若干の時間幅が想定できる。

### 21SD2出土遺物 (図29・30)

21SD1は掘り下げを行ったのはトレンチ部分のみだが、かわらけが37283.2g、国産陶器が505.8g、輸入陶磁器が63.8g出土しており、このうちかわらけ71点、国産陶器20点、輸入陶磁器5点を図示した。(860～955)。なお、遺物記載の層の表記は取り上げ時の表記から、東側断面の土層表記と対応する。本文中の記載は上層の自然堆積、人為堆積、下層の自然堆積と大別して記す。登録遺物の観察表の記載も同様である。21SD2からは多くの資料が出土しているが、多くは検出面や上層の近世の堆積とみられるA層からの出土である。かわらけは図化した資料の多くは北側に堆積する人為堆積土層からの出土である。

860、861は人為堆積土層より下層の新期の掘跡の堆積土からの出土である。861は手づくねかわらけの大皿で、口径は復元が難しいが大型の器形が想定できる。862～882は人為堆積土層でもやや下層の資料である。862～864はロクロかわらけの大皿、865はロクロかわらけの小皿で、いずれもやや口径が大きい器形である。皿形の器形ではあるが、器高はやや高い形状である。866～877は手づくねか

わらけの大皿である。871、872、875などの15cm前後と口径の大きい資料が含まれる。一方で、13cm以下の顕著に口径の小さい資料は少ない。878～882は手づくねかわらけの小皿である。883～904は人為堆積土層出土資料でやや上層からの出土資料である。883、884はロクロかわらけ大皿で器高が高い器形である。885、886はロクロかわらけ小皿である。887～900は手づくねかわらけの大皿である。口径が小さい資料も散見されるが、15cm以上と大きいものを含み、口径の全体的な様傾向はやや大型である。901～904は手づくねかわらけの小皿である。905～930は上層の12世紀以降の堆積である自然堆積土層からの出土である。905～915はそのうち下層からの出土で、手づくねかわらけ大皿も口径が14cm前後と小さいものでまとめ12世紀後半のなかでもやや後出の特徴をもつ資料が多い。ただし顕著に口径が小さい13cm前後の資料は少ない。916～930は近世以降を含む可能性がある自然堆積土層である。919は柱状高台、930は穿孔をもつ土製品である。出土は上層のため、出土資料も細片を多く含み、時期的な限定は難しい。931～950は国産陶器類である。いずれも上層の自然堆積土層からの出土である。951～955は輸入陶磁器類で、954・955は人為堆積土層、その他は自然堆積土層からの出土である。953は白磁四耳壺である。

21SD2出土資料では人為的な堆積土からの出土資料もロクロかわらけより手づくねかわらけの数量が多くまとめ、12世紀後半に位置づけることができる。ただし、この土層では口径の大きい形状を一定量含み12世紀後半のなかでは後出のもののみではない。やや古相の段階を含む可能性が高い。自然堆積土層で下層の資料は12世紀後半中でも後出の特徴をもつ資料が多い。

旧期および新期の機能時により近いとみられる下層の自然堆積土層からは図化可能な資料は得られていない。土器類の出土自体がきわめて少なく、この点は12世紀中葉以前の特徴とみなすこともできるが、資料から位置づけることが難しい。なお、旧期の堀跡堆積土にあたる最下層からは後述する横槌が出土した。

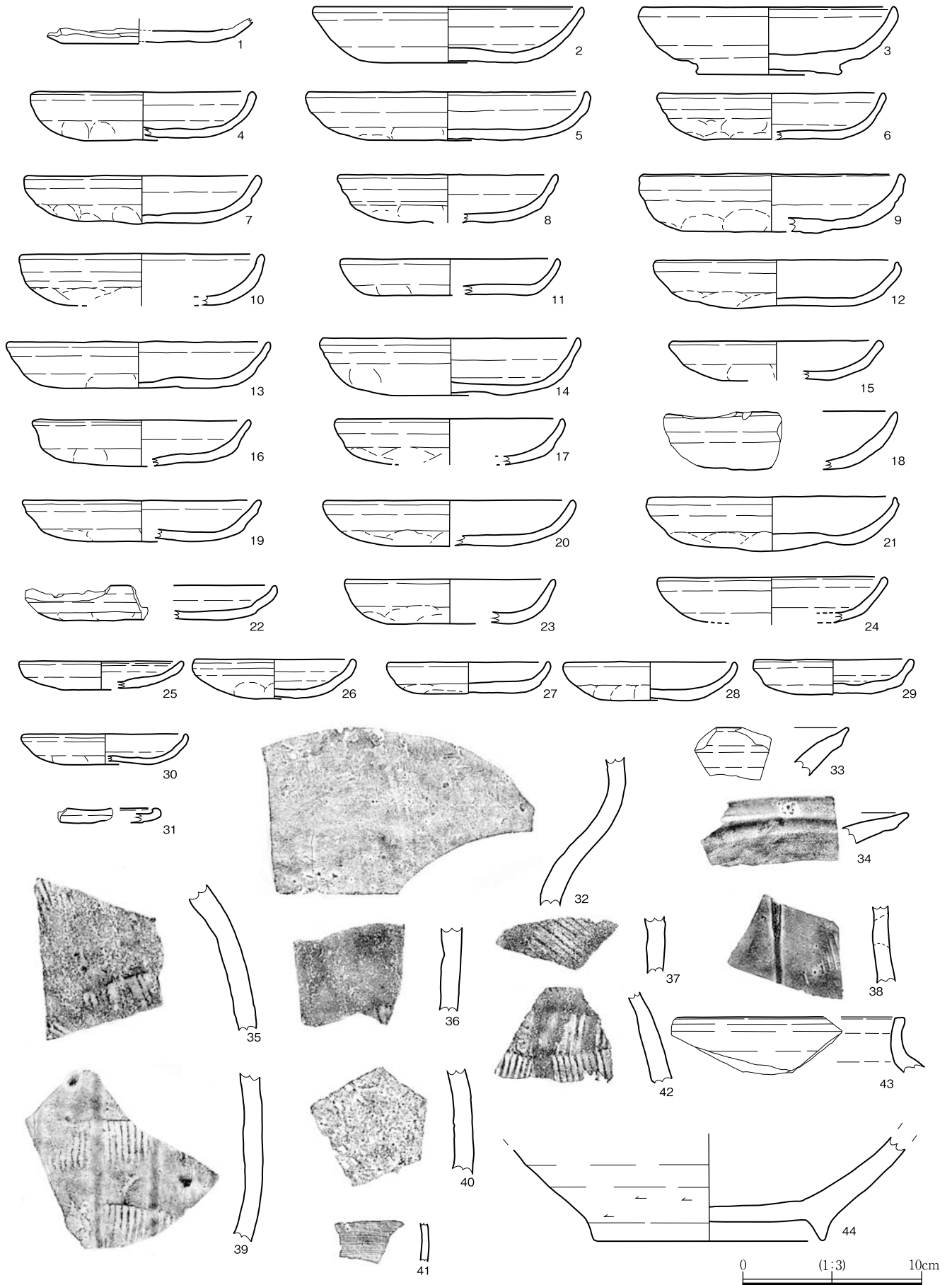


图13 21SD1 出土土器類実測图 1



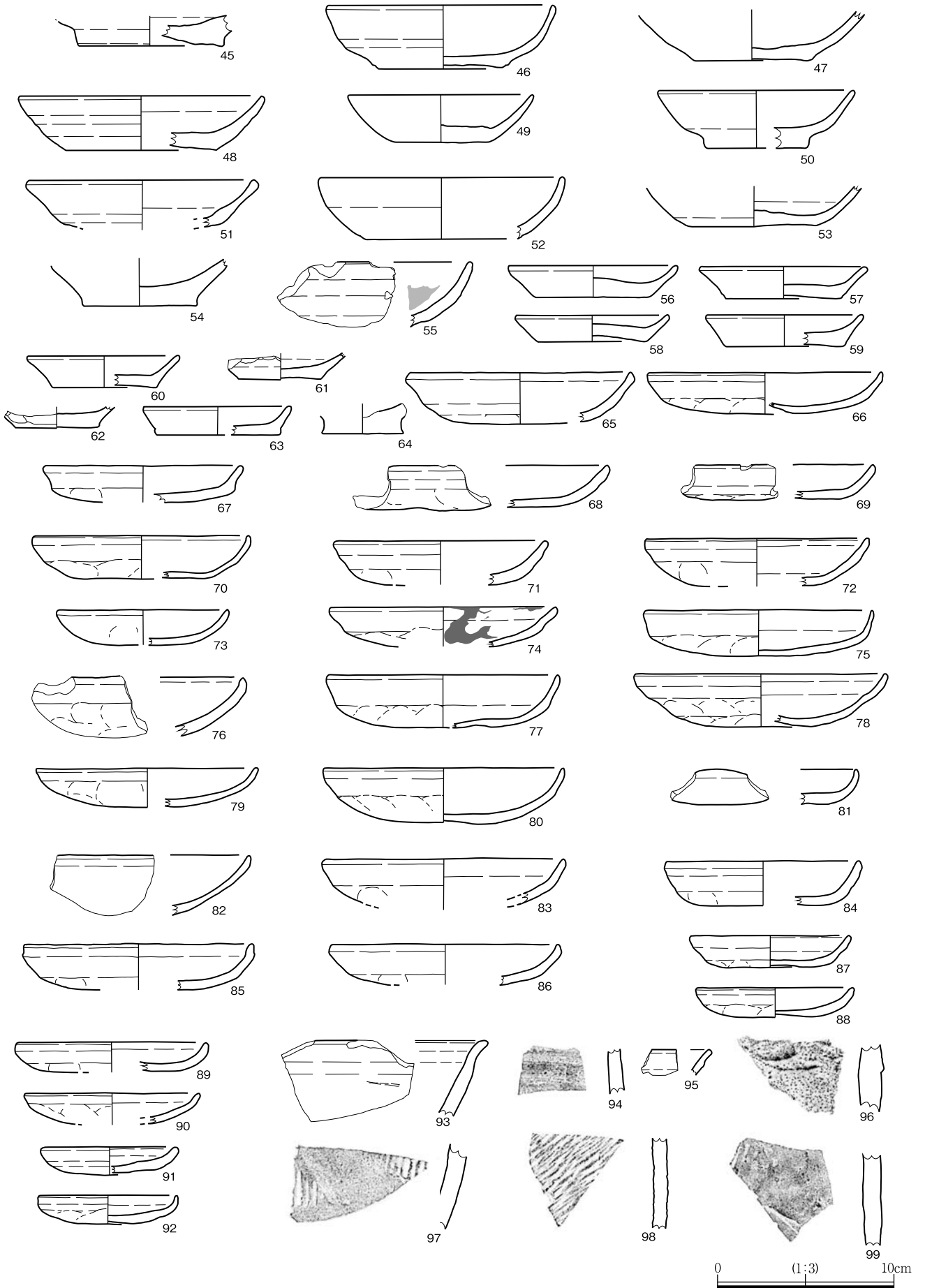


図14 21SD1 出土土器類実測図2

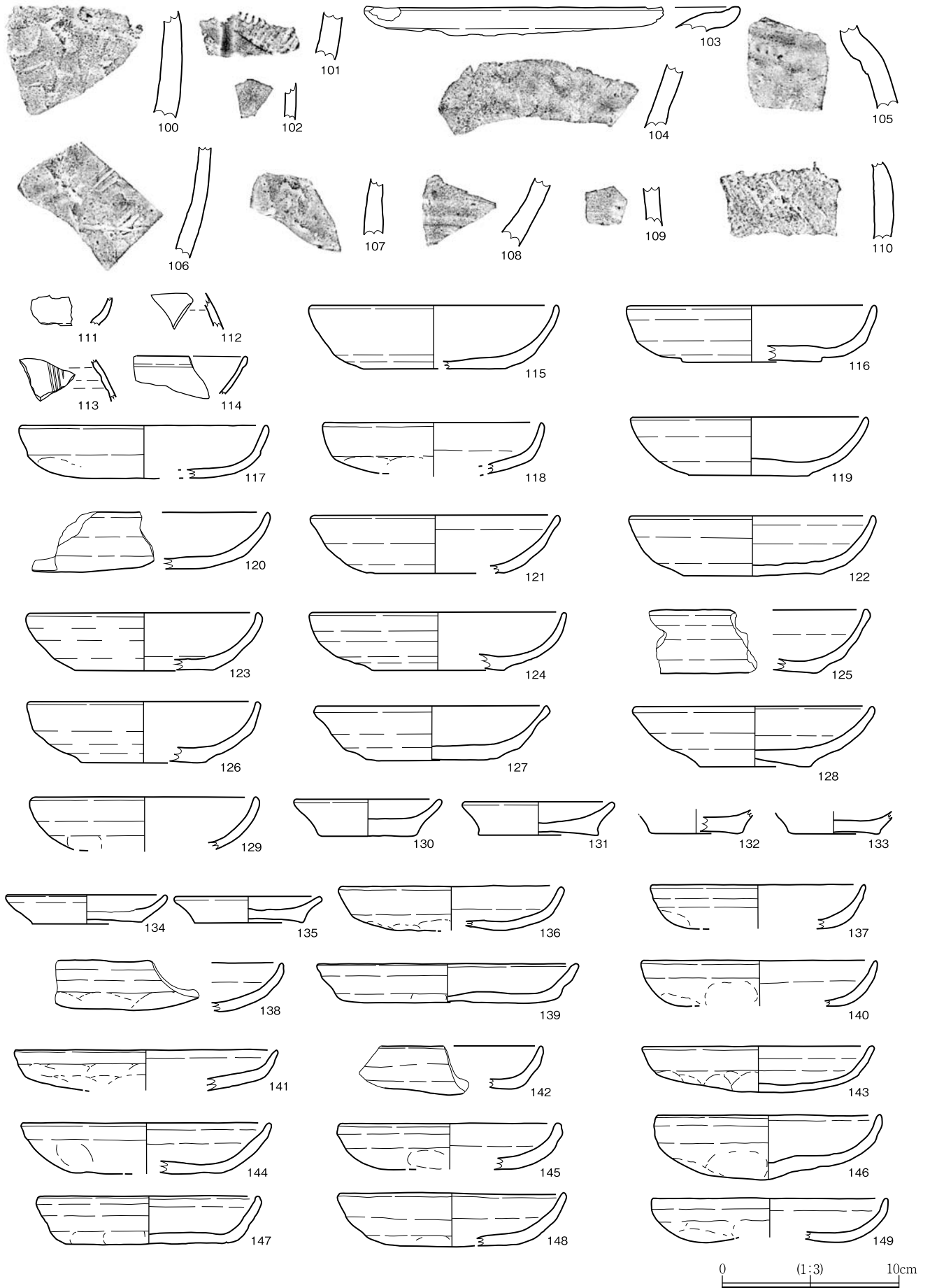


图15 21SD1 出土土器類実測图 3

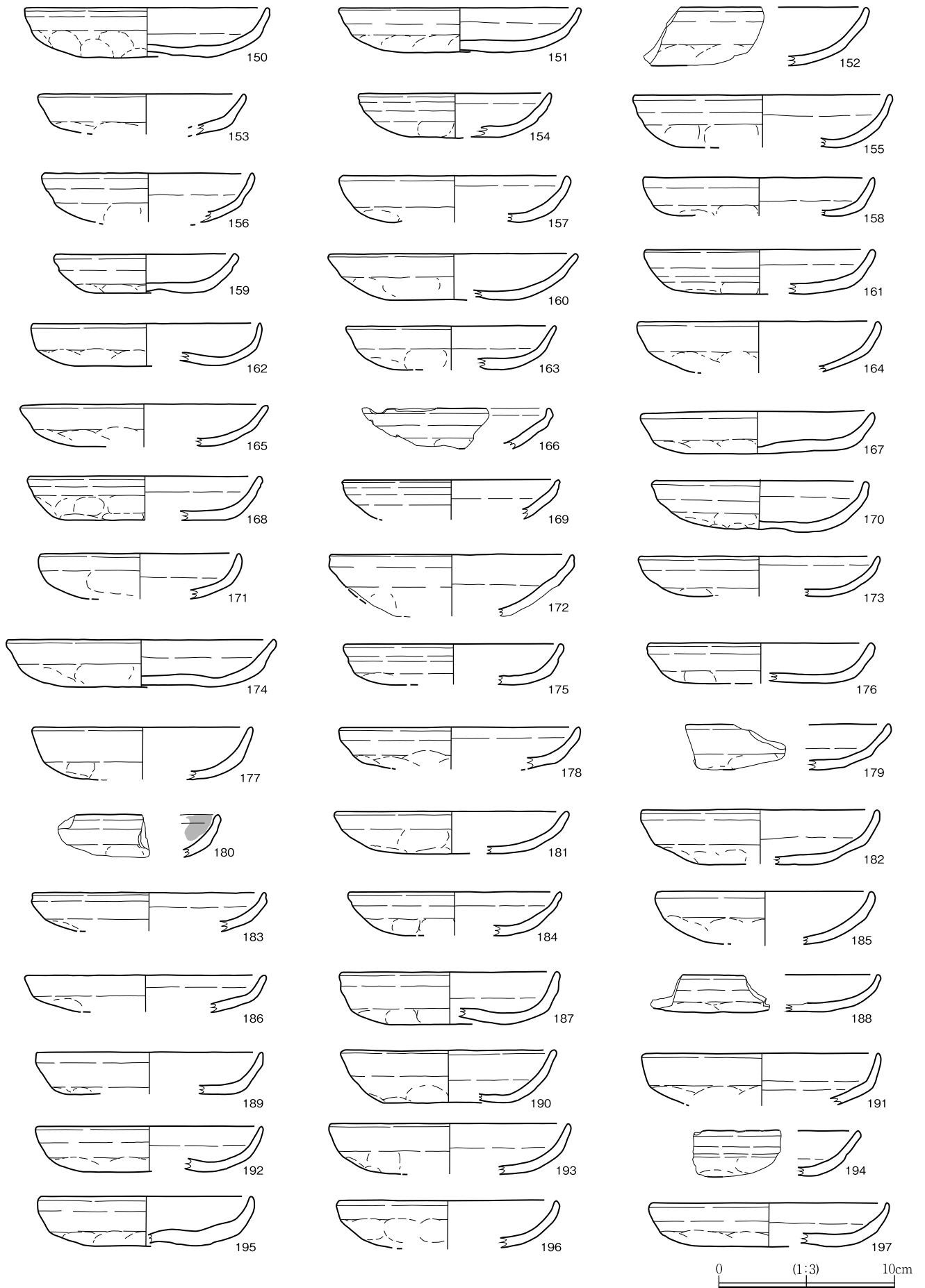


図16 21SD1 出土土器類実測図 4



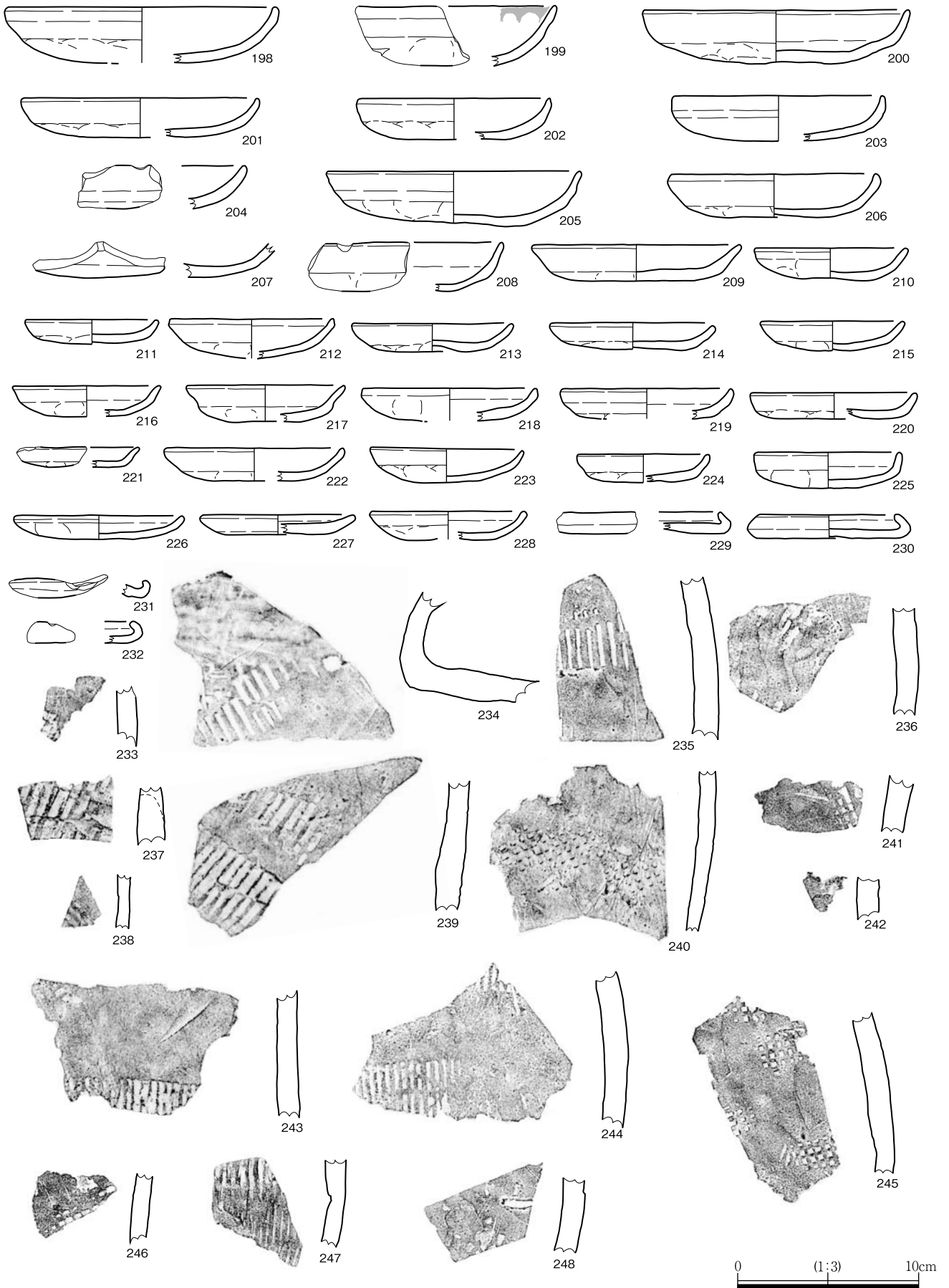


图17 21SD1 出土土器類実測图 5

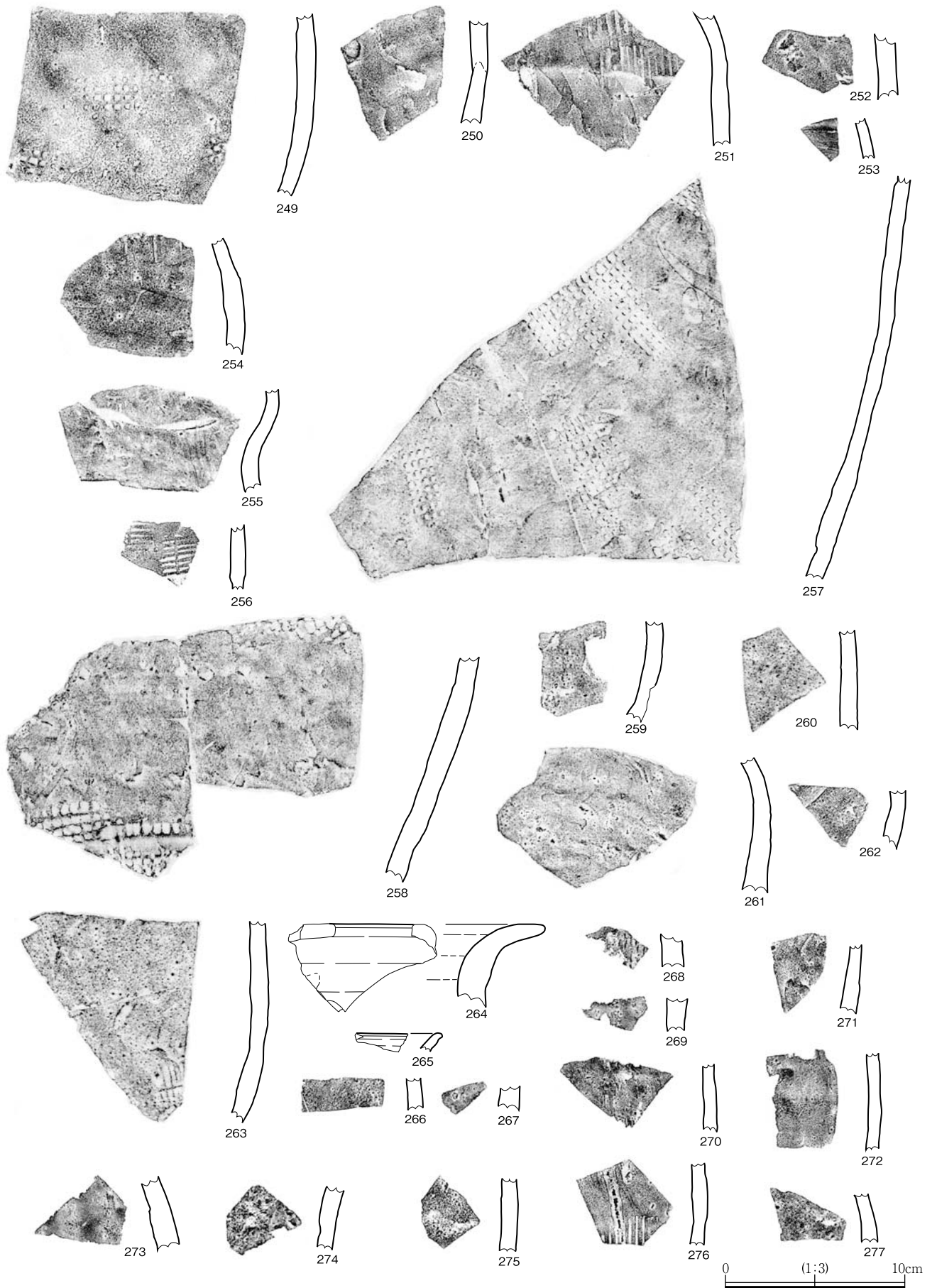


図18 21SD1 出土土器類実測図6

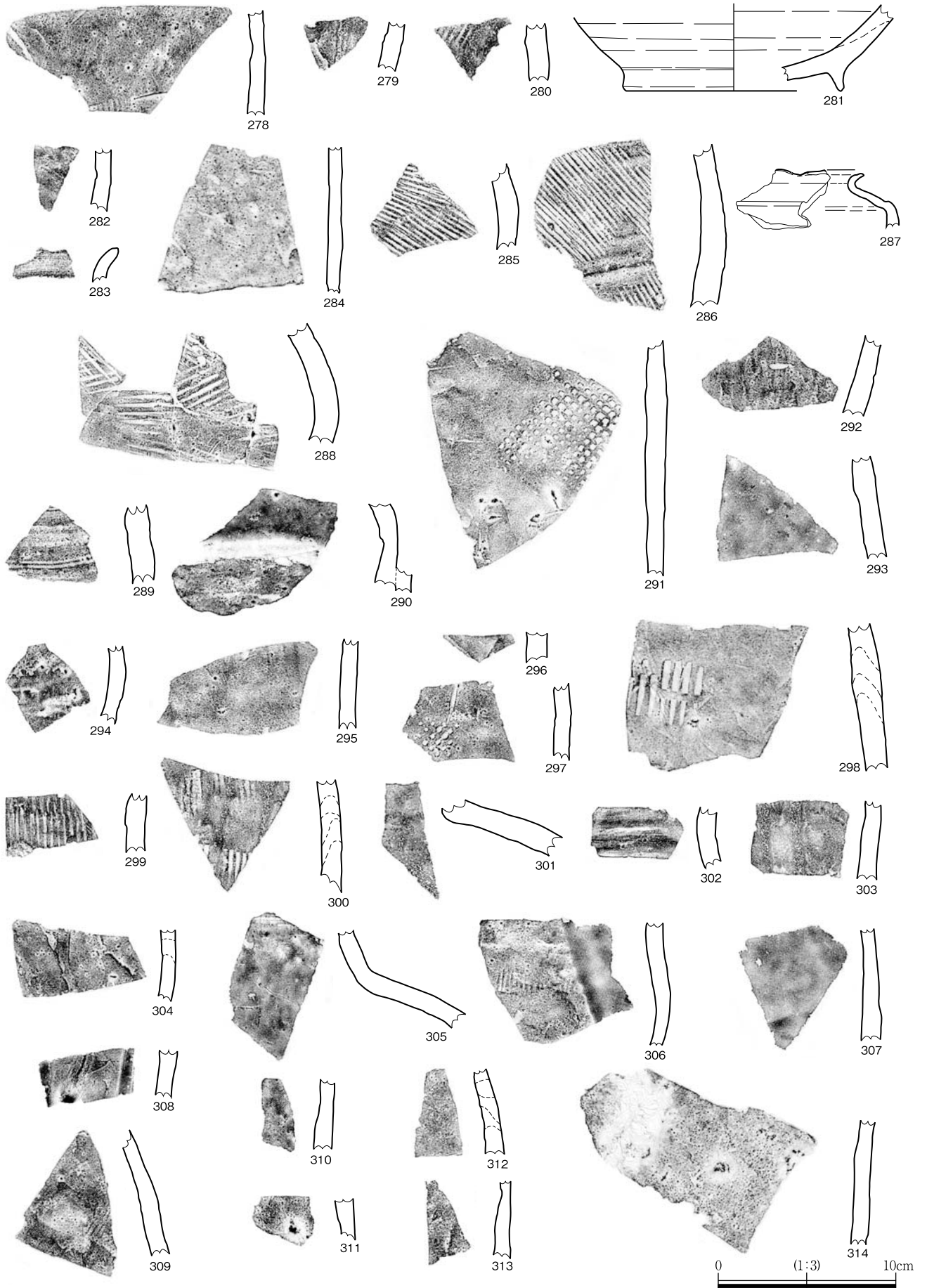


图19 21SD1 出土土器類実測图 7



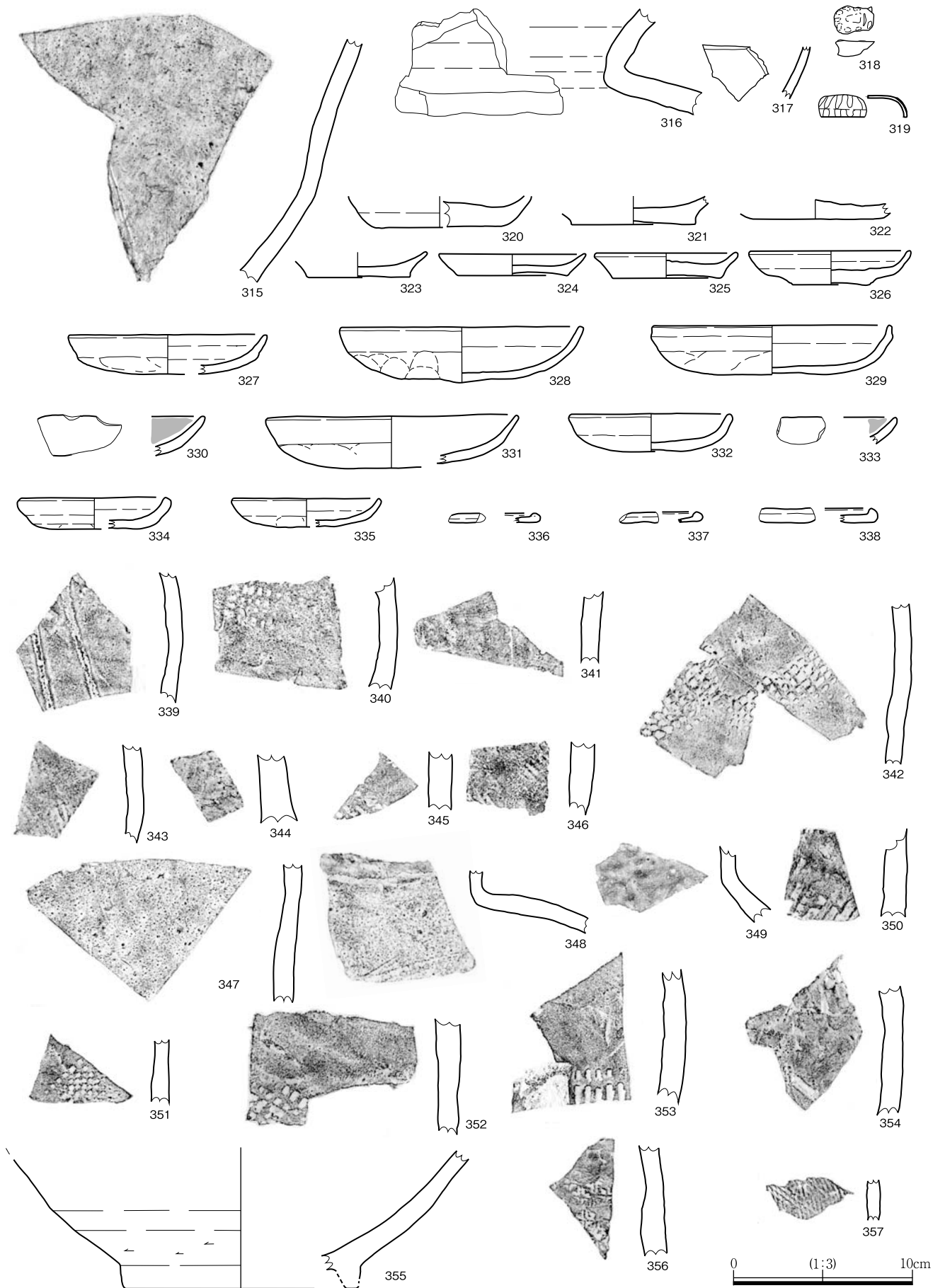


図20 21SD1 出土土器類実測図 8



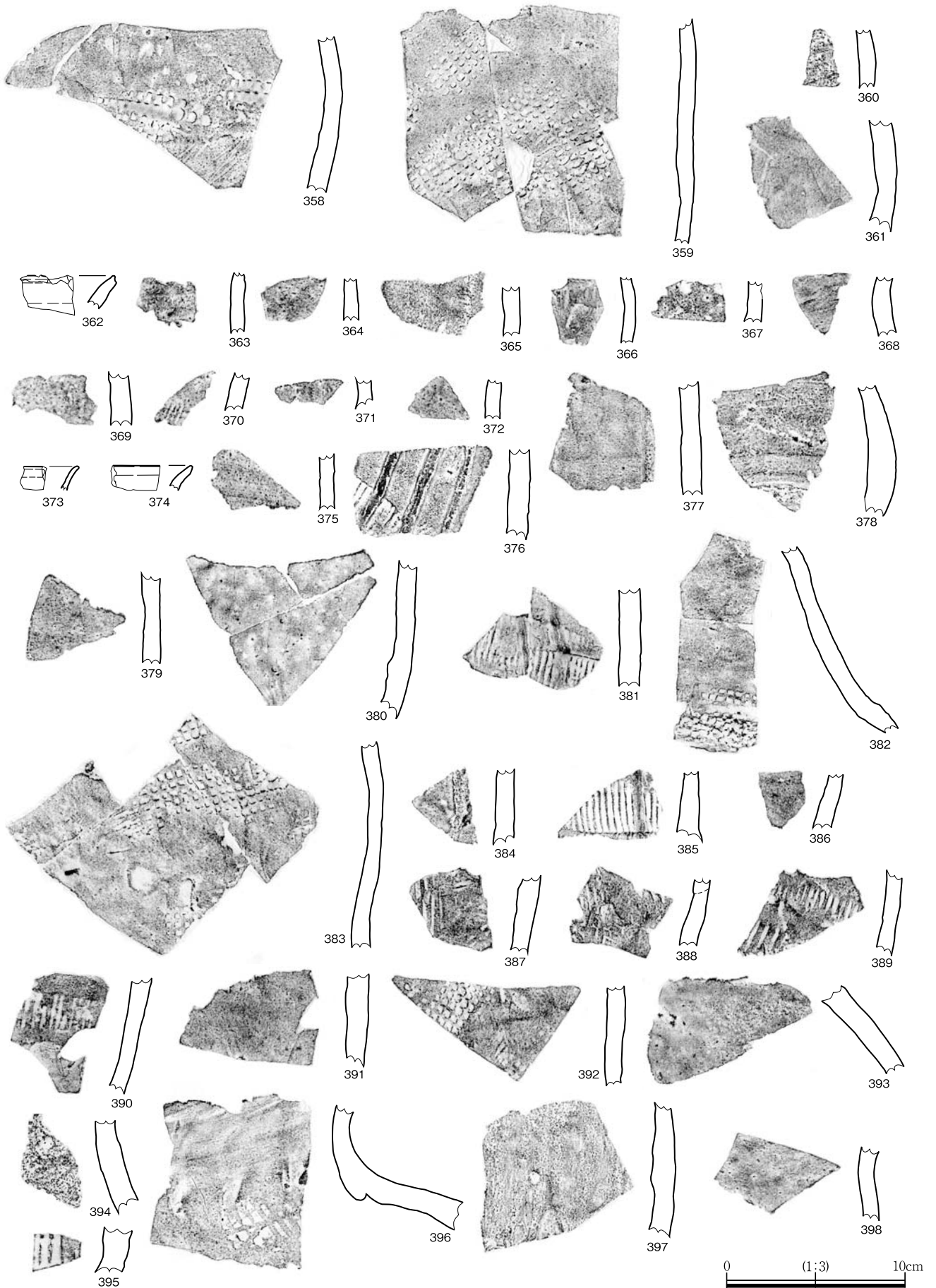


図21 21SD1 出土土器類実測図 9

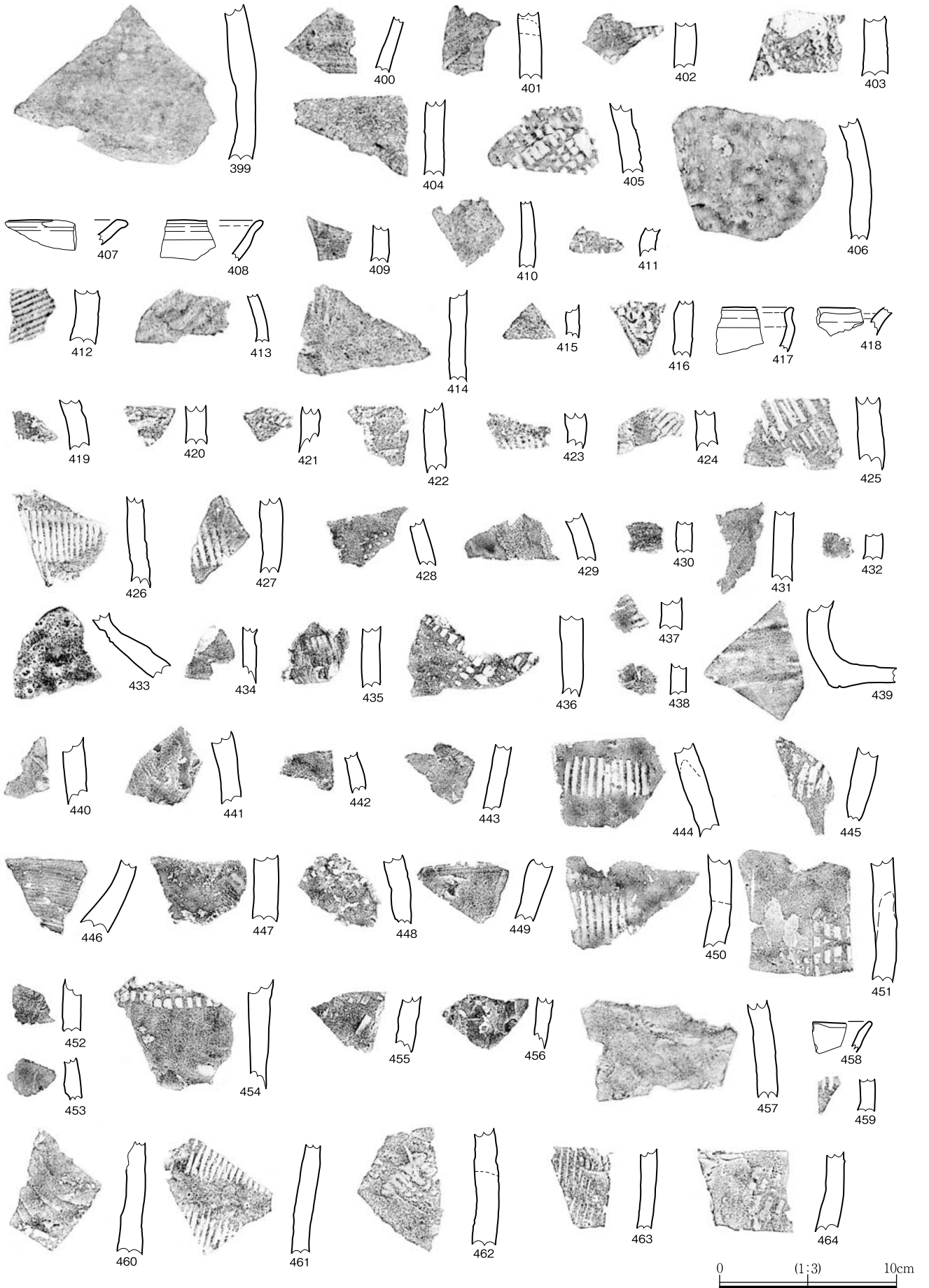


図22 21SD1 出土土器類実測図10



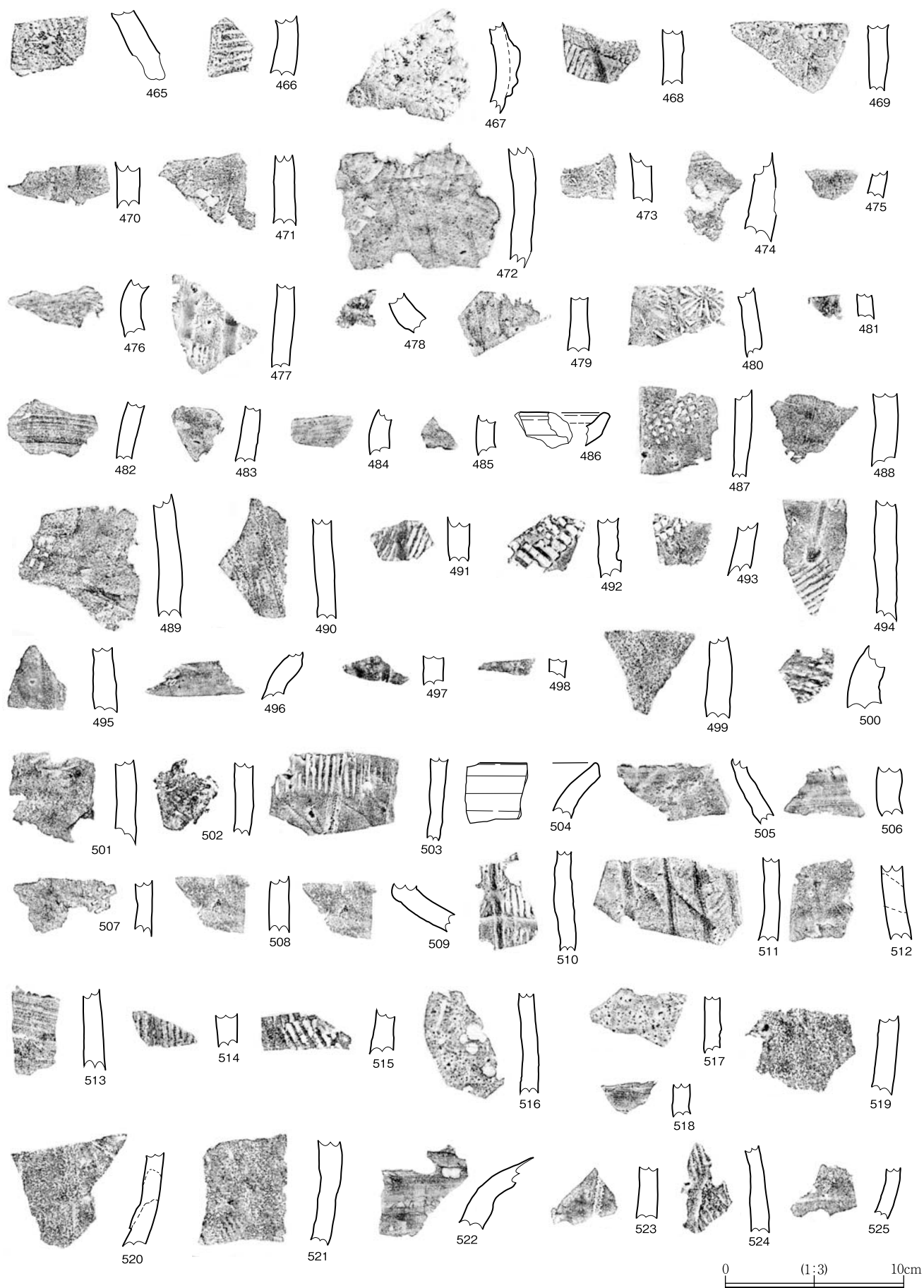


图23 21SD1 出土土器類実測图11

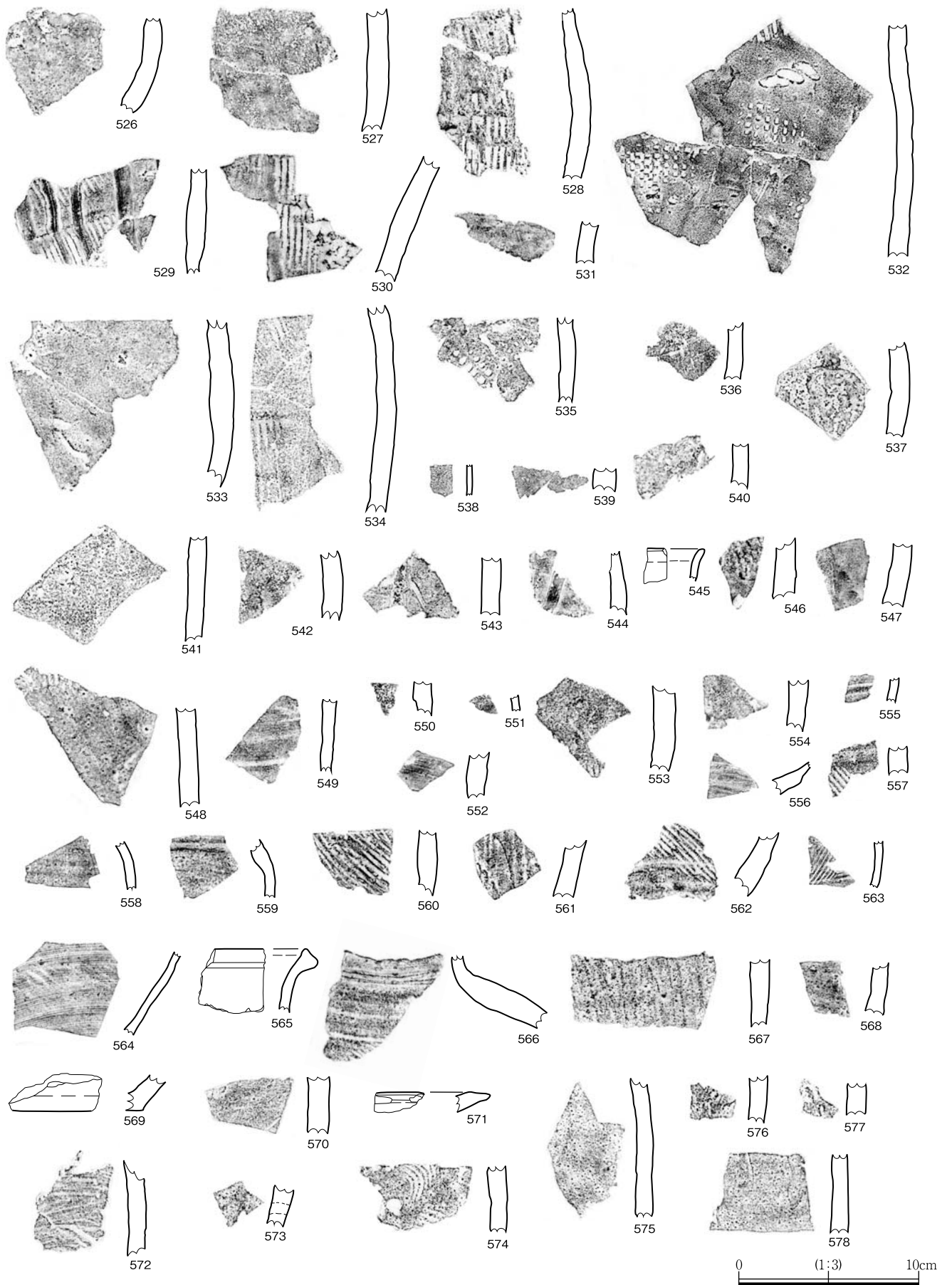


図24 21SD1 出土土器類実測図12



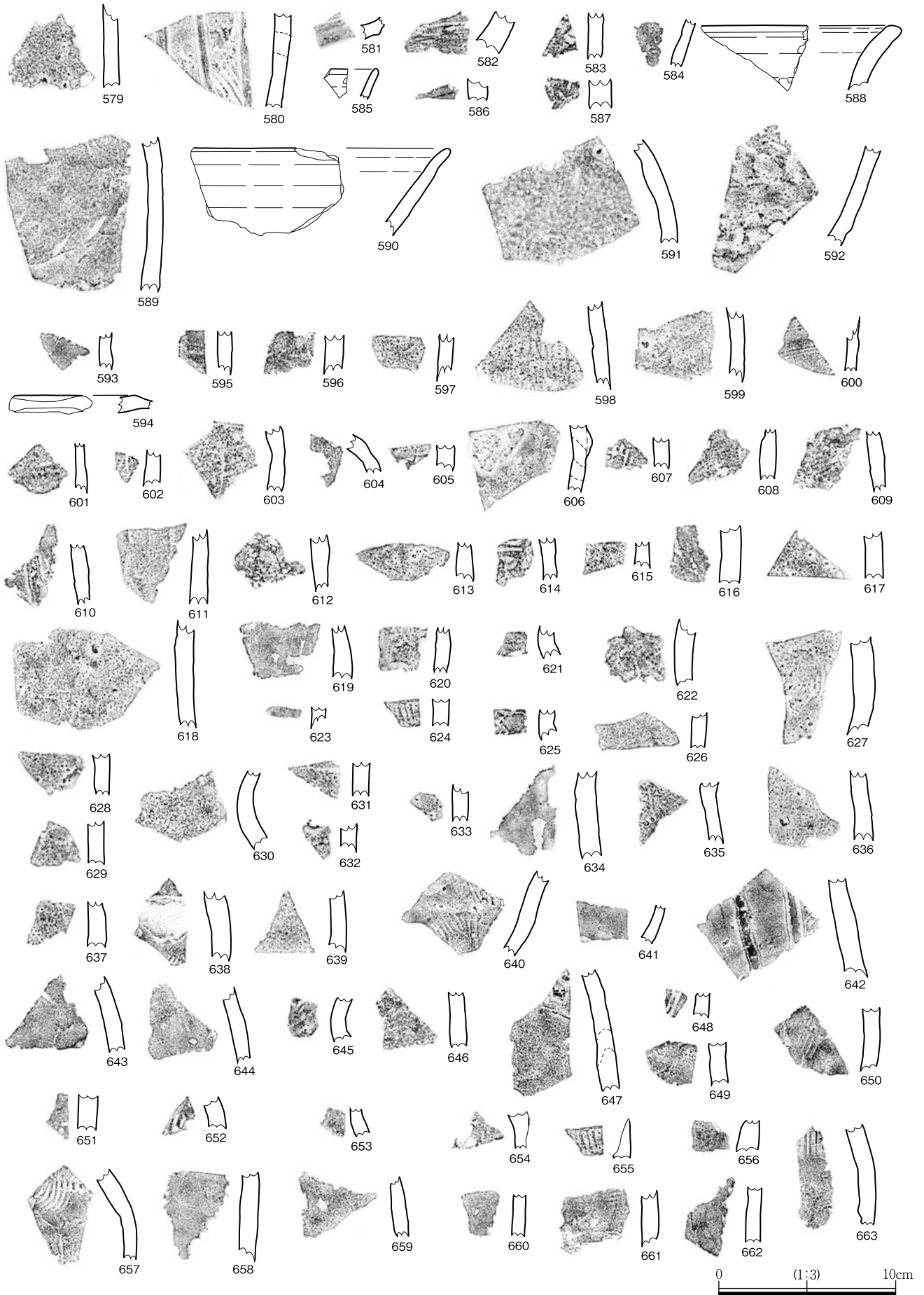


图25 21SD1 出土土器類実測图13

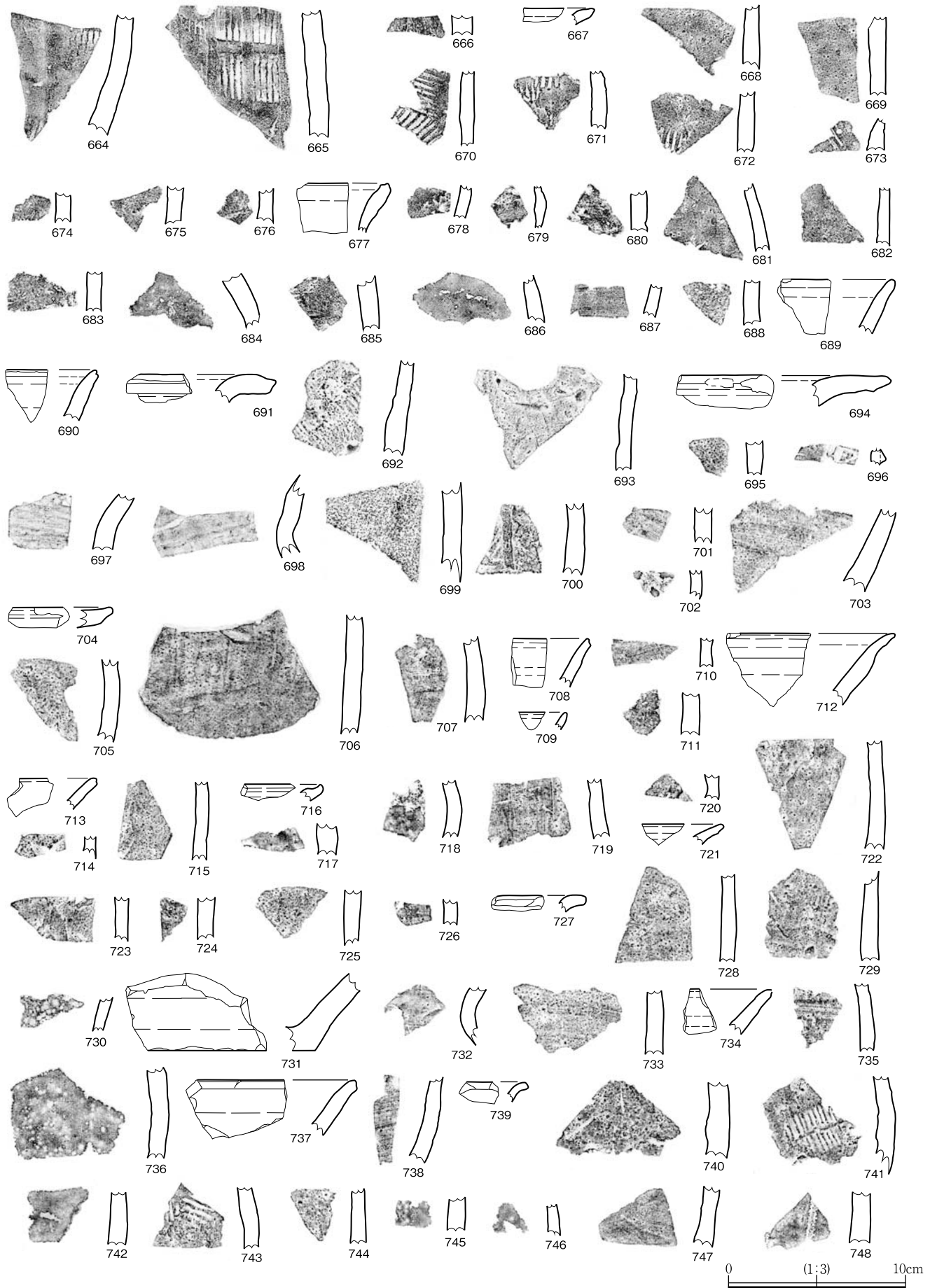


図26 21SD1 出土土器類実測図14

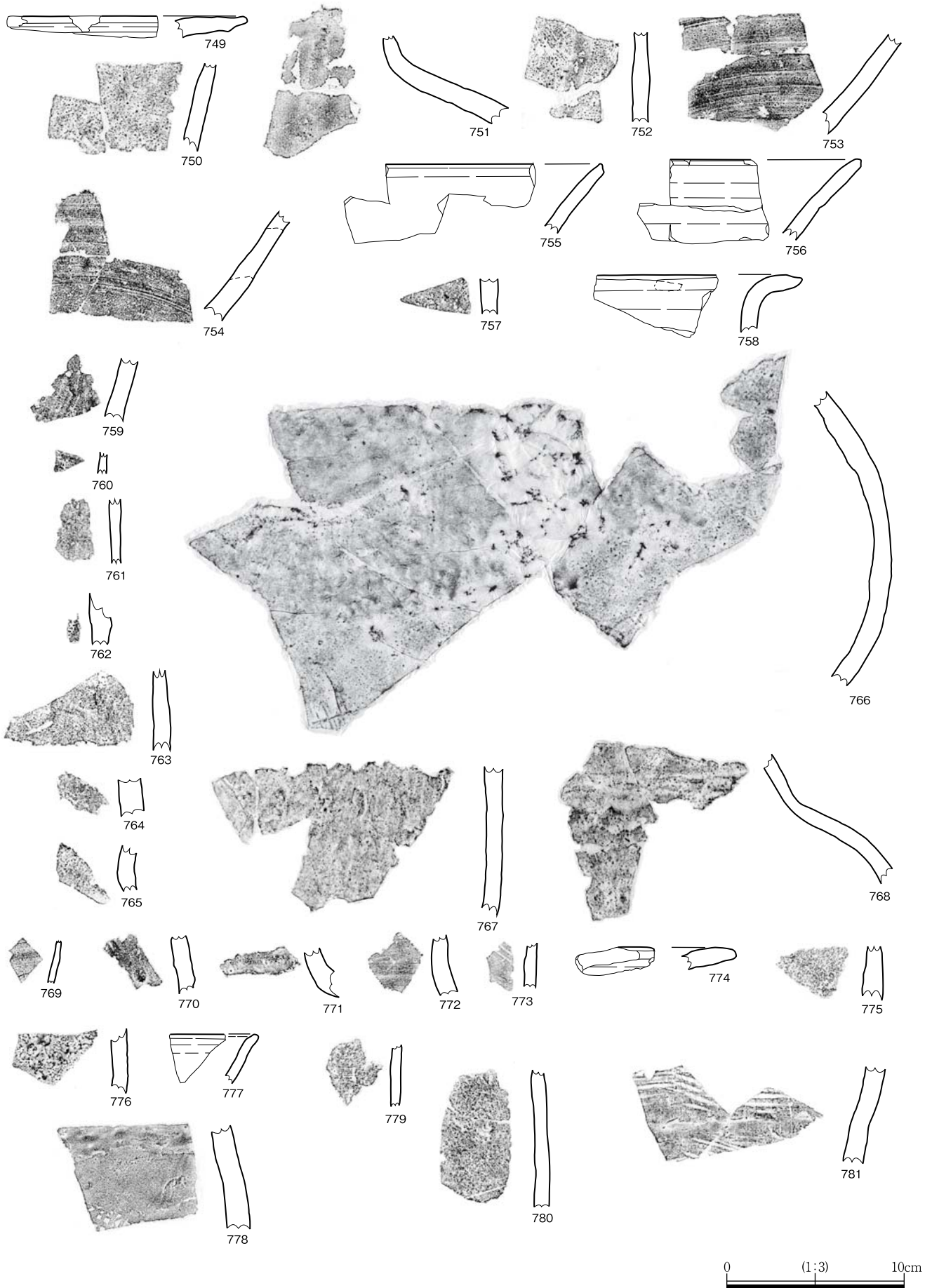


图27 21SD1 出土土器類実測图15



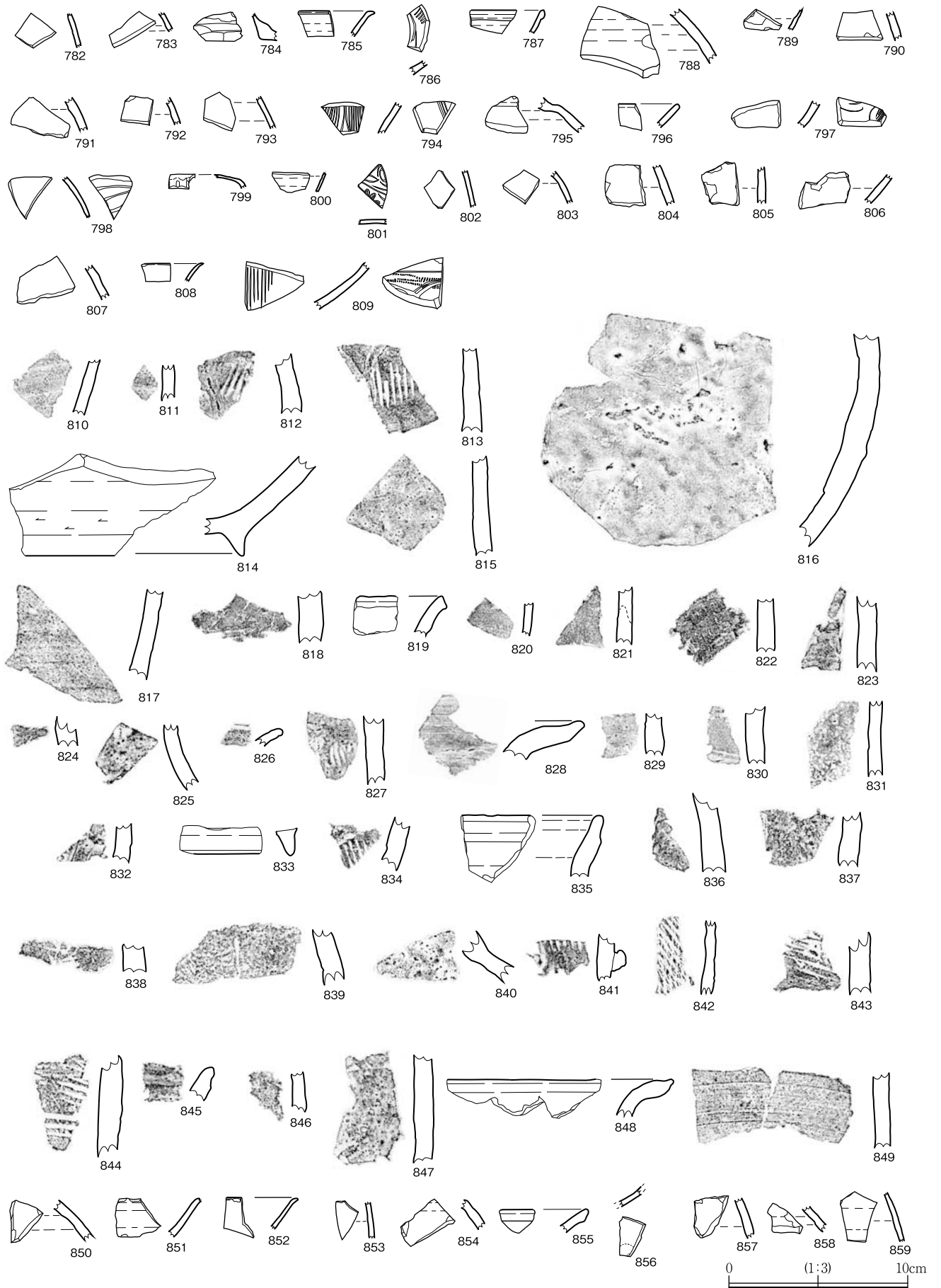


図28 21SD1 出土土器類実測図16



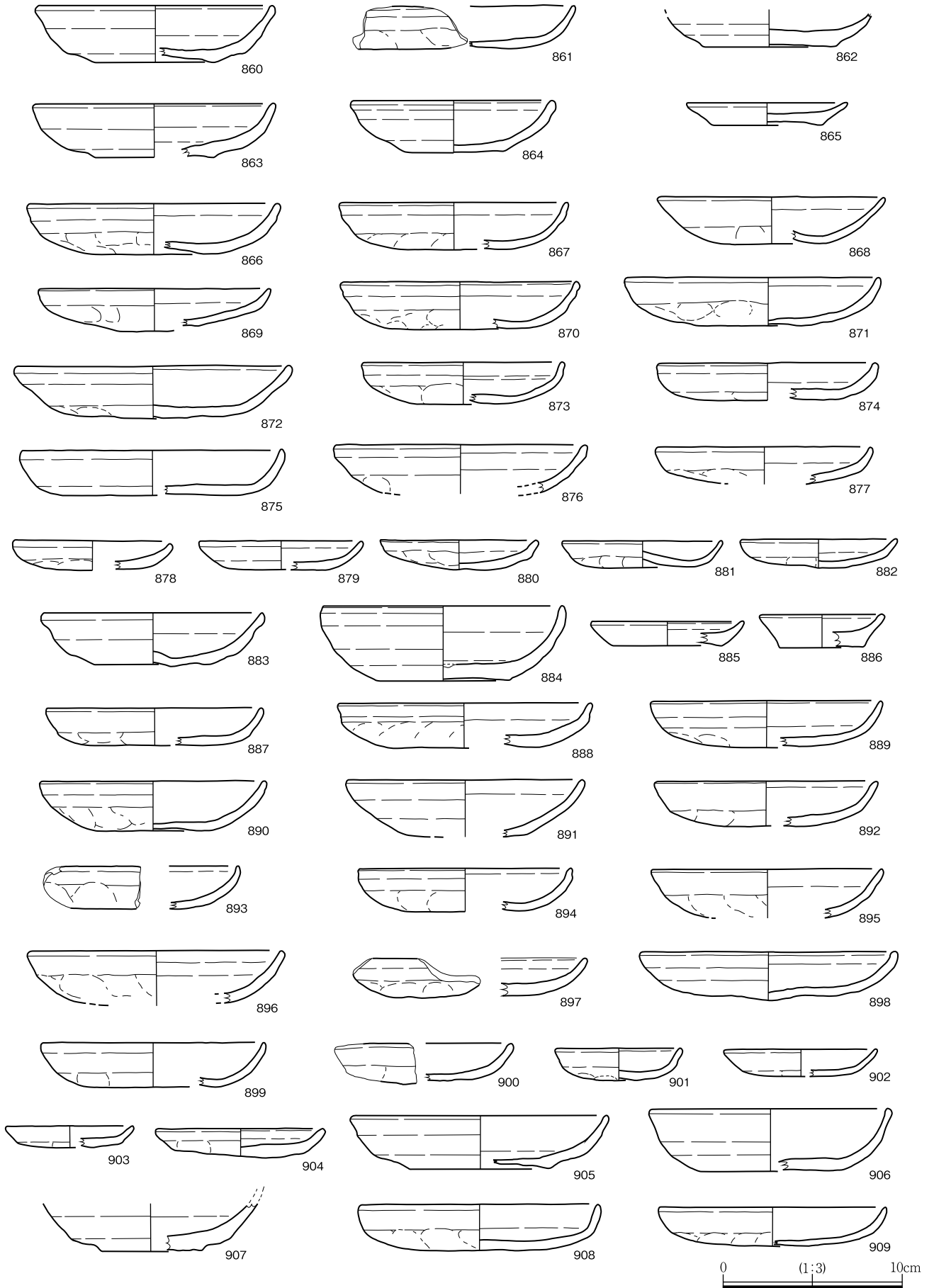


図29 21SD2 出土土器類実測図1

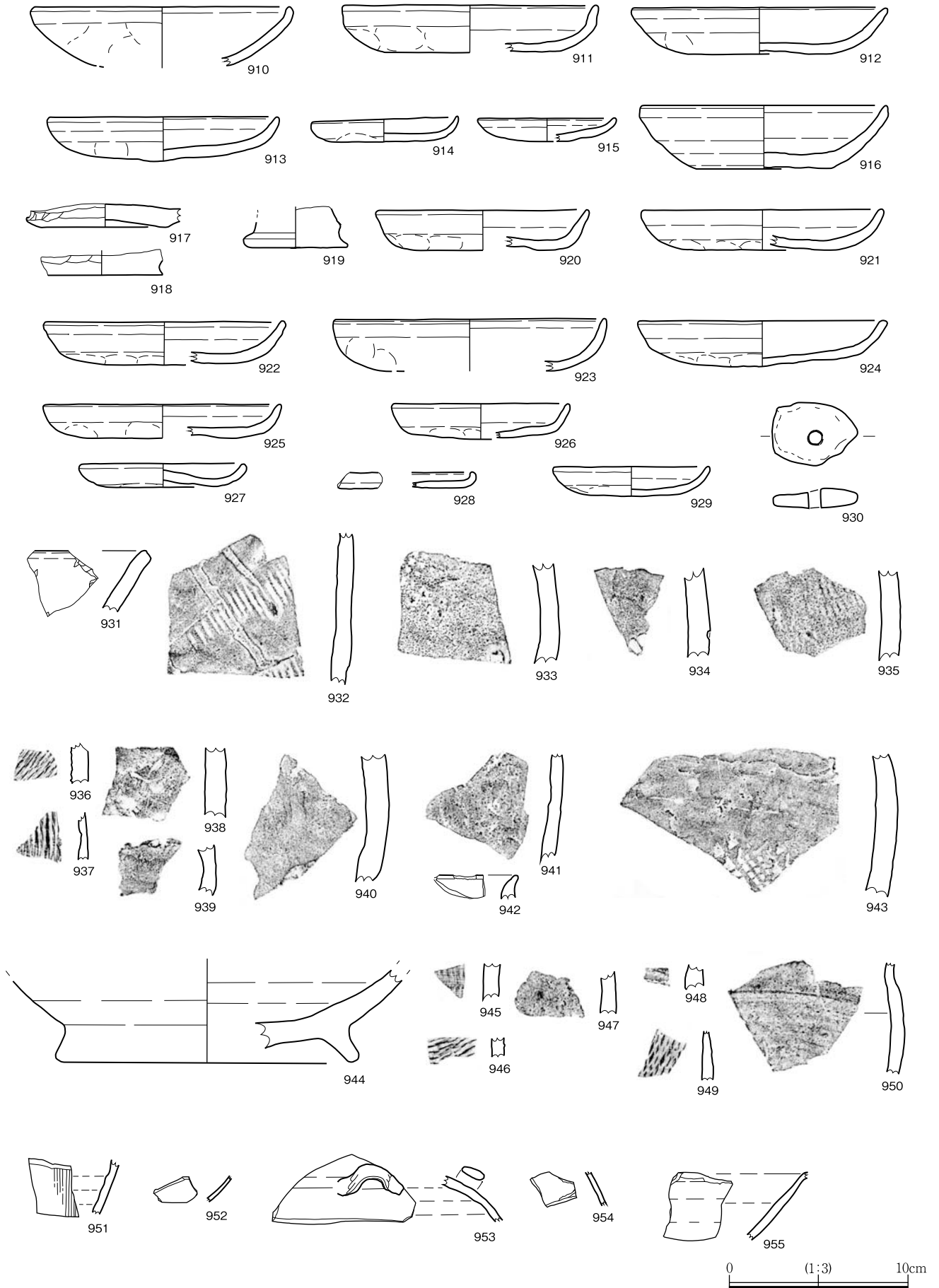


図30 21SD2 出土土器類実測図2

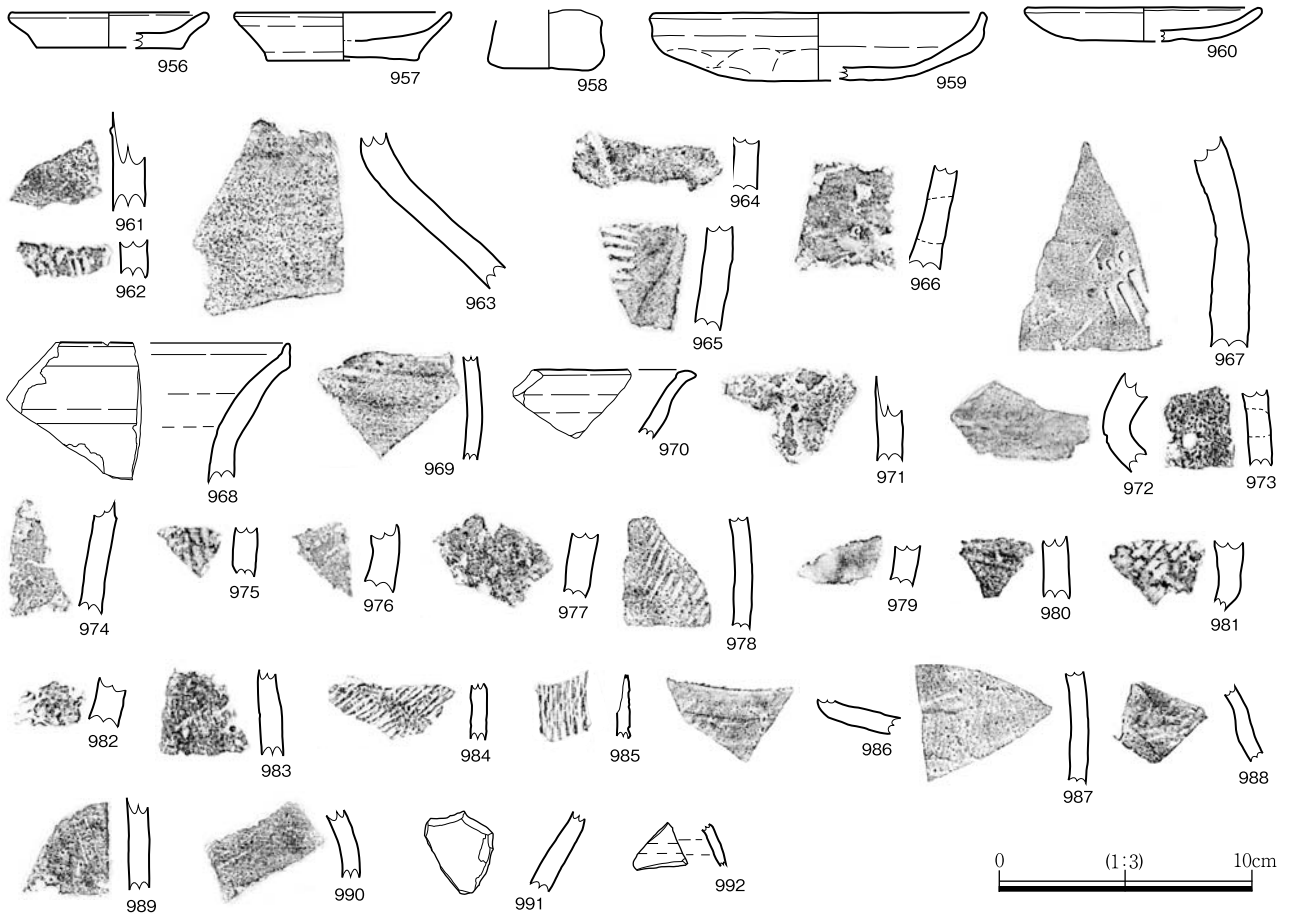


図31 遺構外出土土器類実測図

その他遺構外出土遺物

かわらけ5点、国産陶器類30点、輸入陶磁器類2点を図示した(956~992)。958は柱状高台である。961~990は国産陶器類である。甕類の体部片が多く、押印も複数みられる。また須恵器および須恵器系陶器も含む。991、992は輸入陶磁器類である。

【瓦】

瓦は図示できる資料は少ないが、瓦当面が残る軒丸瓦2点、軒平瓦3点と丸瓦、平瓦を9点図示した。1005は軒丸瓦片で剣頭文の一部が確認できる。1006は軒丸瓦片で巴文の端部が確認できる。珠文はみられず、三巴文軒丸瓦と考えられる。1007は軒平瓦片で剣頭文が、1008は軒平瓦片で剣頭文と三巴文の一部が、1009は軒平瓦片で三巴文が確認できる。いずれもこれまでの柳之御所遺跡の調査で確認されてきたものに含まれる既出の瓦当文様である。今回の調査範囲では瓦片が2856.4gと一定量出土したが、いずれも細片である。平瓦片および丸瓦片が多く、これらは表14に掲載した。

**【木製品】**

木製品はいずれも堀跡からの出土だが、出土量は少ない。加工痕跡のある資料を中心に12点を図示したが、機能がわかる資料は少ない。21・23・69・70次調査では多くの木製品が得られており、出土位置は大きくは異ならないが、差異がみられる。

993は21SD2の最下層から出土した資料で木槌とみられる。全体の長さが約72cmと大型の資料で、持ち手の部分は径が5cmほどと全体の大きさに比してか細い印象を受ける。この部分は縦方向に粗いケズリが行われる。杵の部分は径15cmほど円形で大型の製品である。全体は粗いケズリにより整形されるが、中央付近は使用時のものとみられる摩耗が著しい。用途は判然としないが、使用時は持ち手部分を持って、この中央付近を使用したとみられる。タタキなどの用途での使用には持ち手の細さからは不適とみられ、中央付近を用いて小さいタタキや転がしてならすなどの用途も想定できる。なお、頂部は不定方向のランダムなケズリが行われ、摩滅等は確認できないことから、この部位を使用したものではないとみられる。13世紀前後でやや時期が後出する資料だが仙台中野高柳遺跡でも類似した横槌が出土している（宮城県教育委員会2006『中野高柳遺跡IV』宮城県文化財調査報告書第204集）。995は樹皮で、町内でも志羅山遺跡などで出土している。木製品の加工が想起されるが、その他の資料では加工品や未製品等は少ない。この他の資料は加工痕跡はあるものの、製品としての用途は不明である。今回の出土範囲では木製品の出土は少なく、これまでの調査で多くの木製品が得られてきた21SD1でも、木製品が出土する範囲が限定されることがわかる。

**【その他の遺物】**

今回の調査範囲では鉄製品などの出土は少なく、特記すべき遺物は多くないが、壁土が一定量出土している点は注目できる。小破片が多く図示できないが、重量は4225.2gと量は比較的まとまり、特に人為的な堆積土層の特徴をもつ21SD1のC層から多く出土している。壁土は周囲の建物跡との関係も想定でき、遺跡南端部の様相を検討する上でも注目できる。

(櫻井)



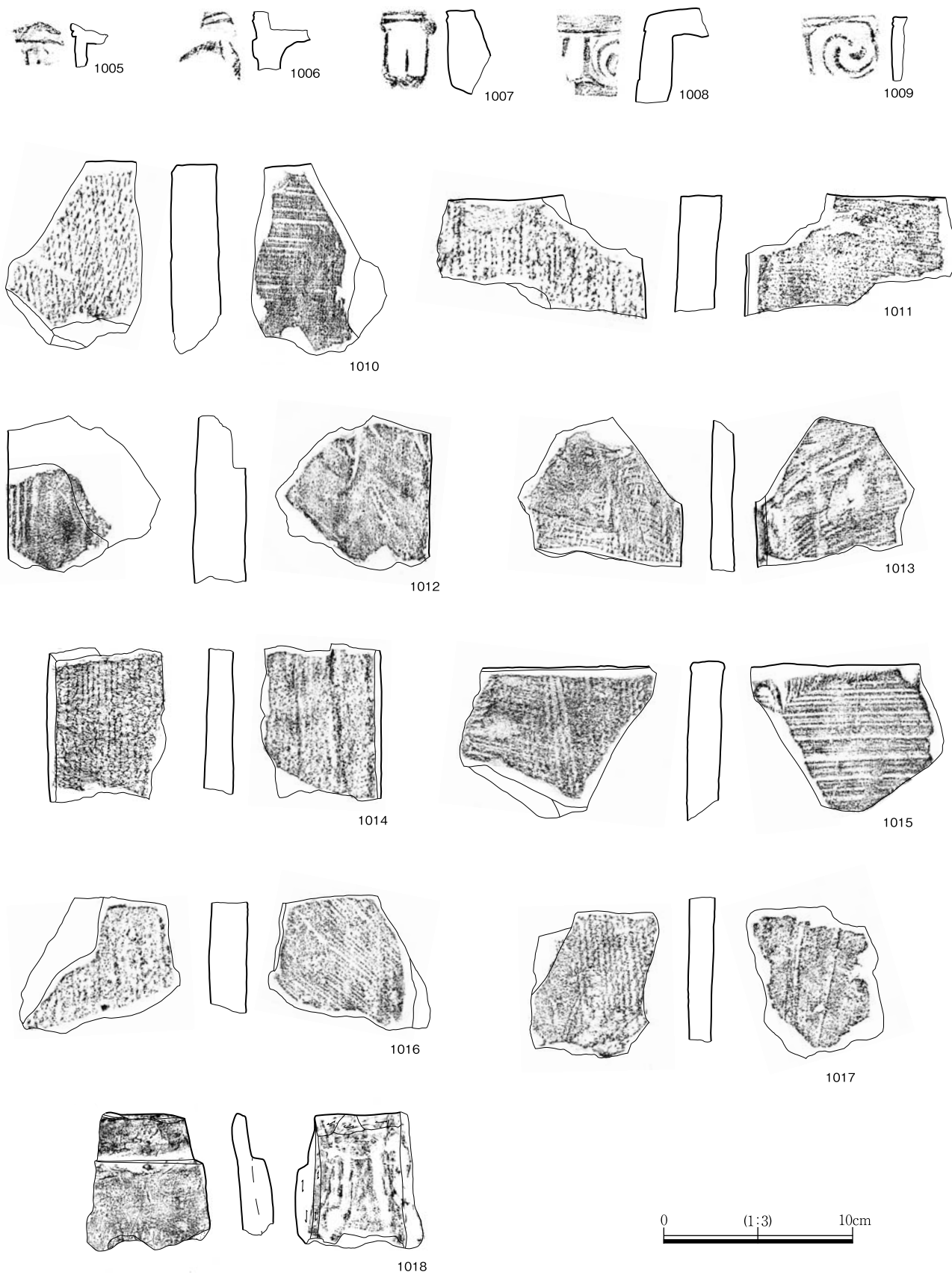


图32 瓦類実測図

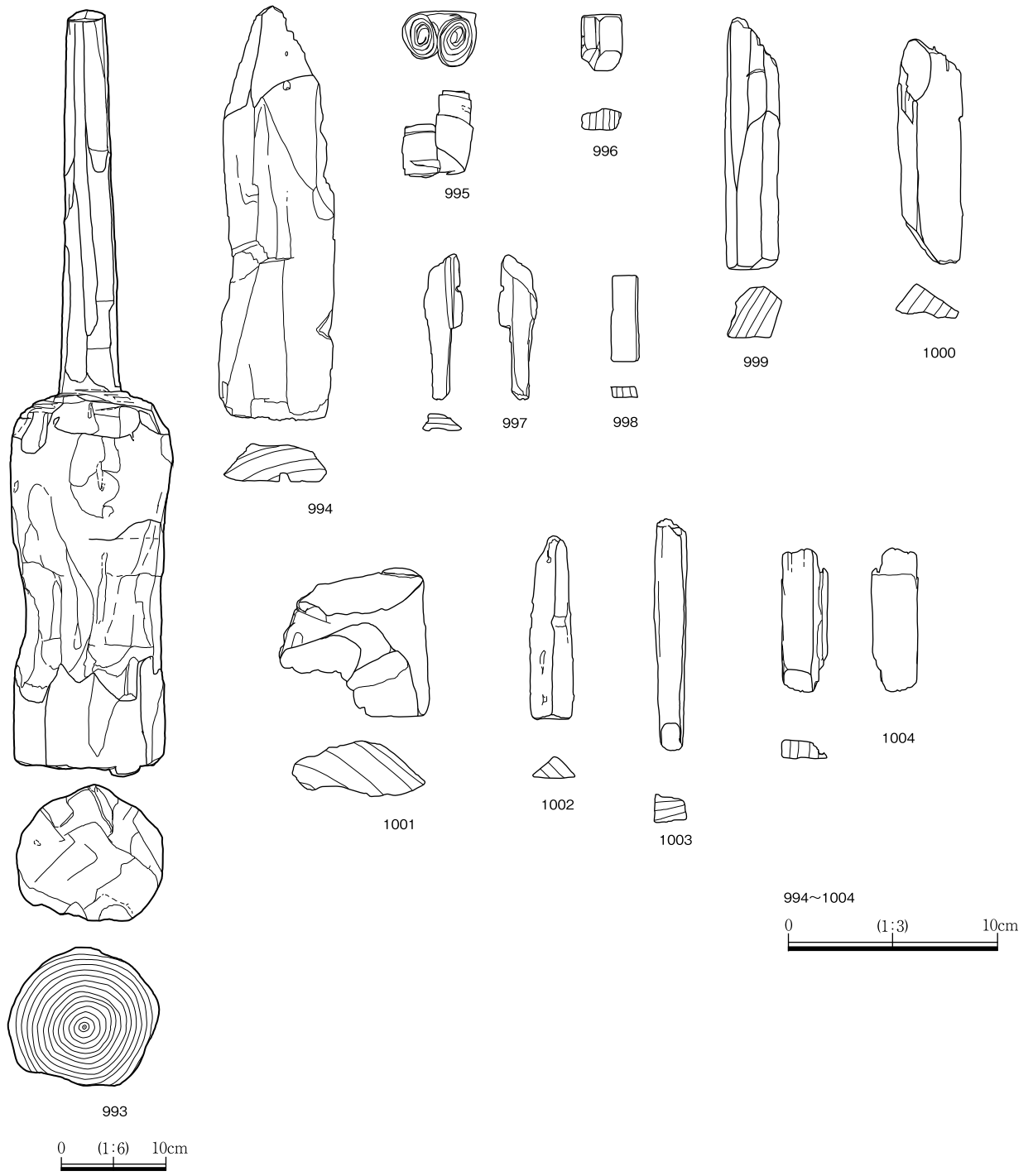


図33 木製品実測図

### Ⅲ 自然科学分析

#### 岩手県平泉町柳之御所遺跡の自然科学分析調査および木製品の保存処理報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

#### はじめに

岩手県平泉町に所在する柳之御所遺跡では、これまでの発掘調査により12世紀後半を中心とする遺構・遺物が多く確認されており、奥州藤原氏に関連する遺跡として注目されている。本遺跡で実施された第76次調査では、12世紀代のものと考えられている堀跡、柱穴、溝跡が検出されている。本分析調査では、堀跡の年代に関する資料を得るために放射性炭素年代測定を、当時の植生に関する資料を得るために微細物洗い出しによる植物遺体の同定を実施する。また、75次調査で堀跡から出土した木製の下駄歯2点について、木製品の材料に関する情報を得るために樹種同定を実施する。

#### I 柳之御所跡第76次調査

##### 1. 放射性炭素年代測定

###### (1) 試料

試料は、21SD1の人為堆積層から採取された炭化材5試料および21SD2の人為堆積層から採取された炭化材1試料の計6試料である。SD1は遺跡の中心を囲うとされる堀跡の内、内側に位置するもので、人為堆積層とされる層は覆土中位に厚さ2m、幅2m程度の範囲で確認された。この層の上部から下部にかけて、21SD1(82-105)C1、SD1(82-105)C3、SD1(82-105,106)C5、SD1(82-105,106)C6、SD1(82-105,106)C8とされる炭化材5試料が採取されている。SD1(82-105)C1は、5片ある中から柀目板状の破片1点を選択した。樹皮は残っておらず、残存する中での最外年輪を含む5年分を測定試料とした。SD1(82-105)C3は、分割状の炭化材2片のうち、大きい1片を選択した。樹皮は残っておらず、残存する中での最外年輪を含む10年分を測定試料とした。SD1(82-105,106)C5は、7片ある中から最も大きい柀目状の破片を選択した。樹皮は残っておらず、残存する中での最外年輪を含む5年分を測定試料とした。SD1(82-105,106)C6は、5片ある中から状態の良い分割状の破片1片を選択した。樹皮は残っておらず、残存する中での最外年輪を含む10年分を測定試料とした。SD1(82-105,106)C8は、14片の破片の中から最も大きいミカン割状の破片を選択した。樹皮は残っておらず、残存する中での最外年輪を含む5年分を測定試料とした。

21SD2は遺跡の中心を囲うとされる堀跡の内、外側に位置するものであり、発掘調査所見では21SD1より古いとされる。人為堆積層とされる層は覆土上位に堆積し、層中から炭化材1試料(21SD2 11層)が採取されている。21SD2 11層には炭化材2片が確認され、そのうちミカン割状の1片を選択した。樹皮は残っておらず、残存する中での最外年輪を含む10年分を測定試料とした。

###### (2) 分析方法

測定試料に土壌や根等の目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄等により物理的に除去する。その後、HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(Ⅱ)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内

を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO<sub>2</sub>を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO<sub>2</sub>と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。

測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}C$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma；68%）に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1.0.（Copyright 1986-2014 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い（14Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正は、CALIB 7.1.0.のマニュアルに従い、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値および北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正結果は $\sigma \cdot 2\sigma$ （ $\sigma$ は統計的に真の値が68.2%の確率で存在する範囲、 $2\sigma$ は真の値が95.4%の確率で存在する範囲）の値を示す。また、表中の相対比は、 $\sigma \cdot 2\sigma$ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。なお、較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表された値を記す。

### (3) 結 果

各炭化材の同位体効果による補正を行った測定結果（補正年代）は、SD1(82-105)C1が $920 \pm 30BP$ 、SD1(82-105)C3が $970 \pm 20BP$ 、SD1(82-105,106)C5が $1,020 \pm 20BP$ 、SD1(82-105,106)C6が $970 \pm 20BP$ 、SD1(82-105,106)C8が $960 \pm 20BP$ 、SD2の11層が $960 \pm 30BP$ である（表6）。

また、これらの補正年代に基づく暦年較正結果（ $1\sigma$ ）は、SD1(82-105)C1がcalAD1,045-1,155、SD1(82-105)C3がcalAD1,022-1,147、SD1(82-105,106)C5がcalAD996-1,023、SD1(82-105,106)C6がcalAD1,024-1,147、SD1(82-105,106)C8がcalAD1,027-1,148、SD2の11層が1,025-1,148である。

なお、測定に用いた炭化材は、測定前に実体顕微鏡観察で可能な範囲で樹種同定を実施し、結果を表6に記した。全て落葉広葉樹であり、イヌシデ節、ブナ属、コナラ節、モクレン属が認められた。人為①下-2については、散孔材の道管配列を有する広葉樹材であるが、実体顕微鏡観察では種類の同定が難しく、種類不明である。

### (4) 考 察

SD1の各層から出土した炭化材の年代測定結果は、 $920 \pm 30BP \sim 1,020 \pm 20BP$ の間に入っており、C1とその他での有意な年代差は認められない。暦年較正結果をみると、C1が他より若干古いものの、その他は10～12世紀の範囲を示しており、12世紀代の遺構と考えられていることとも調和的である。年代測定結果から、C1とその他も短い時間に堆積した可能性が考えられる。なお、やや古い値が得られたC5も樹齢による測定誤差の範囲内であり、ほぼ同時期の炭化材と考えることができる。

SD2の11層から採取された炭化材は、補正年代が $960 \pm 20BP$ 、暦年較正結果がcalAD1,025-1,148であり、SD1と近似した年代値を示す。



表6 柳之御所遺跡の放射性炭素年代測定結果

遺構 層位	材質 種類	測定年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	補正年代 (暦年較正用) BP	暦年較正結果				Code No.
					誤差	cal BC/AD	cal BP	相対比	
SD1(82-105) C1	炭化材 コナラ節	930±30	-25.16 ± 0.56	920±30 (924±25)	$\sigma$	cal AD 1,045 - cal AD 1,096 cal AD 1,120 - cal AD 1,142 cal AD 1,146 - cal AD 1,155	cal BP 905 - 854 cal BP 830 - 808 cal BP 804 - 795	0.613 0.279 0.107	IAAA- 142510
					$2\sigma$	cal AD 1,032 - cal AD 1,163	cal BP 918 - 787	1.000	
SD1(82-105) C3	炭化材 モクレン属	970±20	-24.97 ± 0.69	970±20 (969±24)	$\sigma$	cal AD 1,022 - cal AD 1,046 cal AD 1,092 - cal AD 1,120 cal AD 1,140 - cal AD 1,147	cal BP 928 - 904 cal BP 858 - 830 cal BP 810 - 803	0.463 0.445 0.092	IAAA- 142511
					$2\sigma$	cal AD 1,017 - cal AD 1,056 cal AD 1,076 - cal AD 1,154	cal BP 933 - 894 cal BP 874 - 796	0.400 0.600	
SD1(82-105.106) C5	炭化材 イヌシテ節	1,000±20	-23.66 ± 0.35	1,020±20 (1,021±22)	$\sigma$	cal AD 996 - cal AD 1,023	cal BP 954 - 927	1.000	IAAA- 142512
					$2\sigma$	cal AD 985 - cal AD 1,032	cal BP 965 - 918	1.000	
SD1(82-105.106) C6	炭化材 広葉樹	910±20	-21.80 ± 0.54	970±20 (965±23)	$\sigma$	cal AD 1,024 - cal AD 1,046 cal AD 1,092 - cal AD 1,121 cal AD 1,140 - cal AD 1,147	cal BP 926 - 904 cal BP 858 - 829 cal BP 810 - 803	0.419 0.470 0.111	IAAA- 142513
					$2\sigma$	cal AD 1,019 - cal AD 1,056 cal AD 1,076 - cal AD 1,154	cal BP 931 - 894 cal BP 874 - 796	0.371 0.629	
SD1(82-105.106) C8	炭化材 イヌシテ節	970±20	-25.59 ± 0.37	960±20 (957±23)	$\sigma$	cal AD 1,027 - cal AD 1,047 cal AD 1,088 - cal AD 1,122 cal AD 1,138 - cal AD 1,148	cal BP 923 - 903 cal BP 862 - 828 cal BP 812 - 802	0.335 0.525 0.140	IAAA- 142514
					$2\sigma$	cal AD 1,022 - cal AD 1,059 cal AD 1,067 - cal AD 1,073 cal AD 1,075 - cal AD 1,154	cal BP 928 - 891 cal BP 883 - 877 cal BP 875 - 796	0.314 0.014 0.672	
SD2 11層	炭化材 ブナ属	950±20	-24.48 ± 0.49	960±20 (960±24)	$\sigma$	cal AD 1,025 - cal AD 1,047 cal AD 1,089 - cal AD 1,122 cal AD 1,139 - cal AD 1,148	cal BP 925 - 903 cal BP 861 - 828 cal BP 811 - 802	0.353 0.509 0.138	IAAA- 142515
					$2\sigma$	cal AD 1,021 - cal AD 1,058 cal AD 1,068 - cal AD 1,072 cal AD 1,075 - cal AD 1,154	cal BP 929 - 892 cal BP 882 - 878 cal BP 875 - 796	0.333 0.008 0.659	

- 1) 試料はいずれも前処理として酸処理、アルカリ処理、酸処理(AAA処理)を実施している。
- 2) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。
- 3) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 4) 付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。
- 5) 暦年の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1.0 (Copyright 1986-2014 M Stuiver and PJ Reimer)を使用した。
- 6) 暦年の計算には、補正年代に()で暦年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。
- 7) 年代値は、1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、暦年較正用年代値は1桁目を丸めていない。
- 8) 統計的に真の値が入る確率は $\sigma$ は68.3%、 $2\sigma$ は95.4%である。
- 9) 相対比は、 $\sigma$ 、 $2\sigma$ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

## 2. 微細物分析

### (1) 試料

試料は、遺跡の中心を囲うとされる内側の堀跡である21SD1の底面付近から採取された2点の試料(SD1葉4枚目サンプル14.10.28、SD1葉4枚目サンプル14.10.30)である。

### (2) 分析方法

試料200ccを水に浸して双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットと面相筆を用いて、同定が可能な葉や種実などの大型植物遺体を抽出する。抽出後の試料を水に粒径0.5mmの篩を通して水洗し、篩内の試料を粒径別に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実遺体を抽出する。

大型植物遺体の同定は、現生標本および吉山・石川(1992)、石川(1994)、中山ほか(2000)、濱野(2005)、鈴木ほか(2012)等を参考に実施する。同定結果は、一覧表と図版で示す。抽出同定対象外の分析残渣は、植物片主体と砂礫主体とに大分類し、一覧表の下部に容積で示す。

分析後は、大型植物遺体を分類群別に容器に入れ、約70%のエタノール溶液で液浸保存する。なお、1試料(14.10.30)より得られた枝の一部を切片作製観察対象としている。

### (3) 結果

結果を表7に示す。また、大型植物遺体各分類群の写真を図34に、計測値等を表7に併記して同定根拠とする。2試料400ccより、草本6分類群(オモダカ科、イネ、サナエタデ近似種、アカザ属、ヒ

ユ属、キュウリグサ属)245個以上の種実遺体が同定された。以下に試料別出土状況を述べる。

1) 14.10.28

試料200cc(279 g)より、栽培種のイネの炭化した穎が1個、穎の破片が1個と、草本のサナエタデ近似種の果実が4個、ヒユ属の種子が16個、キュウリグサ属の果実が1個確認された。

分析残渣は、葉や芽、木材、炭化材等の植物片が分析試料200ccとほぼ同量の他に、砂礫類が約2cc確認された。径が細く枝と考えられる木材が多く(図34)、一部の切片作製観察の結果、ヤナギ属に同定された。樹種同定の詳細は別項に述べる。

2) 14.10.30

試料200cc(224 g)より、栽培種のイネの穎の破片が1個と、草本のオモダカ科の種子が1個、多量のアカザ属の種子(200個上限)とヒユ属の種子(20個上限)が確認された。アカザ属は数千個、ヒユ属は数百個程度が確認されるため、アカザ属200個を上限とした抽出同定にとどめている。分析残渣は、双子葉類の葉や芽、木材、炭化材等の植物片が分析試料200ccとほぼ同量の他に、砂礫類が約0.5cc確認された。

多量確認された双子葉類の葉は、洋紙質で脆く、水洗により破壊されるため、一部を水洗前に拾い上げた(図34)。葉遺体は、おそらく同一種に由来すると考えられ、落葉広葉樹の可能性が高い。葉裏が灰白色を呈し、側脈間の連絡が確認されたが、同定根拠となる頂部や基部、葉縁が確認されなかった。また、葉裏をマイクロスコップ(KEYENCE, VHX-1000)で観察した結果、毛や腺点は確認されなかった(図34)。

(4) 考 察

微細物分析の結果、堀跡SD1から採取された2試料では、栽培種のイネの穎が確認された。イネは、当時利用された植物質食糧と示唆される。また、一部のイネは穎内に胚乳が入る状態で炭化していることから、食用前の粉がついた状態で火を受けたと考えられる。

栽培種を除いた種実遺体群は、全て草本類から成り、抽水～湿生植物のオモダカ科と、乾いた場所にも生育可能な中生草本のサナエタデ近似種、アカザ属、ヒユ属、キュウリグサ属が確認された。当時の調査区周辺の明るく開けた草地環境に生育していたと考えられ、抽水植物を含むオモダカ科が生育可能な水深1m以浅の水湿地の存在も推定される。なお、「14.10.30」の試料からは、種子生産量が多いアカザ属やヒユ属が多産し、採取日で組成が異なっていた。試料採取地点近くにアカザ属やヒ

表7 柳之御所遺跡の微細物分析・種実同定結果

分類群	部位・状態	YG76 SD1 葉4枚目サンプル		備考
		14.10.28	14.10.30	
種実遺体				
オモダカ科	種子	完形	-	1
イネ	炭化穎	完形	1	-
	穎	破片	1	1
サナエタデ近似種	果実	完形	1	-
		破片	3	-
アカザ属	種子	完形	-	200+
ヒユ属	種子	完形	16	20+
キュウリグサ属	果実	完形	1	-
分析残渣(同定対象外)				
双子葉類	葉	破片	-	10+
植物片主体	葉片・芽・木材・炭化材等	>4mm	150	80
		4-2mm	30	60
		2-1mm	10	40
		1-0.5mm	8	20
砂礫主体			2	<1
分析量			200	200
			279	224
				容積(cc)
				湿重(g)

ユ属が生育していた可能性が高いが、多産の要因に関しては、発掘調査所見とともに検討することが望まれる。

### 3. 樹種同定

#### (1) 試料

試料は、75次調査の堀跡72SD1の1トレンチ5層砂から出土した木製品(RW3)と、堀跡SD1の中層-下から出土した木製品(RW6)の2点である。また、前述の微細物分析において21SD1葉4枚目サンプル14.10.28から抽出された枝材についても併せて同定を実施する。

#### (2) 分析方法

木取り・形状を観察した上で、剃刀を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を直接採取する。切片は、ガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

#### (3) 結果

樹種同定結果を表8に示す。木製品は、いずれも広葉樹で、ヤナギ属とクリに同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

##### ・ヤナギ属 (*Salix*) ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減少させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-15細胞高。

##### ・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

#### (4) 考察

2点の木製品は、いずれも木口が広い板状を呈しており、その形状から連歯下駄の歯と考えられる。RW3は、2片に割れており、歯の中央付近に樹芯があり、破損状況から台表が板目(木表)になる木取りと推定される。RW6は接地面が破損しているが、状況から台表が板目(木裏)になる木取りと推定される。これらの連歯下駄は、ヤナギ属とクリに同定された。ヤナギ属は、河畔等に生育する落葉低木~高木で、木材は軽軟で強度と保存性は低い。クリは二次林等に生育する落葉高木で、木材は重硬で強度と耐朽性が高い。

柳之御所遺跡では、これまでも多くの下駄について樹種同定を実施している(伊東・山田,2012)。その結果をみると、ケヤキの利用が多く、他に針葉樹のアスナロ、スギ、広葉樹のモクレン属、クリ、トチノキ、キハダが認められる。

表8 柳之御所遺跡の樹種同定結果

遺物No.	遺構	位置	層位	器種	木取り	種類
75RW3	72SD1(堀跡)	1トレンチ	5層砂	連歯下駄	台が板目	クリ
75RW6	72SD1(堀跡)	2-3グリット間	中層-下	連歯下駄	台が板目	ヤナギ属
	SD1(堀跡)	葉4枚目		小枝	芯持丸木	ヤナギ属

今回確認された樹種の内、クリは既往の調査でも確認されており強度や耐朽性が高い。ヤナギ属については、これまでの調査では確認されていない。

## Ⅱ 柳之御所遺跡第74次調査出土木製品の樹種同定

### 1. 試料

試料は、74次調査で出土した処理No 1～8、13の計9点である。試料の詳細は表9に示す。

### 2. 分析方法

資料の木取りを観察した上で、剃刀を用いて木口（横断面）・柃目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

### 3. 結果

樹種同定結果を表9に示す。木製品は、広葉樹2分類群(クリ・ケヤキ)に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

表9 樹種同定結果

処理No.	登録番号	器種	遺構名	層位	木取り	種類	備考
1	74RW71	椀底?	72SD1	23層中～下位	横木地柃目取	ケヤキ	
2	74RW3	漆椀	72SD1	18・19層・23・29層西端No81	横木地柃目取	ケヤキ	
3	74RW10	漆椀	72SD1	29・30層	横木地柃目取	ケヤキ	
4	74RW4	漆椀	72SD1	29・30層	横木地柃目取	ケヤキ	
5	74RW11	漆椀	72SD1	32層	横木地柃目取	ケヤキ	
6	74RW5	漆椀	72SD1	32層	横木地柃目取	ケヤキ	
7	74RW80	漆塗り下駄歯	72SD1	29・30層	木口板状	ケヤキ	連歯下駄(台表が板目)
8	74RW93	漆塗り下駄歯	72SD1	29・30層	木口板状	クリ	連歯下駄(台表が板目)
13	74RW9	漆椀	72SD2	18層	横木地柃目取	ケヤキ	



#### 4. 考 察

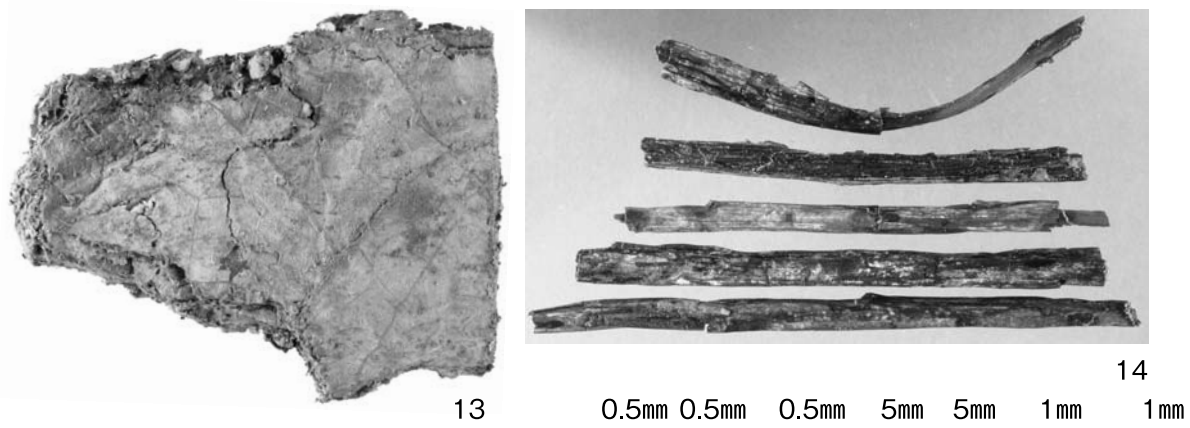
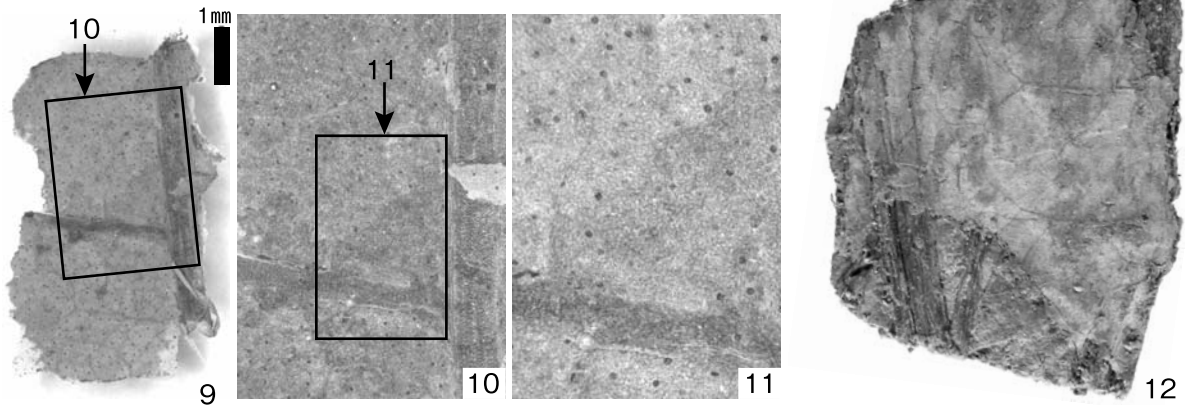
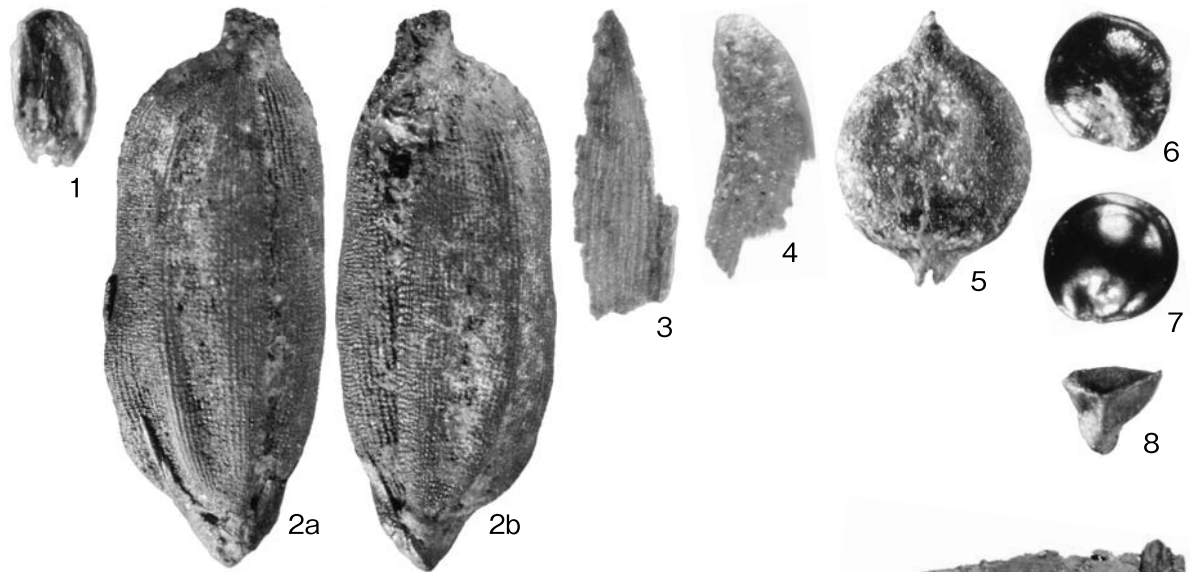
漆器および下駄には、ケヤキを中心にクリが混じる組成が認められた。クリは二次林等に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度と耐朽性が高い。ケヤキは平地から山地の河川沿い等に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度・耐朽性が高い。

器種別にみると、漆椀と椀底？はいずれも横木地柁目取りであり、全てケヤキに同定されたことから、選択的な木材の利用が推定される。伊東・山田(2012)のデータベースによれば、柳之御所遺跡から出土した漆椀はそのほとんどがケヤキである。また、近い時期の資料として平泉町志羅山遺跡等で分析が行われているが、同じくケヤキが利用される。東北地方では古墳時代から鎌倉時代にかけて、挽物容器にケヤキが利用される傾向が指摘されているが(荒井,2012)、本遺跡でも同様の傾向が認められる。

漆塗り下駄歯はいずれも木口面が広い板状を呈しており、台側に破損が認められることから連歯下駄の歯と考えられる。この場合、下駄の台面が板目になる木取りが想定される。下駄にはクリとケヤキが認められ、強度や耐朽性の高い木材を利用したことが推定される。柳之御所遺跡のこれまでの調査では、連歯下駄にはケヤキの利用が多く、他に針葉樹のアスナロ、スギ、広葉樹のクリ、モクレン属が少数混じるとされる(伊東・山田,2012)。

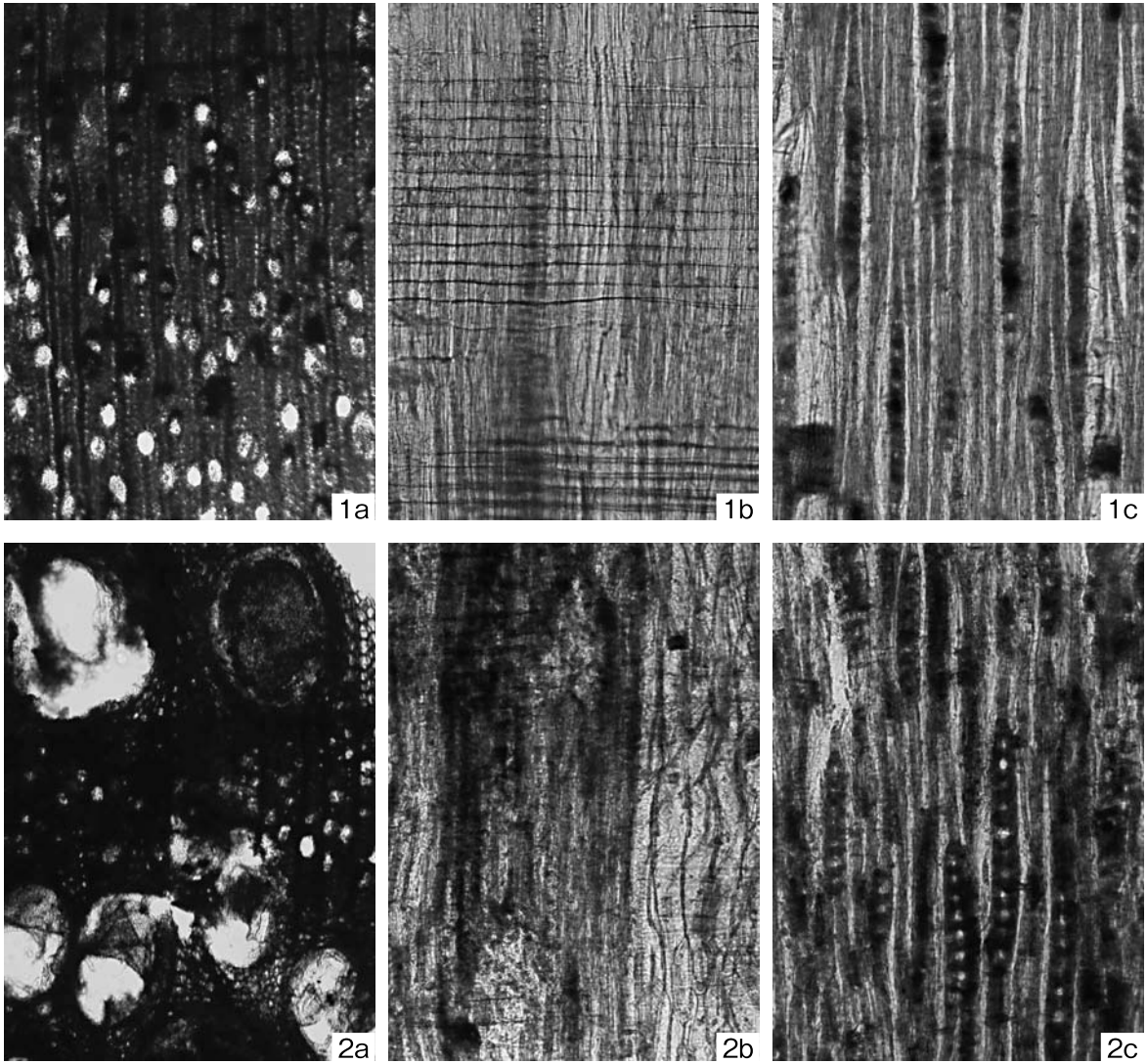
#### 引用文献

- 荒井 格,2012,東北 一青森県・秋田県・岩手県・山形県・宮城県・福島県一.伊東隆夫・山田昌久(編)「木の考古学 出土木製品用材データベース」,海青社,147-156.
- 濱野周泰,2005,原寸図鑑葉っぱでおぼえる樹木.柏書房,334p.
- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編),2012,木の考古学 出土木製品用材データベース.海青社,449p.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2000,日本植物種子図鑑(2010年改訂版).東北大学出版会,678p.
- 島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
- 鈴木庸夫・高橋 冬・安延尚文,2012,ネイチャーウォッチングガイドブック 草木の種子と果実—形態や大きさが一目でわかる植物の種子と果実632種—.誠文堂新光社,272p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].
- 吉山 寛・石川美枝子,1992,原寸イラストによる落葉図鑑.文一総合出版,372p.



- |                     |                            |
|---------------------|----------------------------|
| 1. オモダカ科 種子(SD1)    | 2. イネ 炭化穎(SD1)             |
| 3. イネ 穎(SD1)        | 4. イネ 穎(SD1)               |
| 5. サナエタデ近似種 果実(SD1) | 6. アカザ属 種子(SD1)            |
| 7. ヒユ属 種子(SD1)      | 8. キュウリグサ属 果実(SD1)         |
| 9. 双子葉類 葉片(SD1)     | 10. 双子葉類 葉片(SD1)           |
| 11. 双子葉類 葉片(SD1)    | 12. 双子葉類 葉片(SD1)           |
| 13. 双子葉類 葉片(SD1)    | 14. 不明 枝(最長:切片作製観察対象)(SD1) |

図34 柳之御所遺跡の大型植物遺体

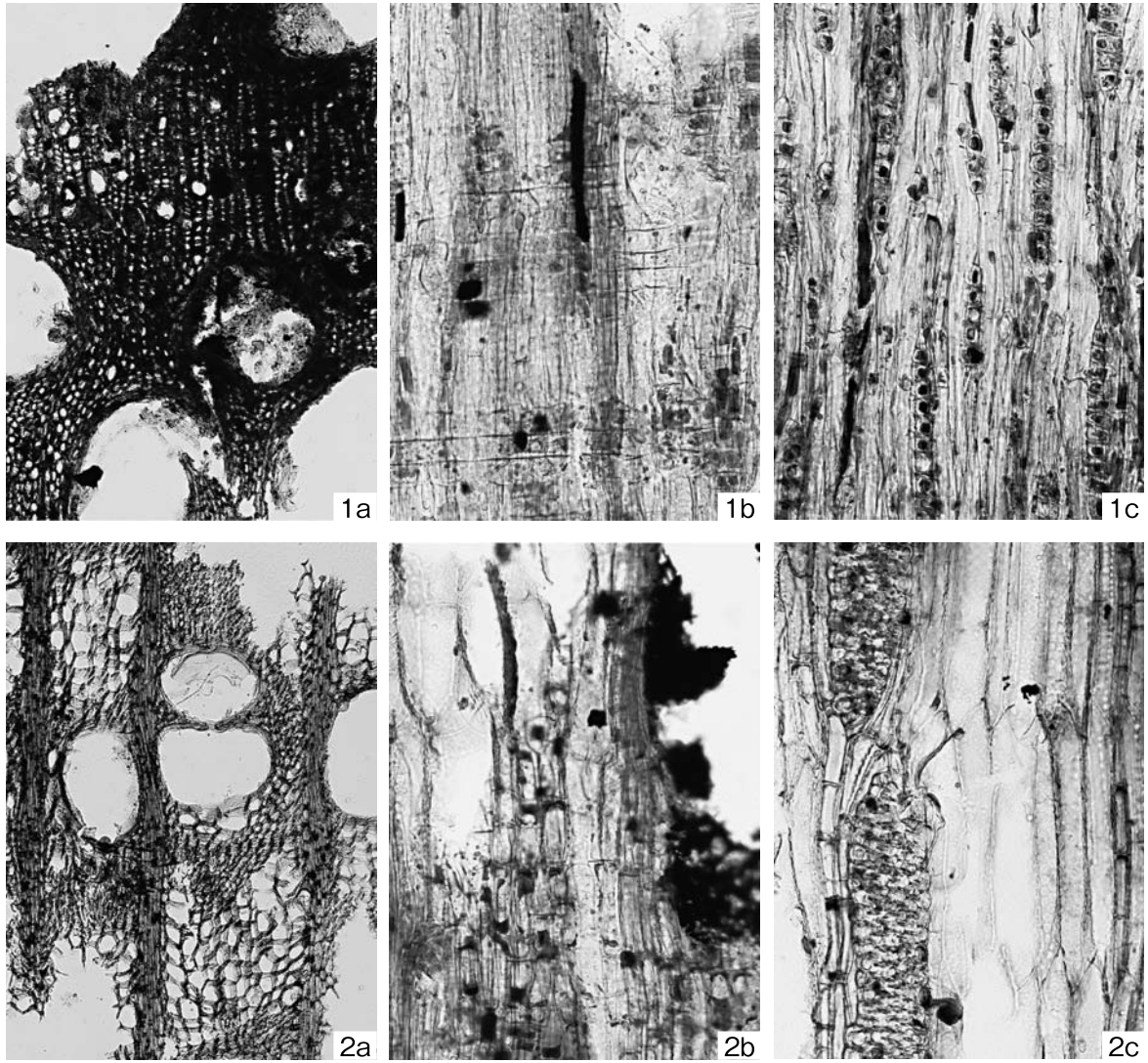


1. ヤナギ属(RW6)  
 2. クリ(RW3)  
 a: 木口, b: 柁目, c: 板目

100μm:a  
 100μm:b,c

図35 柳之御所遺跡の木材





1. クリ(処理No.8;登録No.74RW93)  
2. ケヤキ(処理No.4;登録No.74RW4)  
a:木口, b:柁目, c:板目

100μm:a  
100μm:b,c

図36 木 材



## IV 総 括

今年度の調査成果についてまとめ、今後の調査の課題を述べる。

### 1 堀跡の調査成果

#### (1) 堀跡と関連する遺構の概要

今回の調査範囲では2条の堀跡を調査した。まず堀跡の調査所見とそこから位置等の内容をまとめる。

内側の堀跡(21SD1)は幅11mほど、深さが今回の調査の検出面から2.5mで確認している。土層は自然堆積である。遺物の様相は、下層のD層とした土層からの出土資料でも手づくねかわらけの出土が多く、ロクロかわらけも含むものの出土量が少ない。手づくねかわらけは大皿でも口径が13cmほどの小型のものから少量だが15cmと大型のものがあり、全体の傾向としては12世紀後半の特徴を示す。自然堆積土層のため、時間幅のある資料が含まれる可能性があるが、12世紀後半のうちでも後出の様相をもつ資料が多い。21SD1の堆積土ではC層とした人為的な特徴をもつ土層が注目できる。今回の調査範囲では21SD1にのみ確認できるが、南方向から堆積したことが斜行する土層の堆積状況から確認でき、21SD1と21SD2の間の平坦な範囲から崩落した土層と考えられる。これは、21SD2で確認できる人為堆積土層とは層の様相も異なり、遺物の状況や堆積のあり方からも一連の堆積による同一の性質とみなす根拠は少ない。本来の位置においては一連の構築の可能性は残るが、現状では21SD2は現地性のもの、21SD1は崩落したものと相違がある。遺物の特徴からは12世紀後半の資料に位置づけることができ、古相の特徴を顕著に示す資料は少ない。

外側の堀跡(21SD2)は幅6mほど、深さは今回の調査の検出面から1.5mで確認している。堀跡の機能時に近い下層の自然堆積土層からは土器類の出土が少なく、機能時や開削時点を特定できる資料は得られていない。ただし、土器類の少なさは、遺物量の多い12世紀後半以前の堆積と構築の可能性を窺わせる。この点は他地点と合わせて位置づける必要がある。人為堆積および上層の自然堆積のうち下層では12世紀後半の資料が出土しており、その中での特徴をみると漸移的なものだが人為堆積土層ではやや古相の特徴をもつ資料を含み、自然堆積土層では後出の特徴が顕著である。

これらの特徴はこれまで確認されてきた各遺構の特徴と基本的に同様の内容である。今回の調査範囲では2条の堀跡の構築時期について、遺構の性格は不明だが76SD3を介して、21SD2から21SD1の順に構築されたと判断できる。この両者の構築の時期についての前後関係は69次調査で確認した前後関係を、異なる遺構から改めて補強できる内容である。ただし、この時期の実年代上の位置づけや埋没の時点での様相については必ずしも明確ではない。21SD1については下層の土器類が12世紀後半の特徴をもち、堆積層の様相から下層は遺跡機能時に堆積が始まり、その年代は12世紀後半代に位置づけることができる。その中で細別は必ずしも明確ではないが、後半代の中でも後出の特徴をもつ資料が多い。次に、21SD2についても人為堆積で埋め戻された時期があり、その時期を基本的な廃絶とすれば12世紀後半代にあたる。12世紀後半の中で古相の様相は顕著ではないが、後半の中でも後出の資料は多くない。遺構の切り合い関係を勘案すると、21SD1の開削時期に近く、やや古い段階と想定できる。ただし、21SD2についても、上層部分は自然堆積土層が堆積しており、人為堆積を削り自然堆積土が堆積したか、窪みとしての形状を保ち堀跡が維持されていた可能性が想定できる。21SD1が構築されて以降の21SD2については、それ以前のような大きな改修は少ないが、地点ごとの差も含めて検討する必要がある。

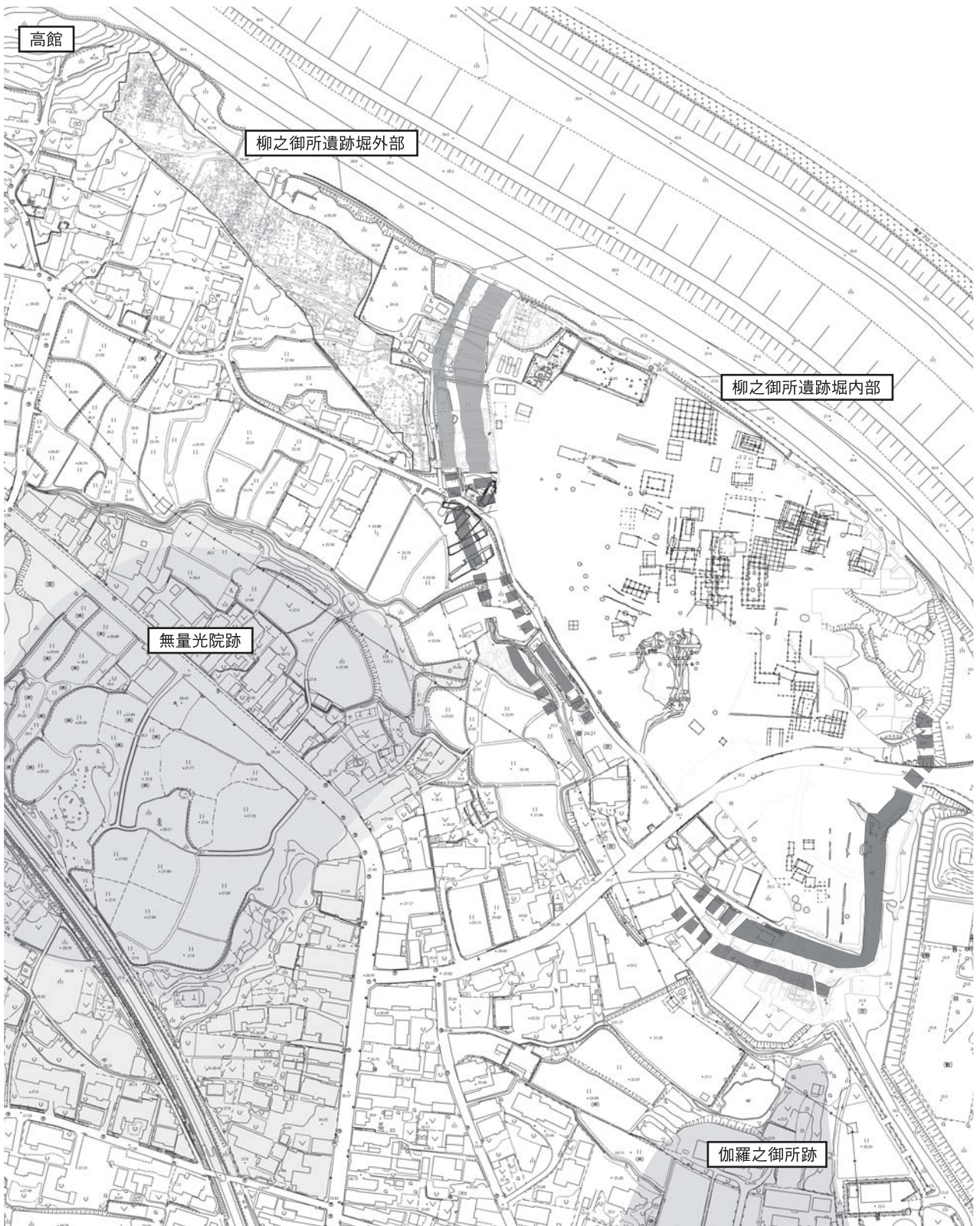


図37 柳之御所遺跡の堀跡の位置

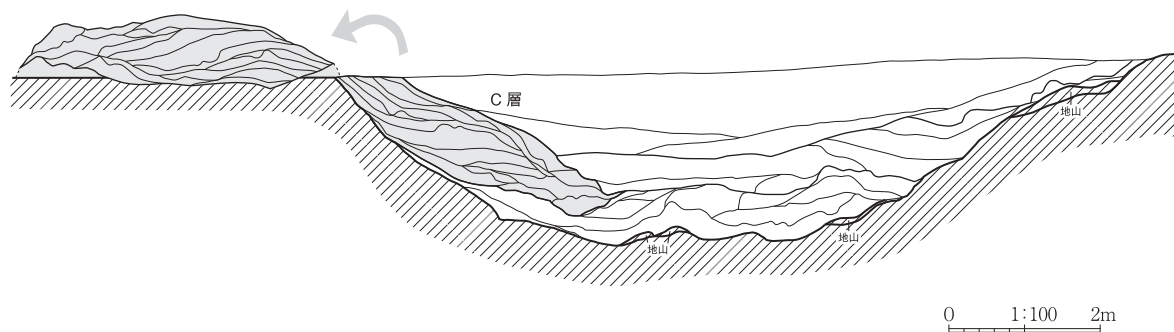


図38 21SD1-C層模式図

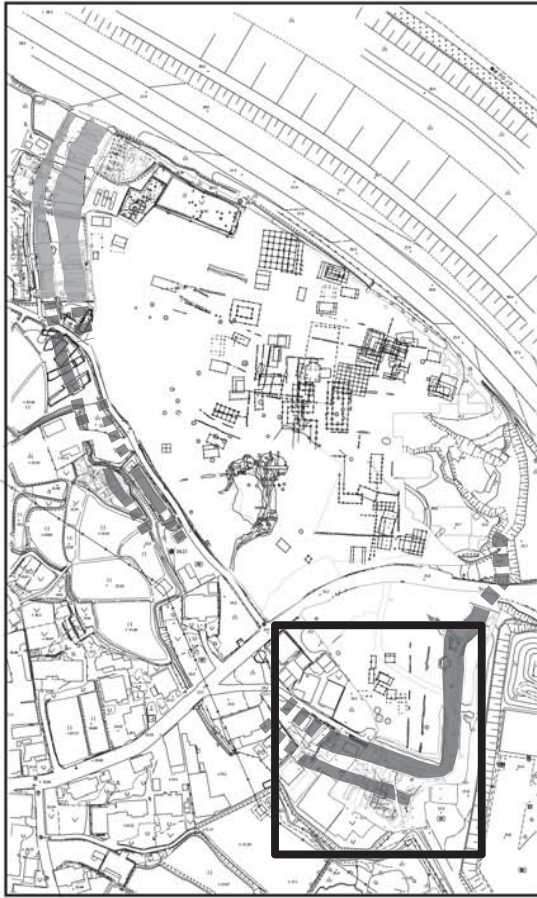
## (2) 今回の調査区と周囲の様相

今回の調査範囲は21次、69次、70次に近接しており、それらと合わせて遺跡内を区画する堀跡の位置が明確になってきている。今回の調査範囲では内側の堀跡の走向方向がやや外側の猫間ヶ淵跡方向に広がって延びることが確認できている。また、無量光院跡と近接する位置で確認している堀跡との接続は今後これらの中間地点を検討する必要がある。

21・69・70次調査では伽羅之御所跡と接続する位置を調査している(図39)。ここでは21SD1(内側の堀跡)、21SD2(外側の堀跡)、21SX4(21SD2を切るように上部に堆積し、21SD1に壊されて確認できる溝状の人為堆積土層)の3つの遺構を確認している。この他にも21SD2の外側で溝跡等を確認しているが、今回の調査範囲で確認できた遺構と関連が想定できるものはこの3つである。これらは平面的な位置関係や土層の様相も類似しており、同一の遺構が連続したことがわかる。21SD1および21SD2については遺跡全体を囲んで外側、内側の堀跡が確認されていることから、改めて述べるまでもないが連続して位置が確認できる。ここで注目できるのは21SX4とした遺構も連続する可能性が高いことである。21SX4は人為堆積土で埋め戻されており、今回の21SD2で確認した人為堆積土と土質も類似し、平面的な位置からも同一のもの可能性が高い。これは平面形では溝状に確認できるが、堀の改修などの造作なのか何らかの構築物の下部にあたるのか、単純な整地土層とみなしうるのか現在の資料では確定できないが、位置を考えるとその性格が注目できる。なお、今回の調査区と以前の調査区の間を土層の確認を目的として平成27年度の77次調査で確認しており、この範囲で遺構の所見は次年度の概報に記す。

また、前述の今回の調査範囲で確認した21SD1のC層とした土層は、南端部の様相を検討する上でも重要なものである。76次調査では21SD1にのみ堆積が確認できることから、この段階に伴う遺構とみなしうるが、周囲では類似の土層は確認されておらず性格については今後の課題となる。現時点では21SD1と21SD2の間の整地などで地業に関わる土層としての把握にとどまる。ただし、この土層を本来の位置に復元した場合には旧表土面からの高さが1m弱となる(図38)。この土量は、単純に復元した高さでは土塁状の施設としてはやや低いが、基底部の幅等の複数の要因にも規制されるものであり確言できない。一方で整地地業としては現時点で確認できている土層は厚く、土量が多い。今後近接する範囲での土層の堆積を含めて検討していきたい。





柳之御所遺跡遺構配置図



21SD1



21SD2



21SX4

図39 柳之御所遺跡の南端部の関連遺構



## 2 まとめ

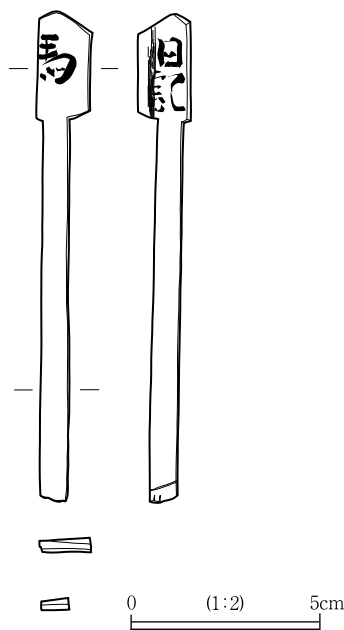
- 1) 柳之御所遺跡の堀内部の南端部の猫間が淵跡の周辺部を調査し、堀跡2条、溝跡などを確認した。両者が平行して走ることを確認し、他の調査区と合わせて柳之御所遺跡を囲む堀跡の位置が確認できた。また、21SD1では南側の21SD2との間の平坦な範囲に積まれたとみられる人為堆積土層が崩落したことを確認できた。
- 2) 21SD2の人為堆積土層を切り、21SD1と時間的には近いが先行する、両者に直交する溝跡を確認できた。溝跡は人為堆積土で埋め戻されており、土層の状況からは長期間の機能を想定しがたいが性格等は不明である。21SD1と21SD2の時期関係について、構築時期について多くの情報を得られた。
- 3) 遺物では21SD1、21SD2ともにかわらけなどの土器類を中心に多くの量が出土した。21SD1では自然堆積土層から下層も含めて12世紀後半代の資料が多く、21SD2では下層でやや古相の遺物を含むものの多くは12世紀後半代の資料が出土した。器形の特徴からは12世紀後半の中でもやや古相の資料を含む。また、21SD2の下層からは横槌が出土した。

(櫻井)

### 訂正図

岩手県教育委員会2015『柳之御所遺跡―第75次発掘調査概報―』岩手県文化財調査報告書第144集

61ページ図47について、縮尺の標記に誤記があったことからここに訂正する。なお本文の記載及び図30については標記の通りである。



## V 付章 高館跡第7次調査の概要

### 1 高館跡の概要と調査計画

高館跡は柳之御所遺跡の遺跡範囲に隣接し、西側の丘陵に位置する。中尊寺が所在する関山丘陵から東側にのびる丘陵にあたる。現在丘陵の頂部には義経堂が所在し、源義経の伝説とともに著名な範囲でもある。これまで数度の発掘調査が行われてきたものの、遺跡の遺構内容や時期、柳之御所遺跡との関係などには不明な点が多く残されてきた。

現在、岩手県教育委員会では柳之御所遺跡の世界遺産拡張登録を目指して各種の事業に取り組んでいる。その中で高館跡についても調査研究を進め柳之御所遺跡との関係を検討することが柳之御所遺跡の位置づけや内容の評価にも必要と考えられた。そこで高館跡についても調査研究を行うこととし、上記のように考古学的情報にも不十分な点が多いと考えられたことから、3カ年の調査計画を立て発掘調査を実施することとした。平成26年度はその1年目に当たる。

表10 高館跡の調査計画

年次	調査目的
平成26年(2014)	堀跡の位置、遺構分布の確認
平成27年(2015)	堀跡の位置、遺構分布の確認(高館 南側斜面)
平成28年(2016)	堀跡の位置、遺構分布の確認(高館 南側斜面及び平坦面)
平成29年(2017)	報告書刊行

なお、高館跡の発掘調査成果については、3カ年の調査実施後に発掘調査報告書を刊行する計画としている。しかし、各年度の発掘調査の内容について正式な報告までの間に、得られた成果の速報的な報告も必要と考えられることから、柳之御所遺跡の概報と合わせて概要報告を行うこととした。なお遺物等を含めた報告の詳細は計画通り、一連の調査終了後にまとめる予定である。

高館跡の調査では隣接する柳之御所遺跡の調査成果と総合して検討を行なう必要性が高いものの、現在の遺跡範囲が異なり旧来の柳之御所遺跡のグリッド上からは外れる部分も広い。さらに、局地的なグリッド範囲としてもきわめて広い範囲になってしまうため、位置関係の把握にも必ずしも有用な点だけではないことが想定された。そのため、ここでは世界測地系の座標に基づいてグリッド表記等を行っている。

柳之御所遺および周辺との位置関係の把握については旧測地系の座標を把握しており、これにより行うことも可能である。

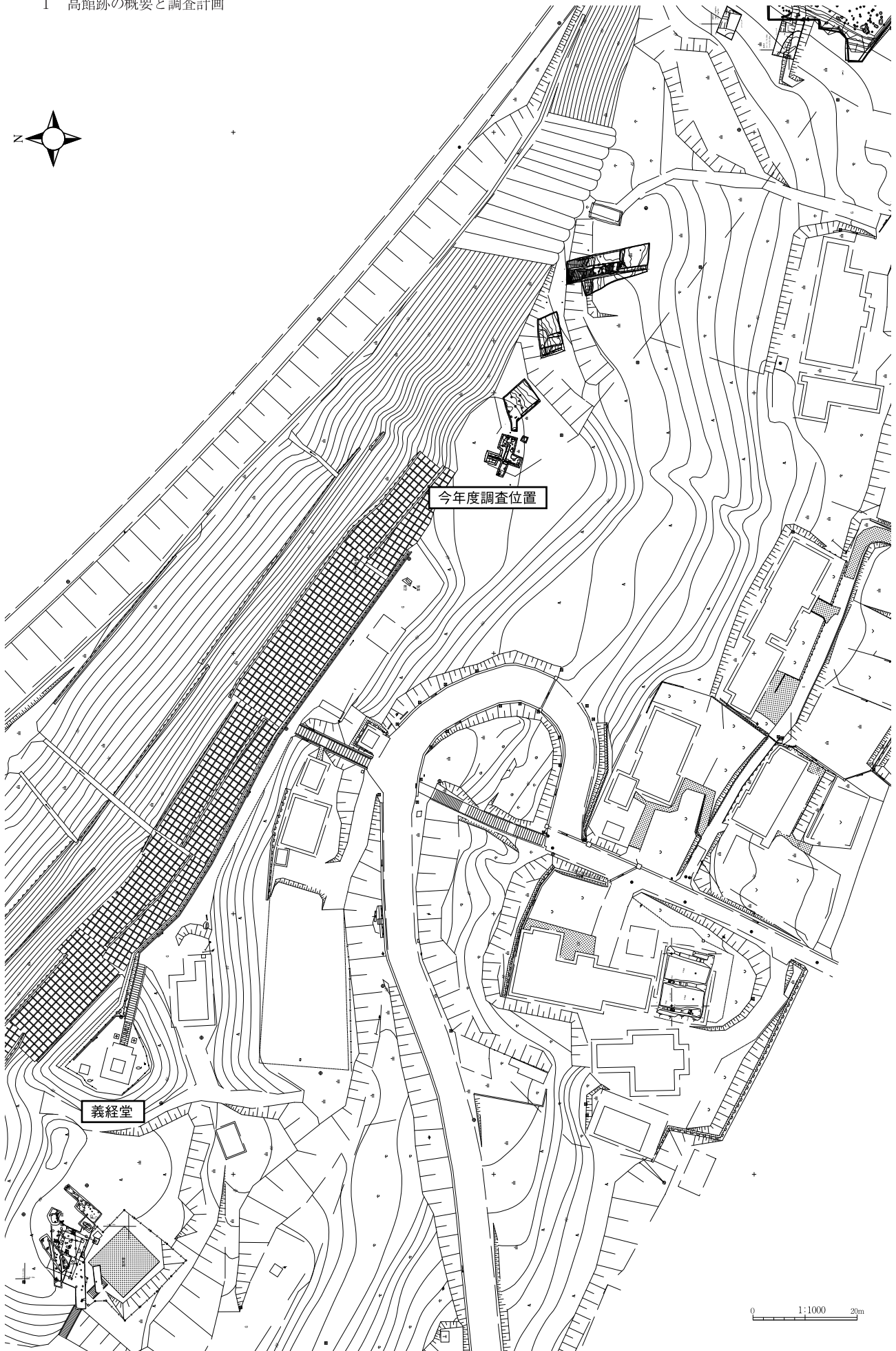


図40 高館跡調査位置

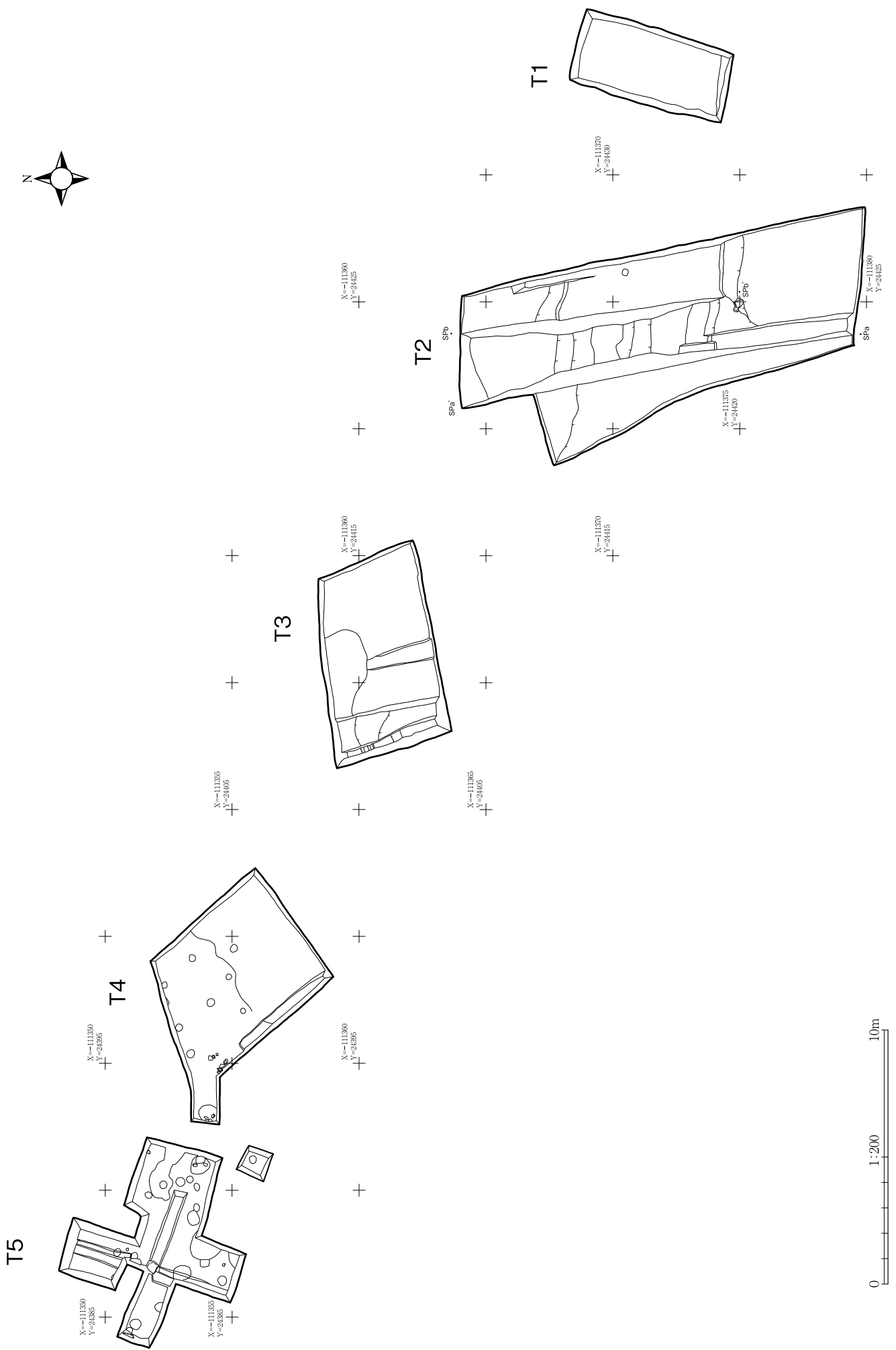


図41 高館跡第7次調査遺構配置図



1 高館跡の概要と調査計画

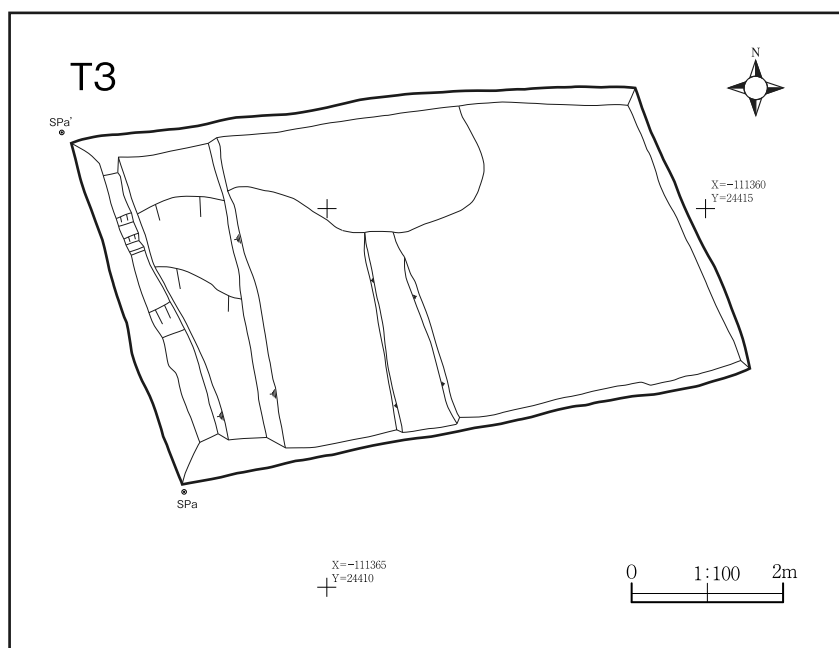
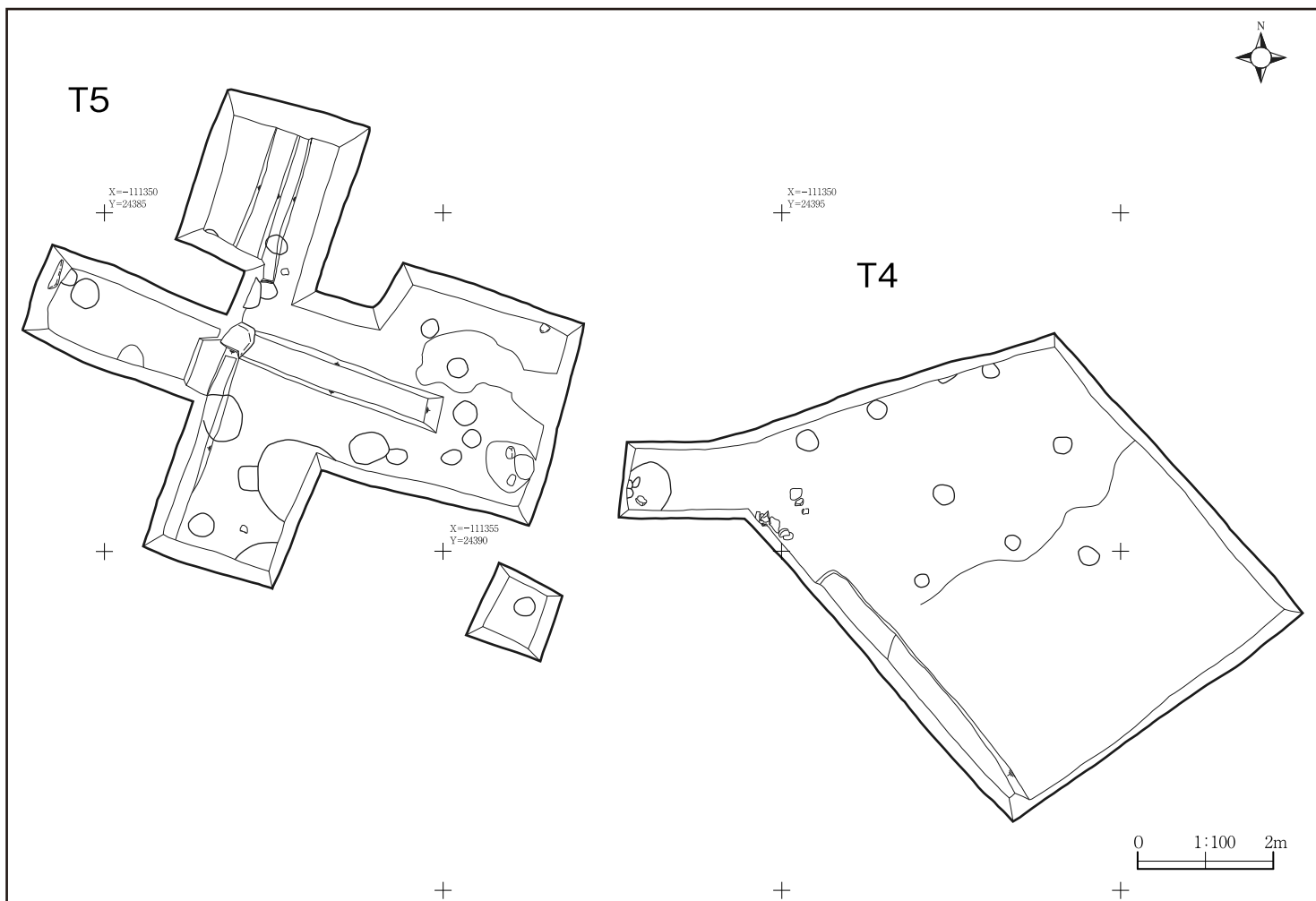


図42 高館跡第7次調査平面図

## 2 高館跡第7次調査の概要

### ① 調査の概要

高館跡第7次調査では高館が位置する丘陵の柳之御所遺跡側に近い範囲で平坦面を中心に遺構の分布を確認することを目的とした(図39)。遺構分布の状況を把握するため、5カ所にトレンチを設定した。

### ② 各トレンチの内容

#### 1 トレンチ (T1)

平泉町教育委員会が実施した高館跡第3次調査で堀跡を確認していたが、詳細な位置の把握や今後の調査位置を定めるため旧調査区の位置を確認したものである。上層の除去による検出にとどめたが、堀の肩部分を確認し、旧調査区の位置を確認できた。

#### 2 トレンチ (T2)

1 トレンチの西側に設定し、堀跡の位置と規模を確認した。この範囲では堀跡を検出し一部の裁ち割りを行った。検出は表土を除去した後の黄褐色の土層で行っているが、斜面の低部にあたる南側部分は全体が整地されており、その面で検出している。SD1については、トレンチでの所見を中心に概略を記す。

SD1は調査区内で幅10-12mで確認した。深さは2.5mで、底面は幅2m程の平坦面があるもののV字に近い逆台形の形状である。立ち上がりはいずれも30°ほどの急な傾斜である。段等の造成はみられない。

土層の堆積はいずれも自然堆積で、上層は遺物が少なく時期の特定は難しいが、土質もしまりが弱く後世の堆積を含むとみられる。中層には焼土や炭化物を含む土層が確認できるものの、その時期の特定はできない。ただし、これらは上方からの崩落等に伴う土層である。下層の土層で褐鉄が発生する土層があることから、この段階での堆積が長く、遺構機能時の土層とも考えられる。いずれの土層も斜面上方からの自然堆積が多いが、底面付近は両肩方向から崩落がみられる。遺物は上層の自然堆積土層には多く含まれるものの、中層以下はきわめて少ない。かわらけが多く、国産陶器も少量だが含まれる。下層付近からの出土遺物も12世紀代のかかわりと国産陶器である。

SD1から斜面下方の南側にかけては、旧表土とみられる黒色土層の上面に人為堆積の黄褐色土層が厚く堆積している。厚さは1.5m程で、しまりが強い土層である。なお、この整地土層は遺物を含んでおらず、堆積からもSD1の掘削時の排土をそのまま斜面下方に盛り上げたことがわかる。また、幅2~3m程の平坦面が造成されたことになるが、この上面では柱穴等の遺構は確認されなかった。

#### 3 トレンチ (T3)

3 トレンチは斜面中腹の平坦面に設定した。土層の堆積からは、本来の地形は大きく南方に向かって傾斜することがわかる。遺物も表土では近現代のものを含み平坦面の造成はこの段階のもののみとみられる。したがって、現在の地形造成は後世のもので、2 トレンチで確認したSD1にそのまま傾斜したとみられる。

一部を掘り下げたが、土層は斜行し、SD1を確認したトレンチが位置する平坦面方向へ下ることがわかる。

2 高館跡第7次調査の概要

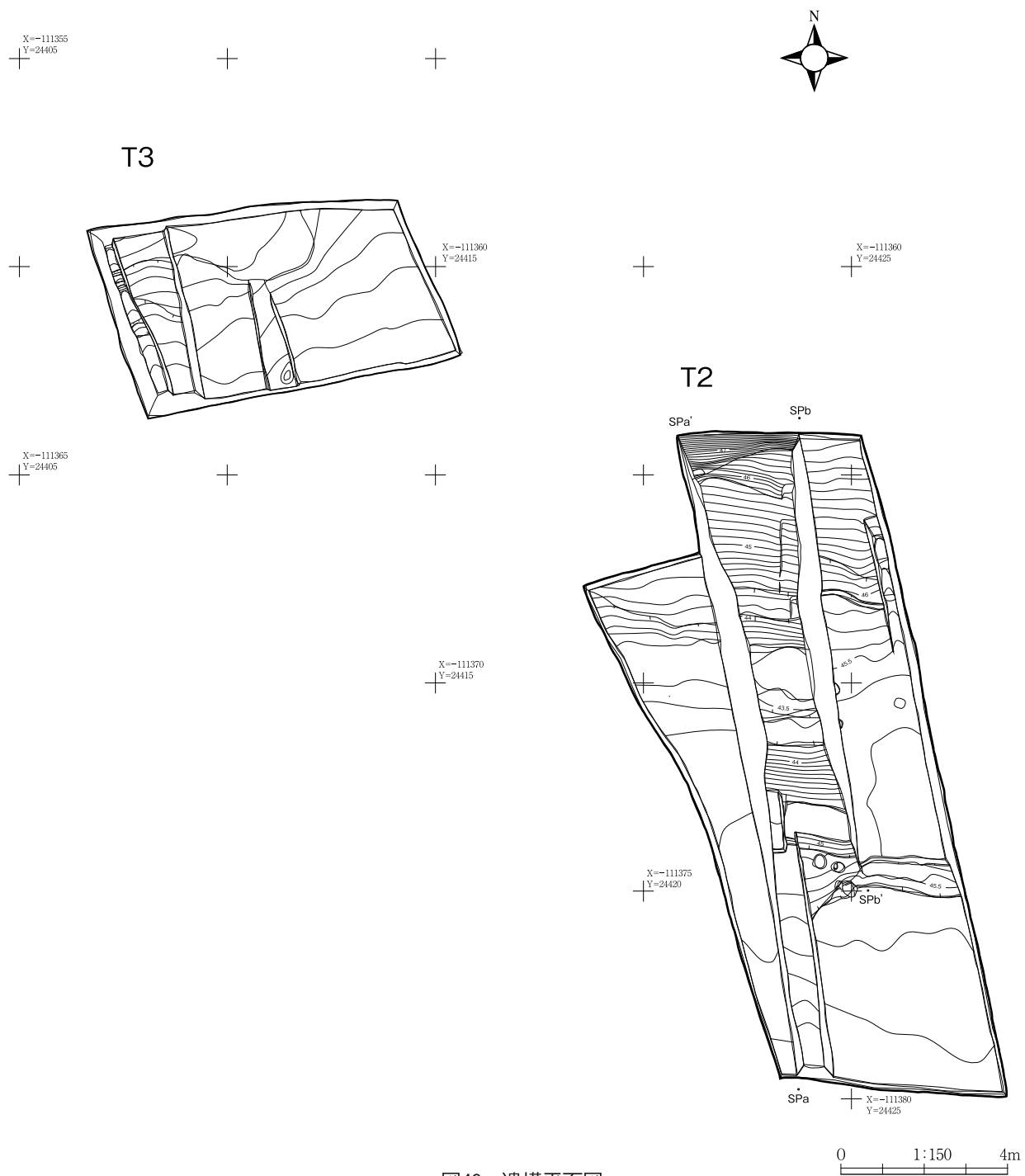


図43 遺構平面図

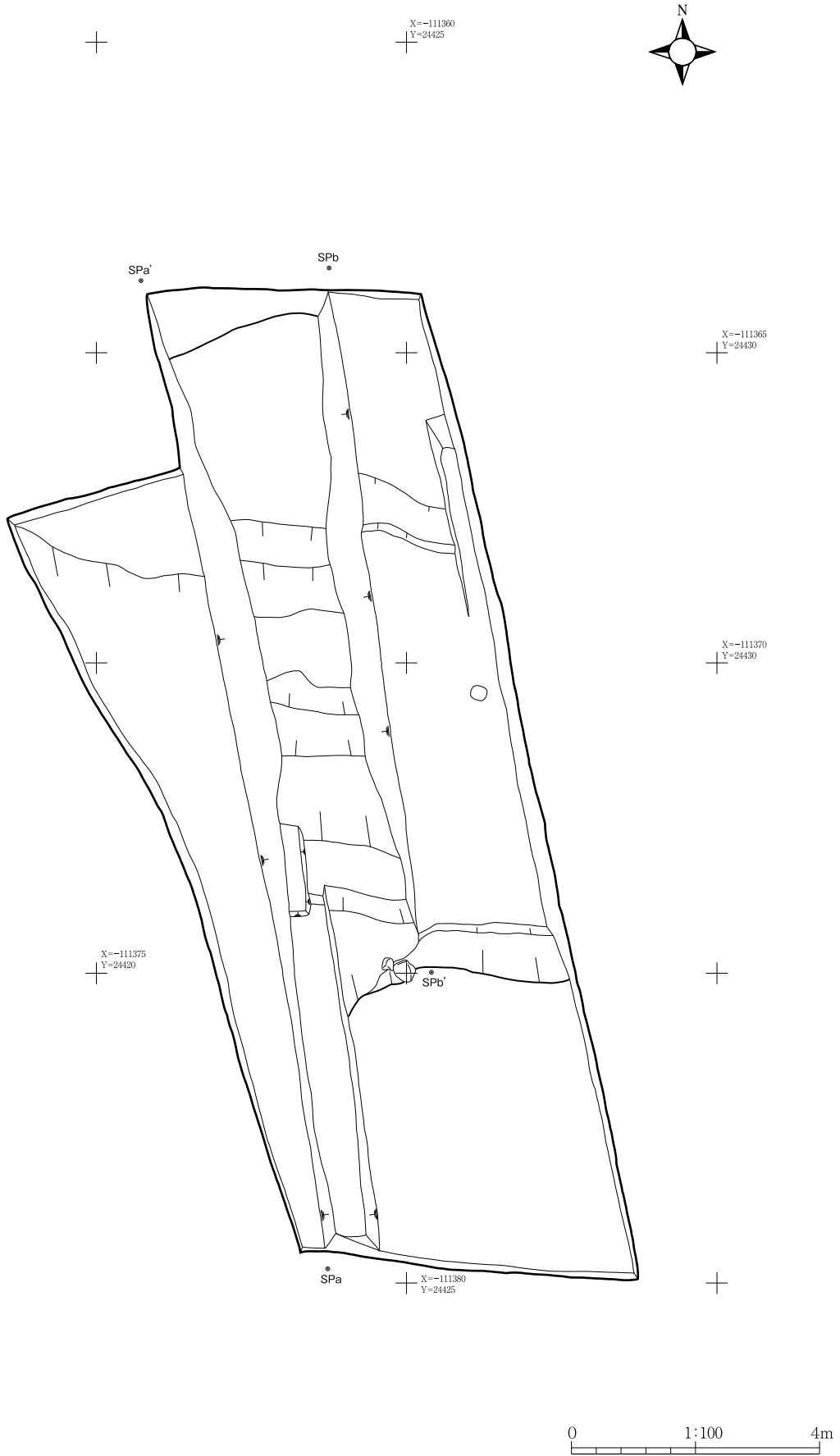


図44 堀跡平面図





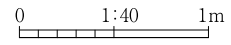
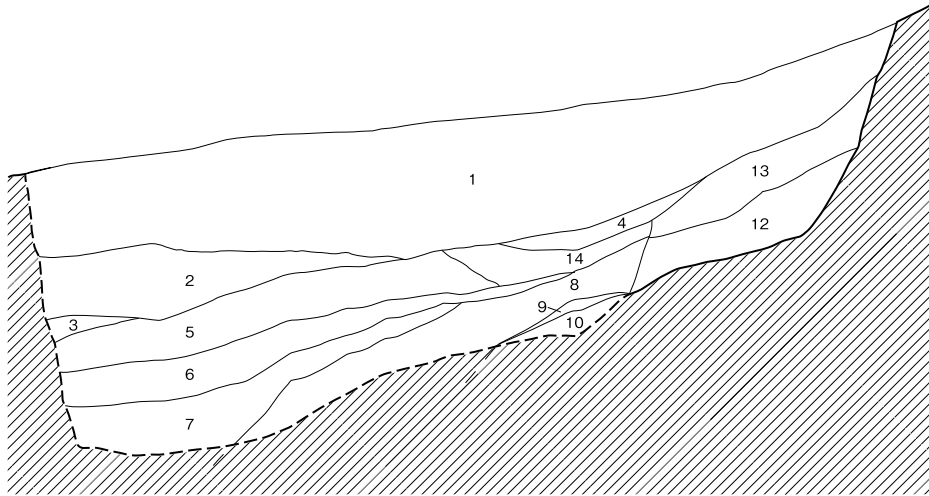


2 高館跡第7次調査の概要

L=50.500

SPa

SPa'



TD7

- |    |                |         |  |
|----|----------------|---------|--|
| 1  | 新しい堆積 平坦面造成    | 75YR3/2 | 黒褐色土 しまり弱い 新しい表土等                              |
| 2  | 新しい堆積 平坦面造成    | 10YR7/4 | にぶい黄褐色土 しまりやや強い 造成土                            |
| 3  | 石の堆積 斜面崩落      | 10YR5/1 | 褐灰色土 しまりややあり 石が多い斜面の崩落 砂礫多い                    |
| 4  | 石の堆積 斜面崩落      | 10YR7/4 | にぶい黄褐色土 石が多い斜面の崩落                              |
| 5  | SD埋土につながる斜面の堆積 | 10YR8/2 | 灰黄褐色土 地山ブロック、炭化物を多く含む                          |
| 6  | SD埋土につながる斜面の堆積 | 10YR8/6 | 黄褐色土 しまりあり 6,7層間にさびが入りこで時間差があるか 地山ブロック炭化物を多く含む |
| 7  | SD埋土につながる斜面の堆積 | 75YR7/1 | 明褐色土 地山ブロック、炭化物を多く含む 7層より下ではかわらけも多く含む          |
| 8  | SD埋土につながる斜面の堆積 | 10YR7/1 | 灰白色土 地山ブロック、炭化物を多く含む                           |
| 9  | SD埋土につながる斜面の堆積 | 10YR7/2 | にぶい黄褐色土 地山ブロック、炭化物を多く含む                        |
| 10 | SD埋土につながる斜面の堆積 | 10YR4/2 | 灰黄褐色土 地山ブロック、炭化物を多く含む                          |
| 11 | 地山             | 10YR8/6 | 黄褐色土   |
| 12 | SDにかかると埋土      | 25YR5/6 | 明黄褐色土 ブロック等を含まない 円礫を含む 旧表土か                    |
| 13 | SDにかかると埋土      | 25YR5/6 | 明黄褐色土 13の崩落土 赤褐色の土 ブロックを含む                     |
| 14 | SDにかかると埋土      |         |  |

図47 3 トレンチ断面図

## 4 トレンチ (T4) ・ 5 トレンチ (T5)

高館の丘陵の中で現在の義経堂として整備されている範囲から東に下った部分の平坦面を対象に調査区を設定した。T4が丘陵の端部、T5が丘陵平坦部の中央に近づいた範囲である。この範囲では30-50cm大の石を複数確認したほか、さらに一段下げた面では柱穴を複数確認している。ただし、この調査では建物跡を構成できていない。

遺物は12世紀代のかわらけ、国産陶器が出土し、輸入陶磁器も少量ながら出土している。

## ③ 調査成果の概要

高館跡第7次調査では、高館跡が所在する丘陵中腹で、大きな堀跡を確認することができた。遺物は12世紀代に限定されており、これまで得られている成果からは当該時期の遺構の可能性が高いと判断できる。今後の調査でこの堀跡の位置を確認し、圍繞された範囲を特定していくことが必要と考えられる。また圍繞された内部の平坦な地形をもつ範囲でもトレンチを設定し調査を行った。この範囲では12世紀代の遺物の出土もあり、時期には不明な点が残るが遺構の分布は確認できた。ただし、地形的な制約も大きく不明な点が多く残されている。

なお、既述の通り高館跡の正式な報告は調査終了後に行う予定とし、遺物の報告や全体の位置づけはその際に行うこととしたい。

(櫻井)

## 引用・参考文献

- 愛知県史編さん委員会 2012 『愛知県史 別編 窯業3 中世・近世 常滑系』
- 岩手県教育委員会 2003 『柳之御所遺跡-第56次発掘調査概報-』 岩手県文化財調査報告書第117集
- 岩手県教育委員会 2008 『柳之御所遺跡-第65次発掘調査概報-』 岩手県文化財調査報告書第125集
- 岩手県教育委員会 2010 『柳之御所遺跡-第69次発掘調査概報-』 岩手県文化財調査報告書第130集
- 岩手県教育委員会 2011 『柳之御所遺跡-第70次発掘調査概報-』 岩手県文化財調査報告書第133集
- 岩手県教育委員会 2012 『柳之御所遺跡-第72次発掘調査概報-』 岩手県文化財調査報告書第135集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『柳之御所跡』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集
- 太宰府市教育委員会 2000 『大宰府条坊跡X V-陶磁器分類編-』 太宰府市の文化財第49集
- 平泉町教育委員会 1993 『柳之御所跡発掘調査報告書-第35次調査概報-』 岩手県平泉町文化財調査報告書第32集
- 平泉町教育委員会 1993 『平泉遺跡群範囲確認調査報告書-柳之御所跡第38次・39次・40次発掘調査-』 岩手県平泉町文化財調査報告書第33集
- MIHO MUSEUMほか 2010 『古陶の譜 中世のやきもの』
- 宮城県教育委員会2006 『中野高柳遺跡IV』 宮城県文化財調査報告書第204集
- 柳之御所遺跡調査事務所 2008 「柳之御所遺跡堀内部地区の遺構変遷 (中間報告 その4)」 『平泉文化研究年報』 第8号 pp.65-75



表11-1 遺物観察表（かわらけ）（以下、表の遺構名では次数を省略して記す）

掲載番号	器種名	遺構名	層位	口径	器高	底径	残存率(%)	色調	備考	登録番号	
1	ロクロ 大	SD1		D6	-	(1.2)	8.6	55	2.5Y8/3淡黄		76ROk156
2	ロクロ 大	SD1		D9	14.8	3.1	7.0	25	10YR5/2灰黄褐		76ROk142
3	ロクロ 大	SD1		D9	14.0	3.8	8.0	70	7.5YR7/3こぶい橙	海綿骨針を含む	76ROk171
4	手づくね 大	SD1		D4	12.2	2.7	-	35	2.5Y7/2灰黄		76ROk163
5	手づくね 大	SD1		D4	15.5	3.3	-	70	2.5Y7/3浅黄		76ROk164
6	手づくね 大	SD1		D4	12.8	2.6	-	45	2.5Y7/2灰黄		76ROk165
7	手づくね 大	SD1		D4	13.3	2.7	-	100	2.5Y7/2灰黄		76ROk166
8	手づくね 大	SD1		D4	(12.4)	2.7	-	25	2.5Y8/2灰白		76ROk184
9	手づくね 大	SD1		D4	14.4	3.3	-	60	2.5Y7/3浅黄		76ROk185
10	手づくね 大	SD1		D5	13.5	-	-	20	10YR8/2灰白		76ROk179
11	手づくね 大	SD1		D5	12.0	2.1	-	20	10YR8/2灰白		76ROk180
12	手づくね 大	SD1		D5	13.5	2.8	-	80	10YR7/4こぶい黄橙		76ROk197
13	手づくね 大	SD1		D5	(14.8)	2.6	-	45	2.5Y7/3浅黄	海綿骨針含む	76ROk198
14	手づくね 大	SD1		D9	14.2	3.2	-	40	2.5Y8/2灰白		76ROk141
15	手づくね 大	SD1		D6	(12.2)	2.2	-	15	2.5Y7/3浅黄		76ROk155
16	手づくね 大	SD1		D6	12.0	2.6	-	25	2.5Y8/1灰白		76ROk159
17	手づくね 大	SD1		D4	12.6	2.6	-	15	2.5Y8/2灰白		76ROk178
18	手づくね 大	SD1		D9	-	3.2	-	20	2.5Y7/2灰黄		76ROk143
19	手づくね 大	SD1		D9	(13.4)	2.3	-	25	2.5Y8/2灰白		76ROk144
20	手づくね 大	SD1		D9	14.1	2.6	-	30	10YR8/2灰白		76ROk145
21	手づくね 大	SD1		D9	13.7	3.0	-	40	10YR8/1灰白		76ROk172
22	手づくね 大	SD1		D9	-	2.0	-	30	10YR8/2灰白		76ROk181
23	手づくね 大	SD1		D9	11.7	2.5	-	20	2.5Y7/2灰黄		76ROk182
24	手づくね 大	SD1		D6	12.6	(2.6)	-	15	2.5Y8/2灰白		76ROk158
25	手づくね 小	SD1		D4	9.0	1.6	-	45	7.5Y7/1灰白		76ROk161
26	手づくね 小	SD1		D4	8.8	2.2	-	90	2.5Y7/2灰黄		76ROk162
27	手づくね 小	SD1		D4	9.0	1.8	-	45	5Y8/2灰白		76ROk177
28	手づくね 小	SD1		D6	9.5	2.2	-	60	10YR8/3浅黄橙		76ROk157
29	手づくね 小	SD1		D6	8.6	1.9	-	50	2.5Y7/2灰黄		76ROk154
30	手づくね 小	SD1		D6	9.0	1.7	-	50	2.5Y7/3浅黄		76ROk160
31	内折れ	SD1		D9	-	0.8	-	15	5Y7/2灰白	内折れ 海綿骨針含む	76ROk183
45	ロクロ 大	SD1		C1~C9	-	-	(8.0)	-	7.5YR7/6橙		76ROk111
46	ロクロ 大	SD1		C1~C9	(12.7)	3.6	(7.2)	40	7.5YR8/3浅黄橙	海綿骨針を多く含む	76ROk112
47	ロクロ 大	SD1		C1~C9	-	(2.8)	(6.8)	50	10YR8/4浅黄橙	海綿骨針含む	76ROk121
48	ロクロ 大	SD1		C1~C9	(14.0)	3.1	(8.6)	35	7.5YR7/4こぶい橙		76ROk122
49	ロクロ 大	SD1		C1~C9	(10.6)	2.7	6.0	50	5YR8/4淡橙	海綿骨針を含む	76ROk124
50	ロクロ 大	SD1		C1~C9	(11.2)	3.3	(5.8)	20	7.5Y8/3淡黄	海綿骨針を含む	76ROk108
51	ロクロ 大	SD1		C1~C9	12.8	2.6	-	15	7.5YR8/2灰白		76ROk137
52	ロクロ 大	SD1	82-105・106	C1~C9	(14.0)	3.5	-	30	2.5Y8/3淡黄	海綿骨針を含む	76ROk126
53	ロクロ 大	SD1	82-105・106	C1~C9	-	(2.3)	7.0	30	10YR8/2灰白	海綿骨針を含む	76ROk135
54	ロクロ 大	SD1		C1~C9	-	(2.7)	(6.4)	35	7.5YR8/6浅黄橙	海綿骨針を含む	76ROk139
55	ロクロ 大	SD1		C10~C15	-	(4.0)	-	15	10YR7/3こぶい黄橙	内側下半分に煤付着	76ROk105
56	ロクロ 小	SD1		C1~C9	9.6	1.8	6.4	30	10YR7/3こぶい黄橙	海綿骨針を含む	76ROk123
57	ロクロ 小	SD1	82-105・106	C1~C9	(9.6)	1.8	(6.6)	30	7.5YR8/3浅黄橙	海綿骨針を含む	76ROk125
58	ロクロ 小	SD1	82-105	C1~C9	(8.8)	1.5	6.0	85	10YR7/4こぶい黄橙	海綿骨針を含む	76ROk116
59	ロクロ 小	SD1		C1~C9	9.0	1.8	6.6	40	10YR7/3こぶい黄橙	海綿骨針を含む	76ROk119
60	ロクロ 小	SD1		C1~C9	(8.6)	2.8	(5.9)	40	10YR8/2灰白	海綿骨針含む	76ROk138
61	ロクロ 小	SD1		C10~C15	-	1.4	4.6	45	7.5YR8/4浅黄橙		76ROk97
62	ロクロ 小	SD1		C10~C15	-	-	4.7	40	7.5YR7/4こぶい橙		76ROk96
63	ロクロ 小	SD1		C10~C15	(8.4)	1.6	(7.0)	30	2.5Y6/2灰黄		76ROk104
64	柱状高台	SD1		C10~C15	-	(1.7)	(4.6)	-	5YR7/3こぶい橙	海綿骨針を含む	76ROk95
65	手づくね 大	SD1		C1~C9	13.0	2.9	-	15	10YR8/2灰白	海綿骨針を含む	76ROk94
66	手づくね 大	SD1	83-106	C1~C9	13.2	2.3	-	45	10YR8/3浅黄橙		76ROk107
67	手づくね 大	SD1	82-105・106	C1~C9	(11.4)	2.1	-	15	2.5Y7/3浅黄	海綿骨針を含む	76ROk113
68	手づくね 大	SD1	82-105・106	C1~C9	-	2.5	-	20	2.5Y8/2灰白		76ROk114
69	手づくね 大	SD1	82-105	C1~C9	-	2.0	-	15	2.5Y7/3浅黄		76ROk115
70	手づくね 大	SD1		C1~C9	12.1	2.4	-	25	2.5Y8/3淡黄		76ROk117
71	手づくね 大	SD1		C1~C9	12.2	2.5	-	15	5Y7/2灰白		76ROk118
72	手づくね 大	SD1	82-105・106	C1~C9	12.8	2.7	-	20	2.5Y8/3淡黄		76ROk127
73	手づくね 大	SD1	82-105・106	C1~C9	9.8	2.0	-	20	2.5Y8/2灰白		76ROk128

表11-2 遺物観察表 (かわらけ)

掲載番号	器種名	遺構名	層位	口径	器高	底径	残存率(%)	色調	備考	登録番号
74	手づくね 大	SD1	C1~C9	12.8	-	-	15	10YR8/2灰白	油煙有	76ROk129
75	手づくね 大	SD1	C1~C9	12.8	2.6	-	40	10YR7/4にぶい黄橙		76ROk130
76	手づくね 大	SD1	C1~C9	-	2.4	-	15	10YR8/2灰白		76ROk131
77	手づくね 大	SD1	C1~C9	(13.0)	3.0	-	40	10YR8/2灰白		76ROk132
78	手づくね 大	SD1	C1~C9	(14.1)	3.0	-	40	10YR8/3浅黄橙		76ROk133
79	手づくね 大	SD1	C1~C9	(12.6)	2.2	-	20	2.5Y8/2灰白		76ROk134
80	手づくね 大	SD1	C1~C9	13.5	3.2	-	100	10YR8/3浅黄橙		76ROk196
81	手づくね 大	SD1	C1~C9	-	(2.0)	-	10	2.5Y8/2灰白		76ROk140
82	手づくね 大	SD1	82-105・106	-	3.4	-	15	10YR8/2灰白		76ROk136
83	手づくね 大	SD1	C10~C15	13.4	(2.8)	-	15	2.5Y7/2灰黄		76ROk99
84	手づくね 大	SD1	C10~C15	(11.2)	2.5	-	15	2.5Y8/2灰白		76ROk102
85	手づくね 大	SD1	C10~C15	(13.2)	2.6	-	20	2.5Y8/2灰白		76ROk103
86	手づくね 大	SD1	C10~C15	(13.2)	2.3	-	15	5Y8/1灰白		76ROk106
87	手づくね 小	SD1	C1~C9	(8.0)	1.8	-	60	10YR8/2灰白		76ROk100
88	手づくね 小	SD1	C1~C9	8.8	1.7	-	45	10YR8/2灰白		76ROk109
89	手づくね 小	SD1	82-105・106	10.6	1.7	-	20	2.5Y8/3淡黄		76ROk110
90	手づくね 小	SD1	C10~C15	9.9	-	-	20	2.5Y7/2灰黄		76ROk98
91	手づくね 小	SD1	C10~C15	7.5	1.6	-	30	2.5Y8/2灰白		76ROk101
92	手づくね 小	SD1	82-105・106	7.8	1.6	-	40	2.5Y8/3淡黄		76ROk120
115	ロクロ 大	SD1	B4	(14.2)	3.6	(8.0)	30	7.5YR8/4浅黄橙	海綿骨針含む	76ROk211
116	ロクロ 大	SD1	B4	14.2	3.2	8.0	40	10YR7/3にぶい黄橙	海綿骨針を含む	76ROk250
117	ロクロ 大	SD1	B4	(13.8)	3.0	-	25	10YR8/2灰白		76ROk251
118	ロクロ 大	SD1	B4	(12.2)	(3.0)	-	15	10YR8/2灰白		76ROk252
119	ロクロ 大	SD1	B4~B5	13.4	3.3	6.7	90	2.5Y8/4淡黄	海綿骨針を含む	76ROk203
120	ロクロ 大	SD1	B4~B6	-	3.4	-	20	7.5YR6/6橙		76ROk186
121	ロクロ 大	SD1	B4~B6	(14.2)	3.3	(6.8)	20	2.5Y7/3淡黄		76ROk189
122	ロクロ 大	SD1	B6	(13.6)	3.4	(8.0)	30	7.5YR7/6橙		76ROk271
123	ロクロ 大	SD1	B6	13.0	3.3	7.8	45	7.5YR7/4にぶい橙		76ROk272
124	ロクロ 大	SD1	B6	14.3	3.3	7.5	35	10YR8/2灰白		76ROk273
125	ロクロ 大	SD1	B6	(13.8)	3.6	(8.6)	20	10YR7/3にぶい黄橙		76ROk282
126	ロクロ 大	SD1	B6	(12.9)	3.5	(7.2)	50	5YR7/6橙		76ROk289
127	ロクロ 大	SD1	B7	13.0	3.1	7.4	40	7.5YR8/4浅黄橙		76ROk170
128	ロクロ 大	SD1	B7・B8・D5	13.2	3.4	6.2	25	2.5Y8/2灰白		76ROk147
129	ロクロ 大	SD1	B7・B8・D5	(13.0)	(3.0)	-	10	2.5Y7/2灰黄	海綿骨針含む	76ROk149
130	ロクロ 小	SD1	B4~B6	(8.4)	2.1	5.6	70	7.5YR7/4にぶい橙		76ROk175
131	ロクロ 小	SD1	B6	8.6	1.9	6.8	40	7.5YR7/3にぶい橙	海綿骨針を含む	76ROk231
132	ロクロ 小	SD1	B6	-	(1.4)	(5.2)	10	5YR7/4にぶい橙		76ROk269
133	ロクロ 小	SD1	B6	-	(1.3)	-	25	10YR7/2にぶい橙	海綿骨針含む	76ROk270
134	ロクロ 小	SD1	B6	(9.0)	1.7	(6.2)	40	7.5YR8/4浅黄橙	骨針少し含む	76ROk288
135	ロクロ 小	SD1	B7	8.4	1.5	6.2	90	10YR7/3にぶい黄橙		76ROk167
136	手づくね 大	SD1	B4	(12.8)	2.5	-	15	2.5Y7/3浅黄	海綿骨針含む(少)、砂粒多い	76ROk212
137	手づくね 大	SD1	B4	(12.2)	2.5	-	20	2.5Y8/3淡黄		76ROk213
138	手づくね 大	SD1	B4	-	2.8	-	20	10YR8/3浅黄橙		76ROk214
139	手づくね 大	SD1	B4	(14.6)	2.2	-	35	10YR7/3にぶい黄橙		76ROk215
140	手づくね 大	SD1	B4	(13.4)	2.6	-	20	2.5Y8/3淡黄		76ROk216
141	手づくね 大	SD1	B4	14.8	2.3	-	15	10YR8/2灰白		76ROk217
142	手づくね 大	SD1	B4	-	2.4	-	10	2.5Y7/2灰黄		76ROk253
143	手づくね 大	SD1	B4	13.2	2.6	-	100	2.5Y7/2灰黄	海綿骨針を含む	76ROk254
144	手づくね 大	SD1	B4	14.2	2.9	-	35	10YR8/3浅黄橙		76ROk255
145	手づくね 大	SD1	B4	12.8	2.6	-	20	2.5Y7/2灰黄	海綿骨針を含む	76ROk256
146	手づくね 大	SD1	B4~B5	12.5	3.3	-	80	10YR8/2灰白		76ROk207
147	手づくね 大	SD1	B4~B5	12.4	2.8	-	60	10YR8/2灰白		76ROk208
148	手づくね 大	SD1	B4~B5	(12.6)	3.0	-	40	10YR8/2灰白		76ROk209
149	手づくね 大	SD1	B4~B5	(13.4)	2.3	-	20	2.5Y7/2灰黄		76ROk218
150	手づくね 大	SD1	B4~B5	(14.0)	2.8	-	50	2.5Y8/2灰白		76ROk219
151	手づくね 大	SD1	B4~B5	(13.6)	2.6	-	60	2.5Y8/3淡黄		76ROk220
152	手づくね 大	SD1	B4~B5	-	(3.3)	-	15	10YR8/2灰白		76ROk221
153	手づくね 大	SD1	B4~B5	(11.6)	(2.3)	-	10	10YR8/3浅黄橙		76ROk222
154	手づくね 大	SD1	B4~B5	11.0	2.5	-	20	2.5Y8/2灰白		76ROk223
155	手づくね 大	SD1	B4~B5	14.8	3.0	-	20	2.5Y7/2灰黄		76ROk226

表11-3 遺物観察表（かわらけ）

掲載番号	器種名	遺構名	層位	口径	器高	底径	残存率(%)	色調	備考	登録番号
156	手づくね 大	SD1	B4~B5	(12.2)	2.8	-	25	2.5Y7/2灰黄		76ROK227
157	手づくね 大	SD1	B4~B5	(13.2)	2.7	-	20	2.5Y7/3浅黄	摩減著しい	76ROK233
158	手づくね 大	SD1	B4~B6	(13.8)	2.2	-	25	5Y7/2灰白		76ROK173
159	手づくね 大	SD1	B4~B6	10.2	2.2	-	30	5Y6/2灰オリーブ	海綿骨針含む	76ROK174
160	手づくね 大	SD1	B4~B6	14.0	2.7	-	25	2.5Y8/2灰白		76ROK187
161	手づくね 大	SD1	B4~B6	13.1	2.5	-	25	2.5Y7/3浅黄		76ROK188
162	手づくね 大	SD1	B4~B6	12.9	2.4	-	15	10YR8/3浅黄橙		76ROK190
163	手づくね 大	SD1	B4~B6	12.0	(2.5)	-	20	2.5Y7/3浅黄		76ROK191
164	手づくね 大	SD1	B4~B6	13.7	2.9	-	15	10YR8/2灰白		76ROK192
165	手づくね 大	SD1	B4~B6	13.9	2.4	-	20	10YR8/2灰白		76ROK193
166	手づくね 大	SD1	B4~B6	-	(2.3)	-	10	2.5Y8/2灰白	海綿骨針含む(少)	76ROK258
167	手づくね 大	SD1	B4~B6	13.2	2.4	-	97	10YR8/3浅黄橙		76ROK259
168	手づくね 大	SD1	B4~B6	13.4	2.5	-	20	2.5Y7/2灰黄		76ROK260
169	手づくね 大	SD1	B4~B6	12.2	-	-	10	2.5Y6/2灰黄		76ROK261
170	手づくね 大	SD1	B5	12.2	3.0	-	99	10YR8/2灰白		76ROK195
171	手づくね 大	SD1	B5	11.6	2.6	-	20	2.5Y6/2灰黄		76ROK242
172	手づくね 大	SD1	B5	(13.7)	(3.5)	-	20	2.5Y7/2灰黄	内面漆付着	76ROK243
173	手づくね 大	SD1	B5	(13.8)	2.3	-	20	2.5Y8/2灰白		76ROK244
174	手づくね 大	SD1	B5	(15.4)	2.7	-	35	5Y7/2灰白		76ROK249
175	手づくね 大	SD1	B6	12.4	-	-	10	10YR8/2灰白		76ROK230
176	手づくね 大	SD1	B6	13.0	2.3	-	25	2.5Y7/2灰黄		76ROK235
177	手づくね 大	SD1	B6	(12.6)	3.0	-	20	2.5Y7/4浅黄		76ROK237
178	手づくね 大	SD1	B6	13.6	2.4	-	15	2.5Y7/4浅黄		76ROK238
179	手づくね 大	SD1	B6	-	2.6	-	20	5Y7/2灰白	海綿骨針含む(少)	76ROK239
180	手づくね 大	SD1	B6	-	(2.4)	-	10	2.5Y8/2灰白	内側油煙付着	76ROK240
181	手づくね 大	SD1	B6	(13.4)	2.4	-	30	10YR7/3にぶい黄橙		76ROK245
182	手づくね 大	SD1	B6	(13.6)	3.1	-	25	10YR7/2にぶい黄橙		76ROK246
183	手づくね 大	SD1	B6	(13.4)	2.2	-	15	2.5Y8/2灰白	海綿骨針含む	76ROK247
184	手づくね 大	SD1	B6	(12.2)	2.5	-	25	5Y7/2灰白		76ROK262
185	手づくね 大	SD1	B6	(12.1)	3.0	-	20	2.5Y8/3淡黄		76ROK263
186	手づくね 大	SD1	B6	(13.8)	2.1	-	20	5Y7/2灰白		76ROK264
187	手づくね 大	SD1	B6	12.6	3.0	-	25	2.5Y8/3淡黄		76ROK265
188	手づくね 大	SD1	B6	-	2.1	-	35	10YR8/2灰白		76ROK266
189	手づくね 大	SD1	B6	(13.0)	2.4	-	20	7.5YR8/2灰白	海綿骨針含む	76ROK267
190	手づくね 大	SD1	B6	(12.0)	3.0	-	35	10YR8/2灰白		76ROK275
191	手づくね 大	SD1	B6	13.2	2.5	-	15	2.5Y8/2灰白		76ROK276
192	手づくね 大	SD1	B6	12.8	2.6	-	15	2.5Y7/2灰黄		76ROK277
193	手づくね 大	SD1	B6	(13.8)	2.9	-	25	2.5Y7/2灰黄		76ROK279
194	手づくね 大	SD1	B6	(13.0)	2.6	-	15	2.5Y7/4浅黄	海綿骨針を含む。スス付着	76ROK280
195	手づくね 大	SD1	B6	(11.9)	2.8	-	40	10YR8/2灰白		76ROK284
196	手づくね 大	SD1	B6	12.4	2.7	-	15	10YR8/2灰白		76ROK285
197	手づくね 大	SD1	B6	13.4	2.5	-	25	10YR8/2灰白		76ROK287
198	手づくね 大	SD1	B6	14.6	3.1	-	20	2.5Y7/2灰黄		76ROK286
199	手づくね 大	SD1	B6	-	3.3	-	15	2.5Y7/3浅黄	漆付着	76ROK290
200	手づくね 大	SD1	B6	14.4	(3.0)	-	60	2.5Y7/2灰黄		76ROK291
201	手づくね 大	SD1	B6	(13.0)	2.2	-	20	10YR7/2にぶい黄橙		76ROK292
202	手づくね 大	SD1	B6	10.5	2.3	-	20	2.5Y8/2灰白		76ROK293
203	手づくね 大	SD1	B6	11.8	2.5	-	20	10YR7/3にぶい黄橙		76ROK295
204	手づくね 大	SD1	B7	-	2.4	-	10	2.5Y8/2灰白		76ROK151
205	手づくね 大	SD1	B7	14.0	3.1	-	55	2.5Y7/2灰黄		76ROK153
206	手づくね 大	SD1	B7	(11.8)	2.4	-	30	2.5Y8/2灰白		76ROK168
207	手づくね 大	SD1	B7・B8・D5	-	1.5	-	20	2.5Y8/2灰白		76ROK146
208	手づくね 大	SD1	B4~B5	-	(2.7)	-	15	10YR8/3浅黄橙	海綿骨針含む(少)	76ROK229
209	手づくね 大	SD1	B6	(11.6)	2.0	-	40	10YR8/2灰白		76ROK274
210	手づくね 小	SD1	B4	8.5	1.8	-	100	5Y8/2灰白		76ROK194
211	手づくね 小	SD1	B4	7.3	1.3	-	55	10YR8/3浅黄橙		76ROK241
212	手づくね 小	SD1	B4~B5	(9.2)	2.2	-	45	2.5Y7/2灰黄		76ROK205
213	手づくね 小	SD1	B4~B5	8.8	1.6	-	45	10YR8/2灰白		76ROK206
214	手づくね 小	SD1	B4~B5	9.0	1.5	-	45	2.5Y7/3浅黄		76ROK210
215	手づくね 小	SD1	B4~B5	8.0	1.6	-	35	10YR8/2灰白		76ROK224

表11-4 遺物観察表 (かわらけ)

掲載番号	器種名	遺構名	層位	口径	器高	底径	残存率(%)	色調	備考	登録番号	
216	手づくね 小	SD1	B4~B5	8.2	1.7	-	25	2.5Y7/2灰黄		76ROk225	
217	手づくね 小	SD1	B4~B5	(8.8)	2.0	-	30	2.5Y7/3浅黄		76ROk228	
218	手づくね 小	SD1	B4~B6	(9.8)	1.8	-	25	5Y7/2灰白	海綿骨針含む	76ROk257	
219	手づくね 小	SD1	B6	(9.6)	1.7	-	15	2.5Y7/2灰黄		76ROk232	
220	手づくね 小	SD1	B6	9.1	1.5	-	25	2.5Y7/2灰黄		76ROk234	
221	手づくね 小	SD1	B6	-	1.1	-	20	5Y8/1灰白	内面炭化物付着	76ROk236	
222	手づくね 小	SD1	B6	(10.0)	1.8	-	45	2.5Y8/2灰白		76ROk248	
223	手づくね 小	SD1	B6	8.4	2.0	-	75	10YR8/3浅黄橙		76ROk278	
224	手づくね 小	SD1	B6	7.2	1.6	-	30	2.5Y7/2灰黄		76ROk281	
225	手づくね 小	SD1	B6	8.2	2.0	-	40	2.5Y7/3浅黄		76ROk294	
226	手づくね 小	SD1	B7	9.0	1.3	-	25	2.5Y8/2灰白		76ROk152	
227	手づくね 小	SD1	B7	8.0	1.1	-	25	2.5Y8/2灰白		76ROk150	
228	手づくね 小	SD1	B7	(8.8)	1.6	-	45	10YR8/2灰白		76ROk169	
229	内折れ	SD1	B4~B5	-	1.2	-	15	5Y7/2灰白		76ROk204	
230	内折れ	SD1	B4~B6	7.6	1.3	-	40	10YR8/2	内折れ	76ROk176	
231	内折れ	SD1	B6	-	1.1	-	5	5Y7/2灰白		76ROk283	
232	内折れ	SD1	B6	-	1.2	-	10	2.5Y8/2灰白		76ROk296	
320	ロクロ 大	SD1	83-104	A1	-	(1.8)	(7.0)	45	7.5YR8/3浅黄橙		76ROk72
321	ロクロ 大	SD1	83-104	A1	-	(1.6)	7.0	70	2.5YR6/6橙	海綿骨針を含む	76ROk74
322	ロクロ 大	SD1		A1	-	(1.1)	7.5	15	10YR7/2にぶい黄橙	海綿骨針を含む	76ROk80
323	ロクロ 小	SD1	83-105	A1	-	1.4	5.8	90	10YR7/3にぶい黄橙	海綿骨針を含む	76ROk71
324	ロクロ 小	SD1	83-104	A1	(8.2)	1.2	(6.2)	35	10YR7/3にぶい黄橙	海綿骨針を含む	76ROk73
325	ロクロ 小	SD1	83-104	A1	8.0	1.4	6.2	80	7.5Y7/4にぶい橙	海綿骨針を含む	76ROk90
326	ロクロ 小	SD1	83-104	A1	9.0	1.9	4.4	45	10YR7/3にぶい黄橙	海綿骨針を含む	76ROk91
327	手づくね 大	SD1		A1	11.0	2.2	-	30	2.5Y7/2灰黄		76ROk81
328	手づくね 大	SD1		A1	13.6	3.1	-	90	7.5YR8/2灰白	海綿骨針を含む	76ROk84
329	手づくね 大	SD1	82-105	A1	(13.2)	2.8	-	25	10YR8/2灰白		76ROk87
330	手づくね 大	SD1	82-105	A1	-	(2.2)	-	5	2.5Y7/2灰黄	油煙有	76ROk88
331	手づくね 大	SD1	82-104	A1	14.0	2.9	-	85	2.5Y8/3淡黄		76ROk93
332	手づくね 小	SD1		A1	(9.2)	2.1	-	45	2.5Y7/2灰黄		76ROk79
333	手づくね 小	SD1	82-105	A1	-	(1.5)	-	10	5Y7/2灰白	油煙有	76ROk92
334	手づくね 小	SD1		A1	7.8	1.7	-	40	2.5Y8/2灰白		76ROk199
335	手づくね 小	SD1		A1	8.2	1.6	-	45	2.5Y7/3浅黄		76ROk200
336	内折れ	SD1		A1	-	0.5	-	15	2.5Y7/3浅黄		76ROk82
337	内折れ	SD1		A1	-	1.1	-	10	10YR8/2灰白		76ROk83
338	内折れ	SD1	83-104	A1	-	0.8	-	15	2.5Y7/3浅黄		76ROk201
860	ロクロ 大	SD2		14	(13.0)	3.1	(6.6)	25	7.5YR7/4にぶい橙	骨針を多く含む	76ROk56
861	手づくね 大	SD2		14	-	2.4	-	20	10YR8/3浅黄橙		76ROk55
862	ロクロ 大	SD2		11~12	-	-	(7.6)	40	7.5YR8/6浅黄橙		76ROk32
863	ロクロ 大	SD2		11~12	(13.2)	2.2	(6.6)	25	7.5YR7/4にぶい橙		76ROk35
864	ロクロ 大	SD2		11~12	(11.1)	2.9	(5.5)	25	5YR6/4にぶい橙		76ROk45
865	ロクロ 小	SD2		11~12	(8.9)	1.3	(6.2)	60	10YR5/1褐灰	海面骨針を含む	76ROk46
866	手づくね 大	SD2		11~12	(13.9)	2.8	-	40	10YR8/4浅黄橙		76ROk30
867	手づくね 大	SD2		11~12	(12.6)	2.7	-	20	10YR8/3浅黄橙		76ROk31
868	手づくね 大	SD2		11~12	(12.8)	2.6	-	15	2.5Y7/2灰黄		76ROk34
869	手づくね 大	SD2		11~12	(12.8)	2.4	-	25	10YR8/3浅黄橙		76ROk36
870	手づくね 大	SD2		11~12	13.0	2.7	-	30	10YR8/2灰白		76ROk37
871	手づくね 大	SD2		11~12	(14.0)	2.7	-	85	10YR8/2灰白		76ROk38
872	手づくね 大	SD2		11~12	15.8	2.9	-	35	10YR8/2灰白		76ROk40
873	手づくね 大	SD2		11~12	(11.0)	2.3	-	15	10YR8/3浅黄橙		76ROk41
874	手づくね 大	SD2		11~12	(12.0)	2.1	-	25	2.5Y8/2灰白		76ROk43
875	手づくね 大	SD2		11~12	(14.8)	2.5	-	25	10YR8/2灰白	海綿骨針を含む	76ROk44
876	手づくね 大	SD2		11~12	(13.6)	2.7	-	15	2.5Y7/2灰黄		76ROk47
877	手づくね 大	SD2		11~12	(11.8)	(2.1)	-	15	2.5Y8/2灰白		76ROk49
878	手づくね 小	SD2		11~12	8.8	1.7	-	35	10YR8/3浅黄橙		76ROk50
879	手づくね 小	SD2		11~12	(9.8)	1.6	-	50	10YR8/3浅黄橙		76ROk48
880	手づくね 小	SD2		11~12	8.8	1.7	-	95	7.5YR8/2灰白		76ROk33
881	手づくね 小	SD2		11~12	(8.9)	1.5	-	45	2.5Y8/3淡黄		76ROk39
882	手づくね 小	SD2		11~12	8.8	1.6	-	50	2.5Y8/2灰白	海綿骨針を含む	76ROk42
883	ロクロ 大	SD2		9~10	(12.4)	2.8	(6.6)	30	4.5YR8/6浅黄橙	海綿骨針含む	76ROk18



表11-5 遺物観察表（かわらけ）

掲載番号	器種名	遺構名	層位	口径	器高	底径	残存率(%)	色調	備考	登録番号	
884	ロクロ 大	SD2	9~10	(13.2)	4.2	(7.6)	45	5YR7/6橙		76ROk19	
885	ロクロ 小	SD2	9~10	8.4	1.3	6.0	20	5YR7/6橙		76ROk21	
886	ロクロ 小	SD2	9~10	6.6	1.9	(4.7)	30	7.5YR7/4にぶい橙		76ROk13	
887	手づくね 大	SD2	9~10	(12.0)	2.1	-	20	2.5Y8/3淡黄		76ROk1	
888	手づくね 大	SD2	9~10	(14.0)	2.5	-	20	2.5Y8/3淡黄		76ROk3	
889	手づくね 大	SD2	9~10	12.8	2.6	-	40	10YR8/3浅黄橙		76ROk4	
890	手づくね 大	SD2	9~10	(12.5)	2.8	-	40	10YR8/3浅黄橙		76ROk5	
891	手づくね 大	SD2	9~10	12.0	3.1	-	30	10YR8/3浅黄橙		76ROk6	
892	手づくね 大	SD2	9~10	(12.2)	2.5	-	15	2.5Y7/2灰黄		76ROk7	
893	手づくね 大	SD2	9~10	-	2.4	-	15	2.5Y8/2灰白		76ROk9	
894	手づくね 大	SD2	9~10	(11.8)	2.4	-	20	10YR8/3浅黄橙		76ROk10	
895	手づくね 大	SD2	9~10	(12.8)	(2.8)	-	15	2.5Y8/2灰白		76ROk11	
896	手づくね 大	SD2	9~10	(14.6)	(3.1)	-	15	2.5Y8/3淡黄		76ROk12	
897	手づくね 大	SD2	9~10	-	2.2	-	15	2.5Y8/1灰白		76ROk15	
898	手づくね 大	SD2	9~10	14.0	2.7	-	70	2.5Y8/2灰白		76ROk16	
899	手づくね 大	SD2	9~10	(12.6)	2.5	-	20	10YR8/3浅黄橙		76ROk20	
900	手づくね 大	SD2	9~10	-	2.1	-	10	10YR8/3浅黄橙		76ROk14	
901	手づくね 小	SD2	9~10	7.0	1.8	-	45	10YR7/2黄橙		76ROk8	
902	手づくね 小	SD2	9~10	(8.6)	1.5	-	35	2.5Y8/2灰白		76ROk17	
903	手づくね 小	SD2	9~10	7.2	1.2	-	-	2.5Y7/3浅黄		76ROk22	
904	手づくね 小	SD2	9~10	9.2	1.6	-	60	2.5Y8/2灰白		76ROk23	
905	ロクロ 大	SD2	8	(14.0)	3.0	(7.5)	-	10YR8/2灰白		76ROk29	
906	ロクロ 大	SD2	8	(13.3)	3.5	(7.9)	20	7.5YR7/6橙	海綿骨針を含む	76ROk57	
907	ロクロ 小	SD2	8	-	(1.8)	(6.2)	-	10YR7/4にぶい黄橙		76ROk54	
908	手づくね 大	SD2	8	13.2	2.6	-	45	10YR8/3浅黄橙		76ROk24	
909	手づくね 大	SD2	8	(12.7)	2.2	-	45	7.5YR8/3浅黄橙		76ROk27	
910	手づくね 大	SD2	8	(14.2)	(3.3)	-	15	2.5Y7/3浅黄		76ROk51	
911	手づくね 大	SD2	8	(14.0)	2.6	-	20	2.5Y8/1灰白		76ROk53	
912	手づくね 大	SD2	7	(14.0)	2.6	-	40	2.5Y7/2灰黄		76ROk25	
913	手づくね 大	SD2	7	12.7	2.5	-	70	10YR8/2灰白		76ROk26	
914	手づくね 小	SD2	8	(8.1)	1.4	-	40	10YR8/3浅黄橙		76ROk28	
915	手づくね 小	SD2	8	(7.8)	1.3	-	50	2.5Y8/3淡黄		76ROk52	
916	ロクロ 大	SD2	2	(13.4)	3.5	(7.6)	40	5YR8/4淡橙	骨針を含む	76ROk58	
917	ロクロ 大	SD2	2	-	-	7.0	-	10YR7/3にぶい黄橙		76ROk68	
918	ロクロ 大	SD2	2	-	(1.4)	6.4	-	2.5Y8/2灰白	海綿骨針含む	76ROk70	
919	柱状高台	SD2	2	-	(2.3)	(5.8)	-	5YR6/4にぶい橙		76ROk69	
920	手づくね 大	SD2	2	(11.6)	2.2	-	25	2.5Y8/2淡黄		76ROk60	
921	手づくね 大	SD2	2	(13.3)	2.2	-	50	2.5Y7/3浅黄		76ROk61	
922	手づくね 大	SD2	2	(13.6)	2.4	-	35	2.5Y8/2灰白		76ROk63	
923	手づくね 大	SD2	2	15.0	(2.9)	-	15	10YR8/2灰白		76ROk64	
924	手づくね 大	SD2	2	13.7	2.6	-	80	2.5Y7/2灰黄		76ROk66	
925	手づくね 大	SD2	2	(13.5)	1.9	-	30	10YR8/2灰白		76ROk67	
926	手づくね 小	SD2	2	(9.6)	2.0	-	45	5Y7/2灰白		76ROk59	
927	手づくね 小	SD2	2	(9.0)	1.4	-	45	5Y7/3浅黄		76ROk62	
928	内折れ	SD2	2	-	0.9	-	5	5Y7/2灰白		76ROk65	
929	手づくね 小	SD2	80-107	1	(8.2)	1.7	-	60	10YR8/1灰白		76ROk75
930		SD2	2	φ3.5×4.8	1.1	-	-	2.5Y8/2灰白	穿孔	76ROk202	
956	ロクロ 小	表土~検出面	I~II層	(8.0)	1.4	5.8	30	10YR7/3にぶい黄橙		76ROk78	
957	ロクロ 小	検出面	II層	8.5	1.9	6.0	70	7.5YR8/4浅黄橙		76ROk86	
958	柱状高台	表土~検出面	I~II層	-	2.4	-	-	10YR7/3にぶい黄橙	海綿骨針を含む	76ROk77	
959	手づくね 大	表土~検出面	I~II層	13.0	2.7	-	25	2.5Y8/3淡黄		76ROk76	
960	手づくね 小	検出面	II層	(9.2)	1.3	-	50	7.5YR8/3浅黄橙		76ROk85	
なし	内折れ	SD1	83-104	A1						76ROk297	
なし	手づくね 小	SD1	82-104	A1					油煙有	76ROk89	
なし		SD1		B6					漆付着	76ROk268	
なし	手づくね 大	SD1		B7・B8・D5	-	-	15	2.5Y6/1灰黄	油煙有	76ROk148	
なし	手づくね	SD2	9~10							76ROk2	

表12-1 遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	産地	器種	部位	出土遺構	層位	重量(g)	備考	登録番号
32	渥美	甕	体	SD1	D6	207.3		ROt704
33	渥美	甕	口	SD1	D6	23.4		ROt705
34	渥美	甕	口	SD1	D6	46.5		ROt670
35	渥美	甕	体	SD1	D5	112.2	押印 692~694、705同一	ROt692
36	渥美	甕	体	SD1	D5	64.5		ROt693
37	渥美	甕	体	SD1	D5	27.5	押印	ROt694
38	渥美	甕	体	SD1	D5	48.3		ROt696
39	渥美	甕	体	SD1	D5	142.6	押印	ROt699
40	須恵器系	甕	体	SD1	D4	55.1		ROt712
41	常滑	鉢?	体	SD1	D5	4.7		ROt701
42	渥美	甕	体	SD1	D5	54.6	押印	ROt695
43	渥美	壺	口	SD1	D5	33.6		ROt697
44	常滑	片口鉢	体	SD1(81-105)	D5	370.0		ROt29
				SD1				
93	渥美	片口鉢	口~体	SD1(82-104)	C1~C9	37.1		ROt95
				SD1(82-105・106)				
94	常滑	片口鉢	体	SD1	C10~C15	13.7		ROt743
95	常滑	山茶碗	口	SD1	C10~C15	1.5	須恵器?	ROt707
96	渥美	甕	体	SD3-SD1 1トレンチ	C1~C9	39.3		ROt720
97	渥美	甕	体	SD1	C10~C15	53.7		ROt744
98	須恵器	甕	体	SD1	C10~C15	24.5	タタキ	ROt740
99	渥美	甕	体	SD1(82-105)	C1~C9	43.6	押印	ROt721
100	渥美	甕	体	SD1	C1~C9	66.9		ROt726
101	渥美	甕	体	SD1	C1~C9	29.4		ROt731
102	渥美か	山茶碗	体	SD1(83-103)	C1~C9	2.5		ROt719
103	渥美	甕	体	SD1	C1~C9	71.2		ROt734
104	渥美	甕	体	SD1	C1~C9	65.1		ROt727
105	渥美	甕	体	SD1	C1~C9	49.1		ROt735
106	常滑	甕	体	SD1(82-105・106)	C1~C9	51.4		ROt728
107	常滑	甕	体	SD1	C1~C9	27.6		ROt729
108	常滑	片口鉢	体	SD1	C1~C9	19.5	725と同一	ROt730
109	常滑	甕か	体	SD1	C1~C9	6.5		ROt742
110	須恵器系	甕	体	SD1(82-105)	C1~C9	44.6	タタキ	ROt723
233	渥美	甕	体	SD1(南側段切り)	B6	15.2		ROt579
234	渥美	甕	頸~体部	SD1	B6	219.8	押印 582同一	ROt581
235	渥美	甕	体	SD1	B6	102.2	押印	ROt582
236	渥美	甕	体	SD1	B6	78.2	押印	ROt583
237	渥美	甕	体	SD1	B6	72.0	押印	ROt584
238	渥美	甕	体	SD1	B6	4.8		ROt593
239	渥美	甕	体	SD1	B6	150.8	押印	ROt591
240	渥美	甕	体	SD1	B6	129.4	押印	ROt592
241	渥美	甕	体	SD1	B6	40.9	押印	ROt629
242	渥美	甕	体	SD1	B6	8.8		ROt630
243	渥美	甕	体	SD1	B6	147.4	押印	ROt594
244	渥美	甕	体	SD1	B6	166.2	押印	ROt595
245	渥美	甕	体	SD1	B6	124.1	押印	ROt635
246	渥美	甕	体	SD1(83-104)	B6	24.7	押印	ROt634
247	渥美	甕	体	SD1	B6	37.2	押印	ROt632
248	渥美	甕	体	SD1	B6	45.7	押印	ROt633
249	渥美	甕	体	SD1	B6	248.9	押印	ROt636
250	渥美	甕	体	SD1	B6	53.7		ROt639
251	渥美	甕	体	SD1	B6	90.4		ROt640
252	渥美	甕	体	SD1	B6	26.3		ROt641
253	渥美	甕	体	SD1	B6	78.2		ROt650
254	渥美	甕	体	SD1	B6	2.8		ROt645
255	常滑	甕	体	SD1(南側段切り)	B6	84.7		ROt578
256	常滑	甕	体	SD1	B6	18.5	押印	ROt600
257	渥美	甕	体	SD1	B6	590.5	押印	ROt644 ROt685 ROt686
258	渥美	甕	体	SD1	B6	447.3	押印	ROt631 ROt637 ROt638
259	常滑	甕	体	SD1	B6	28.8		ROt580
260	常滑	甕	体	SD1	B6	29.5		ROt586
261	常滑	甕	体	SD1	B6	127.0		ROt596
262	常滑	甕	体	SD1	B6	15.2		ROt602
263	常滑	甕	体	SD1	B6	131.7	押印	ROt598 ROt676
264	常滑	甕	口縁~頸部	SD1	B6	88.0		ROt601
265	常滑	鉢か	口	SD1	B6	2.5		ROt603
266	常滑	甕	体	SD1	B6	12.9		ROt605
267	常滑	甕	体	SD1	B6	4.7		ROt608
268	常滑	甕	体	SD1	B6	12.1	押印	ROt609
269	常滑	甕	体	SD1	B6	11.4		ROt610
270	常滑	甕	体	SD1(83-104)	B6	20.7		ROt618
271	常滑	甕	体	SD1(83-104)	B6	15.3		ROt619
272	常滑	甕	体	SD1(83-104)	B6	29.4		ROt621
273	常滑	甕	体	SD1	B6	30.5		ROt622
274	常滑	甕	体	SD1	B6	20.2		ROt623
275	常滑	甕	体	SD1	B6	16.2		ROt624
276	常滑	甕	体	SD1	B6	29.7	押印	ROt625
277	常滑	甕	体	SD1	B6	13.2		ROt626
278	常滑	甕	体	SD1	B6	88.2	3片接合	ROt628
279	常滑	甕	体	SD1	B6	15.2		ROt611
280	常滑	甕	体	SD1	B6	17.7		ROt612
281	常滑か	片口鉢	底~体部	SD1(83-104)	B6	128.0		ROt617
282	常滑	甕	体	SD1(83-104)	B6	9.9		ROt620
283	須恵器	甕	頸	SD1	B6	7.9		ROt651
284	常滑	甕	体	SD1	B6	77.1		ROt587 ROt599
285	須恵器	甕	体	SD1	B6	36.6	タタキ 648と同一	ROt647
286	須恵器	甕	体	SD1	B6	122.2		ROt648
287	常滑	片口碗	口~体部	SD1	B6	16.3		ROt649
288	須恵器系	甕	体部	SD1(83-105)	B6	120.2	タタキ	ROt251 ROt588 ROt654 ROt688 ROt689

表12-2 遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	産地	器種	部位	出土遺構	層位	重量(g)	備考	登録番号
289	須恵器	甕	体	SD1	B5	36.5	タタキ	ROt690
290	渥美	甕	体	SD1	B4	109.9	2片溶接	ROt677
291	渥美	甕	体	SD1	B5~B6	189.8	押印	ROt653
								ROt684
292	常滑	甕	体	SD1	B5~B6	44.3		ROt658
293	常滑	甕	体	SD1	B5~B6	59.4		ROt659
294	渥美	甕	体	SD1	B4	25.1		ROt678
295	渥美	甕	体	SD1	B4	65.7		ROt679
296	渥美	甕	体	SD1(82-104)	B4	9.2		ROt681
297	渥美	甕	体	SD1	B4	36.1	押印	ROt682
298	渥美	甕	体	SD1	B4	179.9	押印	ROt683
299	渥美	甕	体	SD1	B4	31.8	押印	ROt687
300	渥美	甕	体	SD1	B4	61.2	押印	ROt655
301	渥美	甕	体	SD1	B4	39.5		ROt668
302	渥美	甕	体	SD1	B4	32.7		ROt671
303	渥美	甕	体	SD1	B4	52.9		ROt675
304	常滑	甕	体	SD1	B4	39.4		ROt657
305	常滑	甕	頸~体部	SD1	B4	63.9		ROt660
306	常滑	甕	体	SD1	B4	82.6		ROt661
307	常滑	甕	体	SD1	B4	41.8		ROt662
308	常滑	甕	体	SD1	B4	26.2		ROt663
309	常滑	甕	体	SD1	B4	50.4		ROt664
310	常滑	甕	体	SD1	B4	11.4		ROt665
311	常滑	甕	体	SD1	B4	13.5		ROt666
312	常滑	甕	体	SD1	B4	17.2		ROt667
313	常滑	甕	体	SD1	B4	10.6		ROt672
314	常滑	甕	体	SD1	B4	133.3		ROt674
								ROt656
315	常滑	甕	体	SD1	B4	184.7		ROt706
								ROt669
316	渥美	甕	頸~体部	SD1	B4	158.7		ROt738
								ROt486
339	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A4	60.0		ROt486
340	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A4	84.7		ROt487
341	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A4	35.9	2片接合	ROt488
342	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A4	117.5	押印	ROt493
								ROt703
343	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A4	29.8	押印	ROt491
344	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A4	34.8		ROt494
345	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A4	24.8		ROt489
346	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A4	38.7	押印	ROt490
347	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A4	104.5		ROt484
348	常滑	甕	頸~体部	SD1(82-104)	A4	97.8		ROt485
349	常滑	甕	頸~体部	SD1(83-104)	A4	35.0		ROt495
350	渥美	甕	体	SD1	A3	37.8	押印	ROt540
351	渥美	甕	体	SD1	A3	23.1	押印	ROt545
352	渥美	甕	体	SD1	A3	101.8	押印	ROt546
353	渥美	甕	体	SD1	A3	107.8	押印	ROt543
354	渥美	甕	体	SD1	A3	68.8	3片接合	ROt547

掲載番号	産地	器種	部位	出土遺構	層位	重量(g)	備考	登録番号
355	常滑	片口鉢	底~体部	SD1(83-104)	A4	189.4		ROt492
								ROt552
								ROt597
356	渥美	甕	体	SD1	A3	37.3	押印	ROt548
357	須恵器	甕	体	SD1	A3	10.6	タタキ	ROt533
358	渥美	甕	体	SD1	A3	169.8		ROt542
								ROt589
								ROt590
359	渥美	甕	体	SD1	A3	247.0	3片接合 押印	ROt544
								ROt652
360	須恵器	壺	体	SD1	A3	9.1		ROt550
361	須恵器	甕	体	SD1	A3	51.8		ROt549
362	常滑	片口鉢	口	SD1	A3	8.6		ROt534
363	常滑	甕	体	SD1	A3	15.5		ROt536
364	常滑	甕	体	SD1	A3	13.2		ROt537
365	常滑	甕	体	SD1	A3	32.2		ROt538
366	常滑	甕	体	SD1	A3	12.3		ROt553
367	常滑	甕	体部か	SD1	A3	14.9		ROt554
368	常滑	甕	体	SD1	A3	15.7		ROt555
369	常滑	甕	体	SD1	A3	26.8	押印	ROt558
370	常滑	甕	体	SD1	A3	9.2	559~561 同一個体か	ROt559
371	常滑	甕	体	SD1	A3	6.5		ROt560
372	常滑	甕	体	SD1	A3	9.2		ROt561
373	常滑	碗	口	SD1	A3	1.0		ROt565
374	常滑	鉢か	口	SD1	A3	3.8		ROt566
375	常滑	片口鉢	体	SD1	A3	16.6		ROt572
376	常滑	甕	体	SD1	A3	79.0	押印	ROt575
377	常滑	甕	体	SD1	A3	70.0		ROt562
378	常滑	片口鉢	体	SD1	A3	86.8	高台剥れ	ROt573
379	常滑	甕	体	SD1	A3	30.0		ROt576
380	常滑	甕	体	SD1	A3	122.4		ROt577
								ROt607
								ROt698
381	渥美	甕	体	SD1	A2	65.9	押印	ROt525
								ROt715
382	常滑	甕	体	SD1	A3	111.6	押印	ROt541
								ROt613
383	渥美	甕	体	SD1	A2	220.9	押印	ROt507
								ROt642
								ROt643
384	渥美	甕	体	SD1	A2	22.1		ROt691
								ROt497
385	渥美	甕	体	SD1	A2	32.0	押印	ROt498
386	渥美	甕	体	SD1	A2	12.2		ROt500
387	渥美	甕	体	SD1	A2	30.3		ROt501
388	渥美	甕	体	SD1	A2	37.0		ROt502
389	渥美	甕	体	SD1	A2	37.5	押印	ROt503
390	渥美	甕	体	SD1	A2	41.5	押印	ROt504

表12-3 遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	産地	器種	部位	出土遺構	層位	重量(g)	備考	登録番号	掲載番号	産地	器種	部位	出土遺構	層位	重量(g)	備考	登録番号
391	渥美	甕	体	SD1	A2	73.1		ROt505	440	渥美	甕	体	SD1(82-105)	A1	12.5		ROt171
392	渥美	甕	体	SD1	A2	59.1	押印	ROt506	441	渥美	甕	体	SD1(82-105)	A1	27.3		ROt172
393	渥美	甕	体	SD1	A2	93.9		ROt508	442	渥美	甕	体	SD1(82-105)	A1	9.0		ROt173
394	渥美	甕	体	SD1	A2	39.6		ROt509	443	渥美	甕	体	SD1(82-105)	A1	15.0		ROt174
395	渥美	甕	体	SD1	A2	14.2	押印	ROt510	444	渥美	甕	体	SD1(82-105)	A1	70.2		ROt175
396	渥美	甕	頸~体部	SD1	A2	14.2	押印	ROt511	445	渥美	甕	体	SD1(82-105)	A1	28.0		ROt176
397	渥美	甕	体	SD1	A2	131.7		ROt513	446	渥美	片口鉢	体	SD1(82-105)	A1	24.0		ROt177
398	渥美	甕	体	SD1	A2	35.6		ROt514	447	渥美	甕	体部	SD1(82-106)	A1	48.8	押印	ROt211
399	渥美	甕	体	SD1	A2	151.4	押印	ROt515	448	渥美	甕	体部	SD1(82-106)	A1	28.6	押印	ROt212
400	渥美	鉢	体	SD1	A2	13.6		ROt516	449	渥美	甕	体部	SD1(82-106)	A1	31.7		ROt213
401	渥美	甕	体	SD1	A2	23.6		ROt517	450	渥美	甕	体部	SD1(83-105)	A1	72.6	押印	ROt243
402	渥美	甕	体	SD1	A2	18.3		ROt518	451	渥美	甕	体部	SD1(83-105)	A1	90.5		ROt242
403	渥美	甕	体	SD1	A2	43.9	押印	ROt520	452	渥美	甕	体部	SD1(83-105)	A1	11.9		ROt244
404	渥美	甕	体	SD1	A2	44.8		ROt521	453	渥美	壺	体部	SD1(83-105)	A1	6.4	刻画文	ROt245
405	渥美	甕	体	SD1	A2	42.4	押印	ROt522	454	渥美	甕	体部	SD1(83-105)	A1	65.2	押印	ROt246
406	渥美	甕	体	SD1	A2	114.2		ROt523	455	渥美	甕	体部	SD1(83-105)	A1	17.0	押印	ROt247
407	渥美	甕	口	SD1	A2	6.5		ROt524	456	渥美	甕	体部	SD1(83-105)	A1	17.8		ROt248
408	常滑	碗か	口	SD1	A2	5.7		ROt526	457	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	91.1		ROt278
409	常滑	甕	体	SD1	A2	7.0		ROt527	458	渥美	片口碗か	口	SD1(82-104)	A1	2.4		ROt280
410	常滑	甕	体	SD1	A2	15.9		ROt528	459	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	3.2		ROt289
411	常滑	甕	体	SD1	A2	5.3		ROt496	460	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	43.1		ROt281
412	須恵器	甕	体	SD1	A2	18.7	タタキ	ROt529	461	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	51.7	押印	ROt286
413	須恵器	甕	体	SD1	A2	13.3		ROt530	462	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	56.8	押印	ROt287
414	須恵器	甕	体	SD1	A2	42.8		ROt531	463	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	22.1	押印	ROt288
415	須恵器	甕	体	SD1	A2	4.1		ROt532	464	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	45.9	押印	ROt290
416	渥美	甕	体部	SD1(82-104)	A1	11.1	押印	ROt61	465	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	41.4	押印	ROt291
417	渥美	碗	口	SD1(82-104)	A1	5.4		ROt94	466	渥美	壺	体	SD1(82-104)	A1	15.9	押印	ROt292
418	渥美	片口鉢	口	SD1(82-104)	A1	3.3		ROt96	467	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	52.3	押印	ROt293
419	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	13.1		ROt97	468	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	23.9	押印	ROt294
420	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	9.5		ROt98	469	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	32.2	押印	ROt295
421	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	12.6	押印	ROt99	470	渥美	甕	体	SD1(82-105)	A1	26.4		ROt300
422	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	21.3		ROt100	471	渥美	甕	体部	SD1(82-105)	A1	32.4	押印	ROt301
423	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	12.2	押印	ROt101	472	渥美	甕	体部	SD1(82-105)	A1	117.4	押印	ROt302
424	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	15.3	押印	ROt102	473	渥美	甕	体部	SD1(82-105)	A1	16.3		ROt303
425	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	53.7	押印	ROt103	474	渥美	片口鉢	体部	SD1(82-105)	A1	25.4		ROt305
426	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	38.4	押印	ROt104	475	渥美	壺か	体部	SD1(82-105)	A1	6.6		ROt306
427	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	20.2	押印	ROt105	476	渥美	甕	体~頸	SD1(82-105)	A1	27.7		ROt307
428	渥美	甕	体部	SD1(83-104)	A1	18.8	押印	ROt156	477	渥美	甕	体	SD1(82-105)	A1	35.3		ROt308
429	渥美	甕	体部	SD1(83-104)	A1	20.2		ROt157	478	渥美	甕	体	SD1(82-105)	A1	10.0		ROt309
430	渥美	鉢か	体部	SD1(83-104)	A1	6.0		ROt158	479	渥美	甕	体	SD1(82-105)	A1	23.7		ROt310
431	渥美	甕	体部	SD1(83-104)	A1	30.3		ROt159	480	渥美	甕	体	SD1(82-105)	A1	30.9	押印	ROt312
432	渥美	甕	体部	SD1(83-104)	A1	6.8		ROt163	481	渥美	甕	体	SD1(82-105)	A1	3.3	押印	ROt313
433	渥美	甕	体部	SD1(83-104)	A1	38.7		ROt162	482	渥美	壺	体	SD1(82-105)	A1	18.8		ROt315
434	渥美	甕	体部	SD1(83-104)	A1	10.1		ROt164	483	渥美	甕	体	SD1(82-105)	A1	12.5		ROt316
435	渥美	甕	体部	SD1(83-104)	A1	26.8		ROt165	484	渥美	甕	頸部か	SD1(82-105)	A1	14.2		ROt317
436	渥美	甕	体部	SD1(83-104)	A1	44.9	押印	ROt166	485	渥美	甕	頸部か	SD1(82-105)	A1	10.4		ROt318
437	渥美	甕	体部	SD1(83-104)	A1	7.0	押印	ROt167	486	渥美	甕	口	SD1(82-105)	A1	5.6		ROt340
438	渥美	鉢か	体部	SD1(83-104)	A1	5.5		ROt168	487	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	30.3	押印	ROt369
439	渥美	甕	頸~体	SD1(82-105)	A1	69.1		ROt170	488	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	30.4	押印	ROt370



表12-4 遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	産地	器種	部位	出土遺構	層位	重量(g)	備考	登録番号
489	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	76.8	押印	ROt371
490	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	39.7	押印	ROt372
491	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	14.9	押印	ROt373
492	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	22.2	押印	ROt375
493	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	17.2	押印	ROt376
494	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	41.0	押印	ROt378
495	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	21.7		ROt379
496	渥美	甕	頸部	SD1(83-104)	A1	25.2		ROt381
497	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	9.3		ROt386
498	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	5.5		ROt387
499	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	30.7		ROt388
500	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	28.6	押印	ROt393
501	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	44.1		ROt394
502	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	20.3		ROt396
503	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	50.0		ROt399
504	渥美	甕	口	SD1(83-105)	A1	20.1		ROt403
505	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	32.3		ROt404
506	渥美	甕	頸	SD1(83-105)	A1	21.3		ROt405
507	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	24.6		ROt406
508	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	22.2		ROt407
509	渥美	甕	頸~体部	SD1(83-105)	A1	38.5		ROt408
510	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	28.8	押印	ROt409
511	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	68.5		ROt410
512	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	34.0		ROt412
513	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	23.6		ROt413
514	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	11.6	押印	ROt414
515	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	19.8	押印	ROt415
516	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	35.6		ROt416
517	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	21.6		ROt417
518	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	7.8		ROt418
519	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	53.7		ROt419
520	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	51.3		ROt420
521	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	59.8		ROt468
522	渥美	甕	頸	SD1(82-104)	A1	40.5		ROt469
523	渥美	甕	体	SD1	A1	16.1		ROt475
524	渥美	甕	体	SD1	A1	17.8	押印	ROt481
525	渥美	壺	体	SD1	A1	12.3		ROt482
526	渥美	甕	体	SD1	A1	40.6		ROt483
527	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	90.9		ROt389 ROt471
528	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	85.2	押印	ROt395 ROt402
529	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	78.0	押印	ROt411 ROt563
530	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	125.0	押印	ROt470 ROt519
531	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	19.0	2片接合	ROt339
532	渥美	甕	体部	SD1(82-106)	A1	202.1	押印	ROt214 ROt240 ROt241
533	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	113.1		ROt296 ROt383
534	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	79.2	2片接合 押印	ROt297 ROt627
535	渥美	甕	体部	SD1(82-104)	A1	40.9	押印	ROt93
536	渥美	甕か	体部	SD1(83-105)	A1	14.5		ROt249
537	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	33.4		ROt284
538	渥美か	鉢か	体部	SD1(83-104)	A1	1.3		ROt169
539	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	11.8		ROt202
540	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	18.4		ROt283
541	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	58.0		ROt285
542	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	21.4		ROt299
543	渥美か	甕	体部	SD1(82-105)	A1	28.2		ROt304
544	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	14.5		ROt311
545	渥美	椀	口	SD1(82-105)	A1	1.7		ROt314
546	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	14.1	押印	ROt367
547	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	20.6		ROt368
548	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	66.9	押印	ROt374
549	渥美	鉢か	体	SD1(83-104)	A1	15.8		ROt382
550	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	3.6		ROt384
551	渥美か	碗か	体	SD1(83-104)	A1	1.0		ROt391
552	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	11.9		ROt385
553	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	43.3	押印	ROt397
554	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	17.3		ROt400
555	渥美か	山茶碗	体	SD1(82-105)	A1	1.5	須恵器?	ROt473
556	渥美	甕	口	SD1(83-105)	A1	6.9		ROt472
557	須恵器	甕	体	SD1(82-105)	A1	9.9		ROt203
558	須恵器	壺	体	SD1(82-105)	A1	8.4		ROt454
559	須恵器	壺	体	SD1(82-105)	A1	11.6		ROt455
560	須恵器	甕	体	SD1(82-105)	A1	22.9		ROt456
561	須恵器	甕	体	SD1(83-104)	A1	20.5		ROt463
562	須恵器	甕	体	SD1(83-104)	A1	33.7		ROt464
563	須恵器	壺	体	SD1(83-104)	A1	3.7		ROt465
564	須恵器系	甕?	体	SD1(83-104)	A1	21.7		ROt462
565	須恵器系	甕	口縁	SD1(82-105)	A1	15.2		ROt204
566	須恵器系	壺	頸~体部	SD1(82-104)	A1	60.9		ROt451
567	須恵器系	甕	体	SD1(82-105)	A1	56.9		ROt452
568	須恵器系	甕	体	SD1(82-105)	A1	10.5		ROt457
569	須恵器系	甕	底~体部	SD1(83-104)	A1	19.9		ROt458
570	常滑	鉢	底	SD1(82-104)	A1	26.2		ROt60
571	常滑	甕	口縁部	SD1(82-104)	A1	4.7		ROt63
572	常滑	鉢	底	SD1(82-104)	A1	36.2	押印	ROt59
573	常滑	甕	体部	SD1(82-104)	A1	7.6		ROt62
574	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	36.7	波状文	ROt64
575	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	36.6		ROt65
576	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	7.1		ROt66
577	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	7.5		ROt68
578	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	43.0		ROt67
579	常滑	甕?	体	SD1(82-104)	A1	28.6		ROt69

表12-5 遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	産地	器種	部位	出土遺構	層位	重量(g)	備考	登録番号	掲載番号	産地	器種	部位	出土遺構	層位	重量(g)	備考	登録番号
580	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	36.5	押印	ROt71	629	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	8.9		ROt136
581	常滑	甕	口	SD1(82-104)	A1	2.8		ROt72	630	常滑	甕	体~頸	SD1(83-104)	A1	31.0		ROt139
582	常滑	片口鉢	体	SD1(82-104)	A1	17.3	ケズリあり	ROt74	631	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	6.7		ROt140
583	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	6.3		ROt76	632	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	3.9		ROt141
584	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	4.5		ROt78	633	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	4.4		ROt142
585	常滑	山茶碗	口	SD1(82-104)	A1	1.4		ROt73	634	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	31.8		ROt143
586	常滑	鉢か	体	SD1(82-104)	A1	4.3		ROt75	635	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	9.2		ROt144
587	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	7.3		ROt77	636	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	22.3		ROt145
588	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	27.5		ROt79	637	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	10.4		ROt146
589	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	101.3		ROt80	638	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	20.3	押印	ROt147
590	常滑	鉢	口~体	SD1(82-104)	A1	58.1		ROt81	639	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	9.8		ROt148
591	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	76.5		ROt82	640	常滑	甕	体部	SD1(83-104)	A1	30.5		ROt151
592	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	53.0		ROt83	641	常滑	山茶碗	体部	SD1(83-104)	A1	6.3		ROt152
593	常滑	壺	体	SD1(82-104)	A1	5.0		ROt85	642	常滑	甕	体部	SD1(83-104)	A1	54.6		ROt154
594	常滑	甕	口	SD1(82-104)	A1	10.8		ROt86	643	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	21.9		ROt179
595	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	4.2		ROt87	644	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	17.5		ROt180
596	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	14.9		ROt88	645	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	7.3		ROt182
597	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	10.0		ROt89	646	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	11.9		ROt183
598	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	28.9	押印	ROt90	647	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	33.9		ROt184
599	常滑	甕	体部	SD1(82-104)	A1	25.4		ROt91	648	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	2.5		ROt185
600	常滑	鉢か	体	SD1(83-104)	A1	5.9		ROt106	649	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	10.7		ROt186
601	常滑	片口鉢	体	SD1(83-104)	A1	6.5		ROt107	650	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	17.4	押印	ROt187
602	常滑	片口鉢	体	SD1(83-104)	A1	3.1		ROt108	651	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	4.5		ROt188
603	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	17.4		ROt109	652	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	3.9	押印	ROt191
604	常滑	甕	頸	SD1(83-104)	A1	4.4		ROt110	653	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	3.0		ROt193
605	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	3.9		ROt111	654	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	5.3		ROt196
606	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	29.6		ROt112	655	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	2.7		ROt199
607	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	5.6	押印	ROt113	656	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	8.7		ROt201
608	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	11.2		ROt114	657	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	21.5	押印	ROt190
609	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	19.1		ROt115	658	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	25.3		ROt192
610	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	13.1		ROt116	659	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	15.3		ROt195
611	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	22.2		ROt117	660	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	6.9		ROt197
612	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	15.3		ROt118	661	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	18.2	押印	ROt200
613	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	13.4		ROt119	662	常滑	甕	体	SD1(82-106)	A1	12.1		ROt210
614	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	6.7		ROt120	663	常滑	甕	体部	SD1(83-105)	A1	19.5	押印	ROt215
615	常滑	甕	体部	SD1(83-104)	A1	5.3		ROt121	664	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	43.9	押印	ROt217
616	常滑	甕	体部	SD1(83-104)	A1	13.4		ROt124	665	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	83.6	押印	ROt218
617	常滑	甕	体部	SD1(83-104)	A1	12.5		ROt125	666	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	7.7		ROt219
618	常滑	甕	体部	SD1(83-104)	A1	66.5		ROt126	667	常滑	甕	口	SD1(83-105)	A1	2.7		ROt221
619	常滑	甕	体部	SD1(83-104)	A1	22.5		ROt127	668	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	20.4		ROt225
620	常滑	甕	体部	SD1(83-104)	A1	10.7		ROt130	669	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	22.4		ROt228
621	常滑	甕	頸	SD1(83-104)	A1	4.6		ROt132	670	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	15.7		ROt220
622	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	24.6		ROt134	671	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	14.4	押印	ROt224
623	常滑	甕	体部	SD1(83-104)	A1	2.6		ROt129	672	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	20.2	押印	ROt226
624	常滑	甕	体部	SD1(83-104)	A1	5.1		ROt131	673	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	5.8	押印	ROt229
625	常滑	甕	頸	SD1(83-104)	A1	5.7		ROt133	674	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	4.9		ROt230
626	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	12.2		ROt135	675	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	6.4		ROt231
627	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	35.4		ROt138	676	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	4.2		ROt232
628	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	11.1		ROt137	677	常滑	甕	口	SD1(83-105)	A1	12.9	胎土緻密	ROt233

表12-6 遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	産地	器種	部位	出土遺構	層位	重量(g)	備考	登録番号	掲載番号	産地	器種	部位	出土遺構	層位	重量(g)	備考	登録番号
678	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	5.1	胎土緻密	ROt234	727	常滑	甕	口	SD1(83-104)	A1	3.5		ROt366
679	常滑	甕	体か	SD1(83-105)	A1	3.2		ROt235	728	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	28.6		ROt424
680	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	9.0		ROt236	729	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	32.6		ROt425
681	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	16.2		ROt237	730	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	6.3		ROt426
682	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	10.9		ROt238	731	常滑	甕	底~体部	SD1(83-105)	A1	87.4		ROt427
683	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	11.5		ROt239	732	常滑	甕	頸	SD1(83-105)	A1	13.9		ROt428
684	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	23.8		ROt256	733	常滑	片口鉢	体	SD1(83-105)	A1	32.8		ROt429
685	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	13.1		ROt258	734	常滑	甕	口	SD1(83-105)	A1	4.5		ROt433
686	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	20.1		ROt259	735	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	10.1		ROt434
687	常滑	壺か	体	SD1(82-104)	A1	7.0		ROt260	736	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	41.7		ROt435
688	常滑	壺	体	SD1(82-104)	A1	9.0		ROt261	737	常滑	片口鉢	口	SD1(83-105)	A1	24.5		ROt436
689	常滑	片口鉢	口	SD1(82-104)	A1	10.1		ROt262	738	常滑	片口鉢	体	SD1(83-105)	A1	9.5		ROt437
690	常滑	片口鉢	口	SD1(82-104)	A1	7.6		ROt263	739	常滑	碗か	口	SD1(83-105)	A1	2.0		ROt439
691	常滑	甕	口	SD1(82-104)	A1	17.5		ROt264	740	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	51.0		ROt441
692	常滑	甕	底	SD1(82-104)	A1	33.5		ROt265	741	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	35.3	押印	ROt442
693	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	18.9		ROt267	742	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	17.2		ROt444
694	常滑	甕	口縁部	SD1(82-104)	A1	45.6		ROt272	743	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	19.3	押印	ROt445
695	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	6.2		ROt266	744	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	8.7		ROt446
696	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	3.1		ROt269	745	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	5.8		ROt447
697	常滑	甕	頸	SD1(82-104)	A1	23.4		ROt273	746	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	3.8		ROt448
698	常滑	甕	頸	SD1(82-104)	A1	33.8	2片接合	ROt274	747	常滑	甕	体	SD1	A1	20.4		ROt474
699	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	37.8		ROt275	748	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	15.5		ROt745
700	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	22.3		ROt276	749	常滑	甕	口縁部	SD1	A1	44.9		ROt271 ROt680
701	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	7.4		ROt277	750	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	51.0		ROt70 ROt333
702	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	3.8		ROt322	751	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	83.1	2片接合	ROt282 ROt440
703	常滑	片口鉢	体	SD1(82-105)	A1	43.0		ROt323	752	常滑	甕	体部	SD1(83-104)	A1	31.0		ROt128 ROt254
704	常滑	甕	口	SD1(82-105)	A1	8.5		ROt325	753	常滑	片口鉢	体	SD1(83-105)	A1	74.2		ROt222 ROt364 ROt616
705	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	19.7		ROt327	754	常滑	片口鉢	体	SD1(83-105)	A1	71.5	ケズリ	ROt223 ROt344 ROt438
706	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	102.8		ROt326	755	常滑	片口鉢	体	SD1(83-104)	A1	68.9		ROt342 ROt430 ROt431 ROt535 ROt615
707	常滑	片口鉢	体	SD1(82-105)	A1	19.0		ROt334	756	常滑	片口鉢	体	SD1(83-104)	A1	52.4		ROt343 ROt345 ROt432
708	常滑	片口鉢	口	SD1(82-105)	A1	7.2		ROt335	757	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	31.0		ROt227 ROt733
709	常滑	山茶碗	口	SD1(82-105)	A1	0.9		ROt336	758	常滑	甕	口縁	SD1(82-104)	A1	47.7		ROt252 ROt321
710	常滑	片口鉢	体	SD1(82-105)	A1	6.8	2片接合	ROt337	759	常滑	甕	体部	SD1(83-105)	A1	17.1		ROt250
711	常滑	甕	体	SD1(81-105)	A1	8.6		ROt341									
712	常滑	片口鉢	口~体	SD1(82-105)	A1	24.8		ROt338									
713	常滑	片口鉢	口	SD1(83-104)	A1	4.9		ROt346									
714	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	3.7		ROt348									
715	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	13.5		ROt347									
716	常滑	甕	口	SD1(83-104)	A1	2.7		ROt349									
717	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	9.7		ROt351									
718	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	11.1		ROt352									
719	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	27.4		ROt354									
720	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	3.2		ROt356									
721	常滑	甕?	口	SD1(83-104)	A1	2.7		ROt357									
722	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	37.4		ROt359									
723	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	13.4		ROt360									
724	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	4.5		ROt361									
725	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	14.4		ROt362									
726	常滑	片口鉢	体	SD1(83-104)	A1	4.1		ROt363									

表12-7 遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	産地	器種	部位	出土遺構	層位	重量(g)	備考	登録番号	掲載番号	産地	器種	部位	出土遺構	層位	重量(g)	備考	登録番号
760	常滑か	山茶碗	体	SD1(82-105)	A1	1.3		ROt331	822	常滑	甕	体	SD1(82-105・106)	カクラン	22.7		ROt209
761	常滑か	甕	底部か	SD1(82-105)	A1	8.6	中国陶器片か	ROt332	823	渥美	甕	体	SD1(81-105)	II層	13.7		ROt25
762	常滑か	甕	体	SD1(82-104)	A1	6.6		ROt84	824	渥美	甕	頸	SD1(81-105)	II層	7.9		ROt26
763	常滑	甕	体部	SD1(82-104)	A1	38.5		ROt92	825	常滑	甕	体	SD1(81-105)	II層	11.6		ROt27
764	常滑	甕	体部	SD1(83-104)	A1	15.2		ROt123	826	常滑	鉢?	口縁	SD1(81-105)	II層	2.1		ROt28
765	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	11.8		ROt149	827	渥美か	壺	体	SD1(81-105)	II層	18.0	刻画文か	ROt30
766	常滑	甕	体	SD1	A1	724.3	押印	ROt255	828	常滑	甕	口縁部	SD1(81-105)	II層	31.2		ROt31
								ROt257	829	常滑	甕	体	SD1(83-105)	II層	8.3		ROt33
								ROt328	830	常滑か	甕	体	SD1(83-105)	II層	9.5	押印	ROt34
								ROt512	831	常滑	甕	体	SD1(83-105)	II層	16.6		ROt35
								ROt557	832	常滑	甕	体	SD1(82-105)	II層	7.0		ROt39
								ROt614	833	常滑	鉢	高台部	SD1(82-105)	II層	10.5		ROt41
767	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	124.2		ROt365	834	渥美	甕	体	SD1(82-105)	II層	10.3	押印	ROt42
				SD1				ROt556	835	渥美	甕	口	SD1(82-105)	II層	21.2		ROt43
				SD2 1トレンチ				ROt754	836	渥美	甕	体	SD1(82-105)	II層	14.4		ROt44
				SD1(83-105)				ROt780	837	渥美	甕	体	SD1(82-105)	II層	21.9		ROt45
768	常滑	甕	体	SD1	A1	90.3		ROt423	838	渥美	甕	体	SD1(82-105)	II層	19.3		ROt46
								ROt443	839	渥美	甕	体	SD1(82-105)	II層	48.9		ROt47
								ROt673	840	渥美	甕	体	SD1(82-105)	II層	21.7		ROt48
								ROt702	841	渥美	甕	体	SD1(83-105)	II層	18.1	押印	ROt49
769	常滑	鉢?	体部	SD1(83-104)	A1	2.0		ROt153	842	須恵器	甕	体	SD1(83-105)	II層	8.7	タタキ	ROt50
770	常滑	甕	体部	SD1(83-104)	A1	9.8		ROt155	843	須恵器	甕	体	SD1(83-105)	II層	22.1	タタキ	ROt51
771	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	19.4		ROt178	844	須恵器	甕	体	SD1(82-105)	II層	25.7	タタキ	ROt52
772	渥美	甕	体部	SD1(82-105)	A1	14.7		ROt181	845	常滑	甕	口	SD1(81-104)	II層	6.1		ROt55
773	常滑か	甕	体	SD1(82-105)	A1	4.8		ROt194	846	常滑	鉢?	体	SD1(82-104)	II層	5.6	軟質	ROt57
774	常滑	甕	口縁	SD1(82-104)	A1	14.8		ROt253	847	常滑	甕	体	SD1(81-104)	II層	38.9		ROt56
775	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	16.7		ROt324	848	常滑	甕	口	SD1	II層	35.2		ROt40
776	常滑	甕	体	SD1(83-105)	A1	17.4		ROt216									
777	渥美	鉢	口	SD1(83-105)	A1	5.6		ROt422	ROt358								
778	渥美	甕	体部	SD1(83-104)	A1	92.6	押印 同一個体	ROt160	849	常滑	片口鉢	体	SD1	下層	57.6		ROt717
	渥美	甕	体部	SD1(83-104)	A1	66.5		下層						ROt724			
779	常滑系	?	底か	SD1(83-104)	A1	8.2	胎土緻密(輸入か)	ROt58	931	渥美	片口鉢	口	SD2	11	15.2		ROt768
780	須恵器	甕	体	SD1(82-105)	A1	38.5		ROt453	932	渥美	甕	体	SD2	8	96.3	2片接合 押印	ROt765
								ROt466	933	渥美	甕	体	SD2	8	72.0	押印	ROt766
781	須恵器系	甕	体	SD1	A1	72.0	タタキ	ROt476	934	渥美	甕	体	SD2	8	25.7		ROt767
								ROt646	935	渥美	甕	体	SD2	7	49.0		ROt763
810	常滑	鉢	体	SD1(83-105)	II層	9.2	接合	ROt36	936	須恵器	甕	体	SD2 トレンチ	2	7.0	タタキ	ROt757
811	常滑	鉢	体	SD1(82-105)	II層	2.6		ROt37	937	須恵器	甕	体	SD2	2	3.3	タタキ	ROt758
812	渥美	甕	体	SD1	埋土	16.1	押印	ROt477	938	渥美	甕	体	SD2	2	35.3		ROt759
813	渥美	甕	体	SD1	埋土	29.0	押印	ROt478	939				SD2	2	9.0		ROt781
814	渥美か	片口鉢	底~体部	SD1	埋土	122.7		ROt479	940	渥美	甕	体	SD2	2	70.4		ROt760
815	常滑	甕	体	SD1	上層	32.7		ROt716	941	常滑	甕	体	SD2	2	31.9		ROt761
816	渥美	甕	体	SD1	上層	25.8	714接合	ROt713	942	常滑	甕	口	SD2	2	4.2		ROt762
	渥美	甕	体	SD1 (トレンチ壁)	中層	332.4		ROt714	943	渥美	甕	体	SD2(79-108)	1	147.2		ROt747
817	常滑	片口鉢	体	SD1	クリーニング	37.2		ROt718	944	渥美	片口鉢	底~体部	SD2(79-108)	1	180.5		ROt748
818	渥美	甕	体	SD1(82-105・106)	カクラン	24.8		ROt205	945	須恵器	甕	体部か	SD2(79-108)	1	3.9		ROt751
819	渥美	片口鉢	口	SD1(82-105・106)	カクラン	7.7		ROt206	946	須恵器	甕	体	SD2(79-108)	1	3.8	タタキ	ROt752
820	渥美	山茶碗	体	SD1(82-105・106)	カクラン	3.0		ROt207	947	常滑	甕	体	SD2(83-105)	1	14.2		ROt753
821	常滑	甕	体	SD1(82-105・106)	カクラン	8.5		ROt208	948	常滑か	甕	体	SD2 1トレンチ	1	4.1		ROt755



表12-8 遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	産地	器種	部位	出土遺構	層位	重量(g)	備考	登録番号
949	須恵器	甕	体	SD2 トレンチ	I	5.1	タタキ	ROt756
950	常滑	片口鉢	体	SD2(79-108)	42.0		ROt749	SD2 (80-107)
				I				ROt750
961	渥美	甕	体	東側	II層	20.5		ROt6
962	渥美	甕	体	東側	II層	8.4	押印	ROt7
963	渥美	甕	頸~体	東側拡張部	II層	71.3		ROt23
964	渥美	甕	体	東側拡張部	I層	19.3		ROt20
965	渥美	甕	体	東側拡張部	I層	25.0	押印	ROt21
966	渥美	甕	体	東側拡張部	I層	31.3		ROt22
967	渥美	甕	体	クリーニング		80.4	押印	ROt777
968	渥美	甕	口~頸部	クリーニング		39.5		ROt778
969	渥美	壺	体	東側拡張部	II層	16.9		ROt24
970	渥美か	鉢か碗	口		I層	10.7		ROt776
971	常滑	甕	体	東側	II層	20.3		ROt9
972	常滑	甕	頸部	東側	II層	31.9		ROt12
973	常滑	甕	体	東側	II層	15.8		ROt15
974	常滑	甕	体	東側	II層	11.5	ケズリ	ROt16
975	常滑	甕	体	東側	I~II層	5.8	押印	ROt13
976	常滑	甕	体	東側	I~II層	9.7		ROt14
977	常滑	甕	体	東側	II層	20.4		ROt17
978	常滑	甕	体	表採	その他	22.3	押印	ROt775
979	常滑	壺	体	東側拡張部	I層	7.4		ROt19
980	常滑	鉢	体	東側	II層	9.1	ケズリ	ROt10
981	常滑	甕	体	東側	II層	14.5	押印	ROt11
982	渥美	甕	体	東側	II層	9.3	押印	ROt18
983	渥美	甕	体		I~II層	15.4	刻画か	ROt8
984	須恵器	甕	体	東側拡張部	I層	9.6	タタキ	ROt5
985	須恵器	甕	体部		I~II層	2.6	タタキ	ROt1
986	須恵器	甕	体	(81-106)	II層 (旧表土?)	12.7		ROt779
987	渥美	甕	体	SD3(81-106)	II層	23.4		ROt774
988	須恵器	壺	体	SD1-2の間	II層	8.1		ROt773
989	須恵器系	甕	体部		I~II層	13.1	ケズリ	ROt2
990	須恵器系	壺	体部		I~II層	11.5		ROt3
	常滑	甕	体	SD1	埋土	3.6		ROt480
	須恵器	坏	底~体部	SD1	D4	44.5	9c	ROt711
	常滑	甕	体	SD1	B6	0.7		ROt585
	常滑	不明	体か	SD1	B6	0.8		ROt604
	常滑	甕	体	SD1	B6	1.6	557と接合	ROt606
	常滑	甕	体	SD1	B6	2.4		ROt746
	常滑か	甕	体	SD1	A3	2.5		ROt539
	常滑	甕	体	SD1	A3	3.4		ROt564
	常滑	鉢か	口縁か 高台部	SD1	A3	1.5		ROt567
	常滑	片口鉢	体	SD1	A3	3.1		ROt568
	常滑	片口鉢	体	SD1	A3	1.4		ROt569
	常滑	片口鉢	高台部	SD1	A3	0.6		ROt570
	常滑	片口鉢か	体	SD1	A3	2.3		ROt571
	渥美か	甕	体	SD1	A3	1.4		ROt574
	渥美	甕	体	SD1	A2	2.9		ROt499

掲載番号	産地	器種	部位	出土遺構	層位	重量(g)	備考	登録番号
	常滑	甕	体部	SD1(83-104)	A1	1.6		ROt122
	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	2.9		ROt150
	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	3.4		ROt189
	常滑	甕	体	SD1(82-105)	A1	1.9		ROt198
	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	1.8		ROt268
	常滑か	甕	体	SD1(82-104)	A1	2.5		ROt270
	渥美	甕	体	SD1(82-104)	A1	3.9		ROt279
	渥美か	甕	体	SD1(82-104)	A1	3.0		ROt298
	渥美か	甕	体	SD1(82-105)	A1	0.9		ROt329
	渥美か	山茶碗	体	SD1(82-105)	A1	0.7		ROt330
	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	2.5		ROt350
	常滑か	甕	体	SD1(83-104)	A1	2.3		ROt353
	常滑	甕	体	SD1(83-104)	A1	2.0		ROt355
	渥美	甕	頸部か	SD1(83-104)	A1	6.1		ROt377
	渥美	甕	体部か	SD1(83-104)	A1	0.7		ROt380
	渥美	甕	体	SD1(83-104)	A1	0.5		ROt390
	渥美か	片口鉢	体	SD1(83-105)	A1	0.5		ROt392
	渥美か	甕	体	SD1(83-105)	A1	2.8		ROt398
	渥美	甕	体	SD1(83-105)	A1	3.8	押印	ROt401
	常滑	甕	体	SD1(82-104)	A1	3.5		ROt467
	常滑	甕	体	SD1(83-105)	II層	1.7		ROt32
	常滑	甕	体	SD1(82-105)	II層	3.4		ROt38
	常滑	甕	体	SD1(82-105)	C1~C9	4.9		ROt722
	常滑	片口鉢か	体	SD1	C1~C9	13.3		ROt725
	須恵器	坏	体	SD1(82-105・106)	C1~C9	9.6	9c	ROt736
	須恵器	坏	体	SD1	C1~C9	4.2	9c	ROt737
	須恵器?	塀か	体	SD1	C10~C15	70.9		ROt741
	須恵器?	坏	体	SD1	C10~C15	2.0		ROt739
				SD1	I	0.5		ROt782
	不明	甕	頸部か	SD1	C1~C9	1.0	軟質、土器?	ROt771
	須恵器	坏	底	SD2	11	15.7	9c 回転糸切後 ヘラケズリ再調整	ROt769
	須恵器	坏	口	SD2	11	2.1	9c	ROt770
	須恵器	坏	口	SD2	7	5.5		ROt764
	渥美	甕	体	SD1(82-105)	A1	1.6	細片 同一個体	ROt319
体			ROt320					
	須恵器	坏	底~体部	SD1	B7	37.6	ヘラ切り 9c	ROt708 ROt709
	須恵器	坏	口縁	SD1	A3	1.7	9c	ROt551
	須恵器	坏	体	SD1(82-104)	A1	3.2	9c	ROt449
	須恵器	坏	口		A1	3.0	9c	ROt461
	須恵器	坏	底~体部	SD1(82-104)	A1	37.0	9c 糸切無調整	ROt450 ROt459
	須恵器	坏	口	SD1(83-104)	A1	6.3	9c	ROt460 ROt710
	須恵器	長頸瓶	頸	SD1(82-105)	II層	23.7	9c	ROt53
	須恵器	坏	体	SD1(81-105)	II層	4.9	9c	ROt54
	須恵器	坏	体	SD1-2の間	II層	5.5	9c	ROt772
	須恵器?	坏	底~体	中~西側	II層	4.5	底・体部下半ケ ズリ再調整	ROt4

表13 遺物観察表 (輸入陶磁器)

掲載番号	種別	器種	遺構名	層位	重量(g)	色調	備考	登録番号
111	白磁	壺	SD1	C1~C9	3.4	5Y 7/2灰白		Rog2
112	白磁	壺類	SD1	C1~C9	2.5	7.5Y 7/1灰白		Rog61
113	白磁	壺類	SD1	C1~C9	3.0	5Y 7/2灰白		Rog62
114	白磁	碗	SD1	C10~C15	5.6	5Y 7/2灰白		Rog75
317	白磁	碗	SD1	B6	8.4	5GY 8/1灰白		Rog74
318	青磁	壺類か	SD1	B6	3.7	7.5Y 7/1灰白		Rog59
319	青白磁	合子蓋	SD1	B4	3.0	5GY 8/1灰白		Rog60
782	白磁	碗	SD1(82-104)	A1	1.6	2.5Y 7/1灰白		Rog36
783	白磁	壺類	SD1(82-104)	A1	1.5	5Y 8/1灰白		Rog48
784	白磁	壺類	SD1(82-105)	A1	4.6	10Y 7/2灰白		Rog14
785	白磁	碗	SD1(82-105)	A1	2.0	5Y 6/2灰オリーブ		Rog49
786	白磁	碗	SD1(82-105)	A1	1.9	5Y 8/1灰白		Rog50
787	白磁	碗	SD1(83-104)	A1	1.9	2.5Y 7/2灰黄		Rog21
788	白磁	壺類	SD1(83-104)	A1	16.2	7.5Y 7/1灰白	Ⅲ類	Rog23
789	白磁	碗	SD1(83-104)	A1	1.1	2.5Y 8/1灰白		Rog26
790	白磁	壺類	SD1(83-104)	A1	3.4	2.5Y 7/2灰黄		Rog28
791	白磁	壺類	SD1(83-104)	A1	4.6	7.5Y 7/1灰白		Rog30
792	白磁	壺類	SD1(83-105)	A1	2.2	2.5GY 8/1灰白	Ⅲ類	Rog40
793	白磁	碗	SD1(83-105)	A1	2.0	2.5Y 7/2灰黄		Rog46
794	青磁	碗	SD1(83-104)	A1	2.7	7.5Y 6/2灰オリーブ		Rog20
795	青磁	壺?	SD1(83-104)	A1	4.7	10Y 7/1灰白		Rog37
796	青磁	碗	SD1(83-104)	A1	1.4	5Y 5/2灰オリーブ	龍泉窯系	Rog39
797	青磁	碗	SD1(83-105)	A1	3.8	7.5Y 5/2灰オリーブ	龍泉窯系	Rog42
798	白磁	碗	SD1(82-104)	A1	2.5	2.5GY 8/1灰白		Rog41
799	青白磁	合子蓋	SD1(83-104)	A1	1.2	5GY 7/1明オリーブ灰		Rog31
800	青白磁	碗	SD1(83-104)	A1	0.8	7.5GY 8/1 明緑灰		Rog38
801	青白磁	合子蓋	SD1(83-105)	A1	1.4	5GY 7/1明オリーブ灰		Rog32
802	中国陶器	壺類	SD1(82-104)	A1	1.4	5Y 4/3暗オリーブ	803と同一か	Rog45
803	中国陶器	壺類	SD1(82-104)	A1	1.5	5Y 4/3暗オリーブ	802と同一か	Rog44
804	中国陶器	壺類	SD1(83-104)	A1	4.6	5Y 6/2灰オリーブ		Rog18
805	中国陶器	壺類	SD1(83-104)	A1	3.6	5Y 4/1灰	比熱	Rog24
806	中国陶器	壺類	SD1(83-104)	A1	4.6	5Y 6/2灰オリーブ		Rog29
807	中国陶器	壺	SD1	A2	4.9	5Y 6/3オリーブ黄	高麗か	Rog54
808	青白磁	碗	SD1(82-105)	A2	0.8	2.5GY 8/1灰白		Rog51
809	青磁	碗	SD1	A3	7.7	7.5Y 6/2灰オリーブ	龍泉窯系 内面クシ描文	Rog57
850	白磁	壺類	(80-105)拡張部壁	I~II層	3.9	5Y 6/2灰オリーブ		Rog73
851	白磁	碗	SD1(81-105)	II層	3.4	5Y 7/2灰白		Rog4
852	白磁	碗	SD1(81-105)	II層	1.5	5Y 6/2灰オリーブ		Rog6
853	白磁	壺類	SD1(81-105)	II層	1.2	2.5Y 7/2灰黄		Rog7
854	白磁	壺類	SD1(83-105)	II層	4.7	2.5GY 明オリーブ灰		Rog10
855	青磁	碗	SD1(81-105)	II層	2.5	5GY 7/1明オリーブ灰		Rog5
856	青磁	碗	SD1(83-105)	II層	2.1	7.5Y 5/2灰オリーブ		Rog11
857	中国陶器	壺類	SD1(82-105)	II層	3.0	7.5Y 6/2灰オリーブ		Rog9
858	白磁	壺類	SD1(82-105・106)	カクラン	2.3	10Y 7/2灰白		Rog17
859	中国陶器	壺類	SD1(83-104)	A1	2.6	2.5Y 7/2灰黄		Rog25
951	白磁	壺類	SD2	2	7.1	2.5Y 7/2灰黄		Rog67
952	白磁	碗	SD2	2	1.9	5Y 7/2灰白		Rog68
953	白磁	四耳壺	SD2	8	34.1	5Y 7/2灰白	Ⅱ類	Rog69
954	中国陶器	壺類	SD2	9~10	14.4	2.5Y 5/4黄褐		Rog71
955	白磁	碗	SD2	9~10	2.5	7.5Y 7/1灰白	Ⅲ類	Rog70
991	中国陶器	壺類	東側	II層	10.5	10YR 5/3にぶい黄褐		Rog3
992	白磁	壺		I~II層	1.9	2.5Y 7/1灰白		Rog1
	白磁	碗	SD1	A2	1.2			Rog55
	白磁		SD1	A3	0.9			Rog56
	白磁		SD1	クリーニング	1.5			Rog63
	白磁	碗	SD2	クリーニング	1.3			Rog72
	白磁		SD2(79・80-107)	A1	2.5			Rog64

表14 遺物観察表 (瓦)

掲載番号	器種	遺構名	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	登録番号	掲載番号	器種	遺構名	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	登録番号
1005	軒丸	SD1	A2	2.1	2.5	1.2	6.5	RT31	-	-	SD1	B6	2.0	0.9	0.7	1.0	RT49
1006	軒丸	SD1	C10~C15	4.1	3.6	2.3	31.3	RT82	丸	丸	SD1	A3	4.7	4.2	1.3	35.1	RT50
1007	軒平	SD1 (80-105)	II層	4.1	2.9	2.2	26.8	RT18	平	平	SD1	A3	2.3	3.7	0.7	6.0	RT51
1008	軒平	SD3 1トレンチ (SD1)	C1~C9	4.3	3.5	1.5	35.6	RT89	-	-	SD1	A3	1.7	2.1	0.4	1.7	RT52
1009	軒平	SD2 (80-107)	1	3.5	4.4	1.1	15.0	RT93	-	-	SD1	A3	2.9	1.4	0.9	4.6	RT53
1010	平	SD1 (82-105)	A1	7.7	6.8	2.0	157.0	RT13	-	-	SD1	A3	2.1	1.6	0.7	3.2	RT54
1011	平	SD1 (82-105・106)	C1~C9	5.2	11.0	2.0	129.7	RT65	-	-	SD1	A3	2.4	0.7	0.4	1.9	RT55
1012	平	SD1	C1~C9	5.5	5.4	2.5	168.6	RT67	平	平	SD1	A3	3.4	2.7	1.3	19.0	RT56
1013	平	SD1	C10~C15	7.0	8.4	1.1	82.5	RT71	-	-	SD1	A3	5.5	2.3	1.8	21.5	RT57
1014	平	SD1	C10~C15	7.6	5.6	1.5	113.6	RT84	平	平	SD1 (83-104)	B6	2.5	2.7	0.6	2.8	RT58
1015	平	SD3 1トレンチ	C1~C9	6.7	8.9	2.0	162.4	RT88	-	-	SD1	B6	1.9	1.3	0.7	2.5	RT59
1016	平	SD2 1トレンチ	2	5.6	6.3	2.2	118.8	RT97	-	-	SD1	B6	3.2	2.0	0.9	4.3	RT60
1017	平	SD2	2	7.7	6.1	1.7	98.4	RT109	-	-	SD1	B4~B6	1.6	0.6	0.3	0.9	RT61
1018	丸	SD2 1トレンチ	2	7.0	6.9	1.9	77.6	RT99	丸	丸	SD1	B4~B6	3.8	2.1	0.9	7.8	RT62
-	平	東側	II層	2.3	1.8	0.6	2.9	RT1	平	平	SD1	B4	3.0	2.3	0.9	6.7	RT63
-	平	中~西側	II層	2.5	4.0	0.9	9.7	RT2	平	平	SD1 (82-105)	C1~C9	6.1	5.0	1.1	31.0	RT64
-	平	中~西側	II層	0.7	3.2	0.7	2.9	RT3	平	平	SD1	C1~C9	2.6	1.5	1.2	7.8	RT66
-	-	SD1	C1~C9	3.0	4.4	1.1	13.0	RT4	平	平	SD1	C1~C9	4.1	2.8	2.3	49.4	RT68
-	-	SD1 (81-105)	II層	2.2	1.7	0.4	2.1	RT5	丸	丸	SD1	C1~C9	3.0	5.0	1.6	31.5	RT69
-	-	SD1 (81-105)	II層	3.5	2.9	0.6	5.1	RT6	丸	丸	SD1	C1~C9	3.3	4.4	3.5	51.3	RT70
平	平	SD1 (82-104)	A1	2.5	1.6	1.4	6.9	RT7	丸	丸	SD1	C10~C15	4.8	3.2	0.9	20.2	RT72
-	-	SD1 (83-105)	A1	1.9	2.9	1.3	6.4	RT8	平	平	SD1	C10~C15	3.3	2.7	1.1	11.4	RT73
平	平	SD1 (82-104)	A1	2.2	4.0	1.5	10.5	RT9	丸	丸	SD1	C10~C15	4.7	4.4	1.7	46.0	RT74
-	-	SD1 (83-105)	A1	3.4	4.1	1.9	21.1	RT10	-	-	SD1	C10~C15	3.8	3.1	0.7	5.3	RT75
丸	丸	SD1 (82-105)	A1	4.5	4.2	1.3	31.6	RT11	-	-	SD1	C10~C15	2.8	2.4	1.7	15.7	RT76
-	-	SD1 (82-105)	A1	4.1	3.5	0.4	6.4	RT12	-	-	SD1	C10~C15	3.7	3.4	0.4	3.6	RT77
丸	丸	SD1 (82-105)	A1	6.2	4.0	1.4	47.5	RT14	平	平	SD1	C10~C15	4.7	4.5	1.1	21.0	RT78
平	平	SD1 (83-105)	A1	2.7	3.7	0.6	4.6	RT15	丸	丸	SD1	C10~C15	2.8	2.1	1.3	3.9	RT79
平	平	SD1 (82-105)	A1	2.2	3.1	0.4	2.8	RT16	平	平	SD1	C10~C15	8.3	5.8	1.8	101.9	RT80
平	平	SD1 (80-105)	II層	2.5	6.2	1.5	33.1	RT17	平	平	SD1	C10~C15	3.5	8.6	2.7	104.5	RT81
丸	丸	SD1 (81-105)	II層	6.3	3.9	1.3	46.4	RT19	-	-	SD1	C10~C15	2.0	1.1	1.1	3.1	RT83
-	-	SD1 (83-104)	A1	2.2	1.6	0.4	3.7	RT20	平	平	SD1	C10~C15	3.0	2.3	1.9	26.9	RT85
丸	丸	SD1 (82-105)	A1	2.0	2.1	2.1	8.6	RT21	平	平	SD3 1トレンチ (SD1側)	C1~C9	3.1	3.3	0.7	6.6	RT86
-	-	SD1 (82-105)	A1	2.0	2.8	0.3	2.2	RT22	-	-	SD3 1トレンチ (SD1側)	C1~C9	3.7	2.5	0.9	5.9	RT87
平	平	SD1 (82-104)	A1	4.0	1.4	1.2	11.9	RT23	丸	丸	(79-106) クリーニング	7.2	6.4	1.7	89.0	RT90	
-	-	SD1 (82-104)	A1	3.1	1.8	0.9	4.3	RT24	平	平	SD2 (80-107)	1	2.1	2.4	1.9	13.7	RT91
平	平	SD1 (82-105)	A1	2.2	1.7	0.7	2.7	RT25	丸	丸	SD2 (80-107)	1	6.0	3.2	1.5	29.1	RT92
-	-	SD1 (83-104)	A1	2.8	2.4	0.5	3.2	RT26	平	平	SD2 (80-107)	1	4.0	4.4	1.0	20.5	RT94
平	平	SD1 (82-105)	A1	1.7	2.3	0.8	3.2	RT27	平	平	SD2 1トレンチ	1	3.8	4.9	1.1	27.0	RT95
丸	丸	SD1 (82-105)	A1	5.1	4.9	1.7	36.5	RT28	-	-	SD2 1トレンチ	1	6.5	2.0	1.7	21.6	RT96
-	-	SD1 (82-105)	A1	2.0	1.7	1.3	5.2	RT29	平	平	SD2 1トレンチ	2	3.8	7.2	1.6	54.0	RT98
平	平	SD1	A2	3.9	2.2	1.8	27.9	RT30	丸	丸	SD2 1トレンチ	2	3.9	7.8	1.6	56.8	RT100
-	-	SD1	A2	2.0	1.7	0.7	3.1	RT32	-	-	SD2 1トレンチ	1	1.3	1.0	0.8	2.4	RT101
平	平	SD1	A2	3.1	1.6	0.5	2.7	RT33	-	-	SD2	クリーニング	2.4	1.9	0.8	3.3	RT102
-	-	SD1	A2	4.1	1.8	1.3	7.2	RT34	丸	丸	SD2	2	2.6	3.7	1.6	17.2	RT103
平	平	SD1	A2	1.0	2.3	0.7	2.5	RT35	-	-	SD2	2	3.2	1.5	0.8	4.5	RT104
平	平	SD1	A2	1.4	1.6	0.5	1.4	RT36	-	-	SD2	2	2.5	2.5	0.4	2.7	RT105
平	平	SD1	A2	1.5	2.7	1.2	6.0	RT37	丸	丸	SD2	2	3.9	2.4	0.8	7.7	RT106
-	-	SD1	A2	1.7	3.3	1.3	12.2	RT38	平	平	SD2	2	2.5	4.7	1.3	16.3	RT107
丸	丸	SD1	A2	3.0	4.1	1.8	28.9	RT39	丸	丸	SD2	2	3.4	3.3	1.8	23.9	RT108
-	-	SD1	A2	5.2	1.5	2.3	15.4	RT40	丸	丸	SD2	3~6	2.2	1.7	0.3	1.5	RT110
-	-	SD1	A2	1.7	1.2	0.4	1.2	RT41	-	-	SD2	3~6	3.6	1.3	2.7	16.6	RT111
-	-	SD1	A2	2.8	1.5	0.3	1.4	RT42	-	-	SD2	3~6	1.6	2.1	0.3	0.8	RT112
-	-	SD1	A2	2.0	1.6	0.3	0.8	RT43	-	-	SD2	3~6	4.0	2.1	0.9	6.3	RT113
-	-	SD1	A2	4.2	2.1	1.1	16.1	RT44	平	平	SD2	3~6	2.5	2.7	0.8	5.6	RT114
平	平	SD1	A2	6.0	2.1	2.4	40.5	RT45	-	-	SD2	2	4.3	1.6	0.6	4.1	RT115
-	-	SD1	A2	3.2	2.6	0.4	5.1	RT46	-	-	SD2	2	1.9	2.0	1.0	5.5	RT116
平	平	SD1	B6	2.4	3.0	1.2	14.2	RT47	-	-	SD1	C10~C15	5.1	5.8	1.8	49.9	RT117
丸	丸	SD1	B6	4.1	2.3	1.1	15.4	RT48									

表15 遺物観察表（木製品）

掲載番号	器種	遺構名	層位	備考	登録番号
993	横槌	SD2	20	72×15cm	RW1
994	部材	SD2	20	19.8×5.4×1.8cm	RW35
995	樹皮	SD2	15～18	4.2×3.4cm	RW7
996	部材	SD2	15～18	2.7×1.9×1.0cm	RW16
997	木製品	SD2	15～18	7.0×1.9×0.8cm	RW21
998	木製品	SD2	15～18	4.1×1.3×0.5cm	RW23
999	部材	SD2	15～18	12.0×2.6×3.0cm	RW20
1000	部材	SD2	15～18	10.8×3.0×1.5cm	RW24
1001	部材	SD2	15～18	7.1×7.2×2.6cm	RW17
1002	部材	SD2	15～18	8.8×2.1×1.0cm	RW5
1003	部材	SD2	15～18	11.1×1.5×1.4cm	RW6
1004	部材	SD2	15～18	6.8×2.2×0.9cm	RW10
	不明	SD2	15～18		RW2
	不明	SD2	15～18		RW3
	不明	SD2	15～18		RW4
	部材	SD2	15～18		RW8
	部材	SD2	15～18		RW9
	部材	SD2	15～18		RW11
	部材	SD2	15～18		RW12
	部材	SD2	15～18		RW13
	不明	SD2	15～18		RW14
	部材	SD2	15～18		RW15
	部材	SD2	15～18		RW18
	部材	SD2	15～18		RW19
	木製品	SD2	15～18		RW22
	部材	SD2	15～18		RW25
	部材	SD2	15～18		RW26
	棒状	SD1	D9		RW27
	板材	SD1	C10～C15		RW28
	部材	SD1	C10～C15		RW29
	部材	SD1	C10～C15		RW30
	部材	SD1	C10～C15		RW31
	樹木	SD1	C18		RW32
	漆椀片	SD1	C10～C15		RW33
	部材	SD2	20		RW34
	木片	SD2	20		RW36
	木片	SD2	20		RW37
	木片	SD2	20		RW38
	木片	SD2	20		RW39



# 図 版



調査区全景① (N→)





調査区全景② (W→)



調査区全景③ (W→)





21SD1 調査状況 (W→)



21SD1 植物質遺存状態 (S→)





21SD1 断面 (E→)



21SD1・調査区断面 (W→)





21SD1・76SD3(1 トレンチ)  
断面①



21SD1・76SD3(1 トレンチ)  
断面②



21SD1-C層堆積状況

21SD1 北側検出状況 (E→)



21SD1-C層堆積状況



拡張トレンチ 検出状況





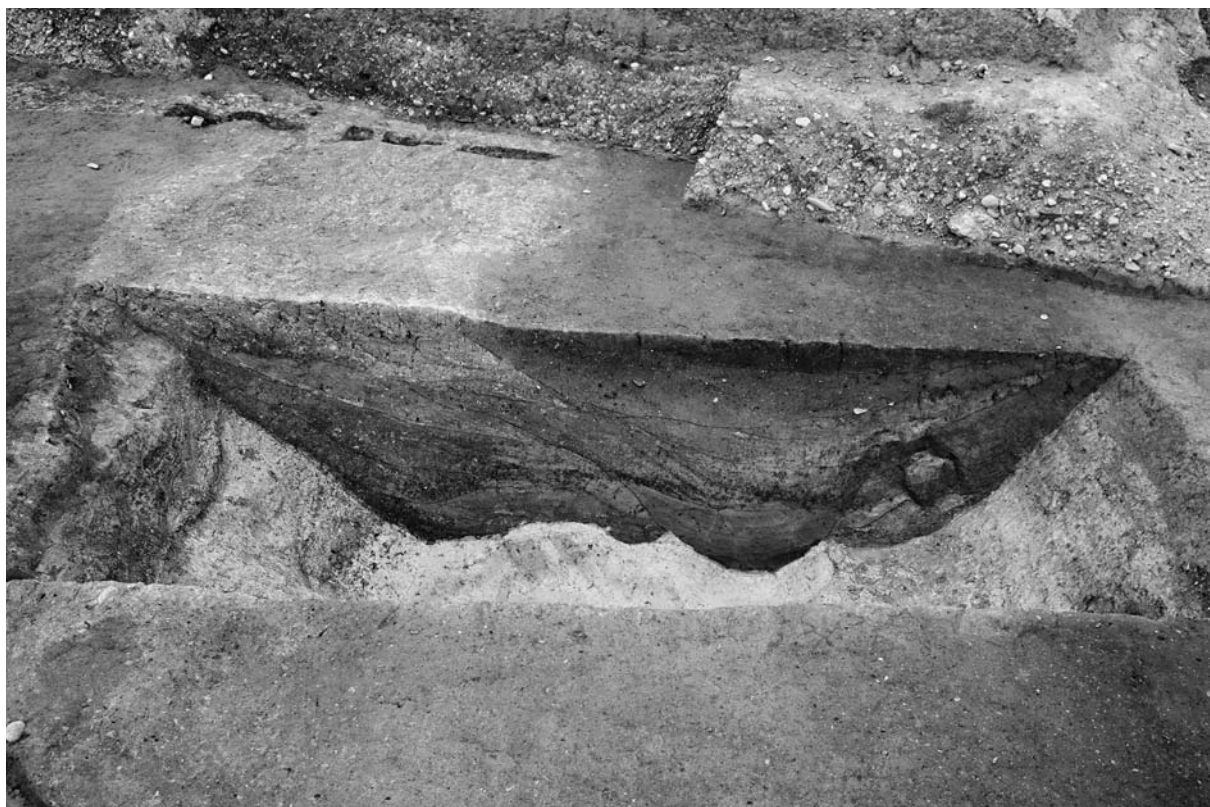


21SD2 調査状況 (W→)



21SD2 底面遺物 (993) 出土状況 (N→)





21SD2 断面① (W→)



21SD2 断面② (E→)





76SD3 検出① (W→)



76SD3 検出② (S→)



76SD3 断面① (a-a')

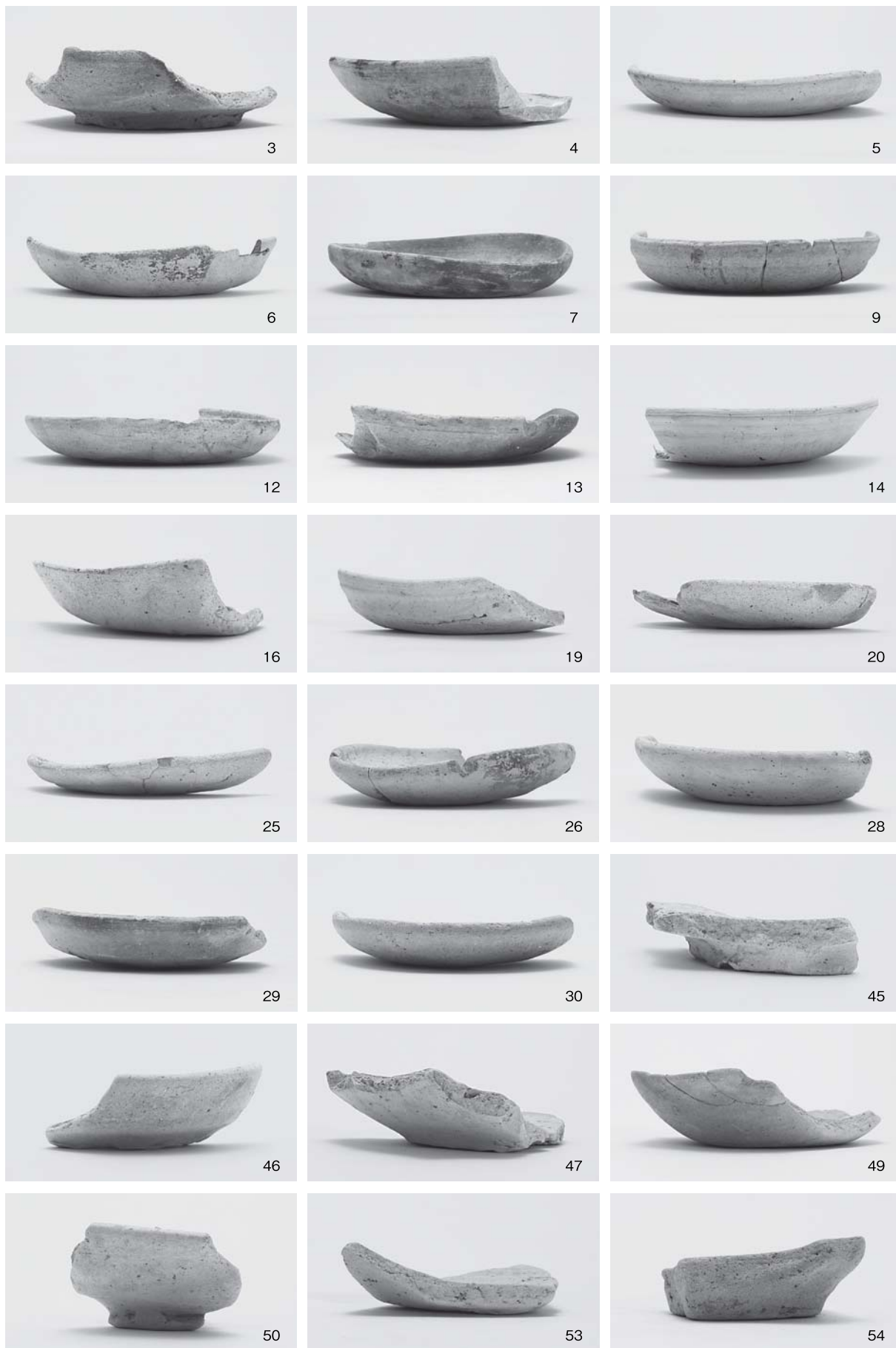


76SD3 断面②  
2・3トレンチ



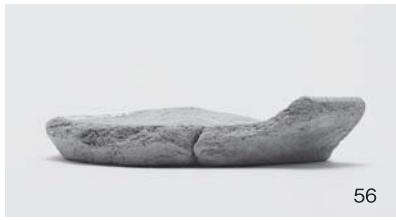
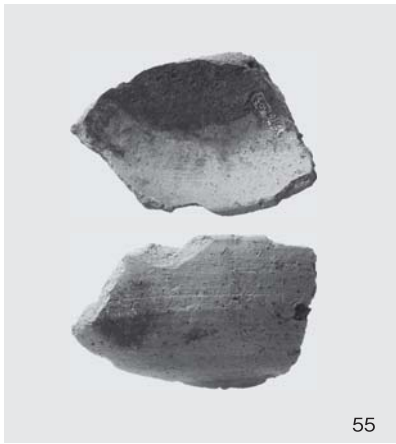
76SD3 断面③  
2・3トレンチ



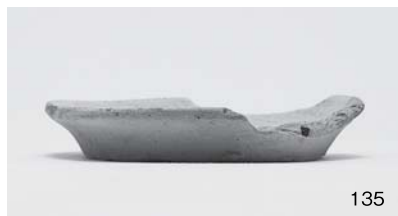


かわらけ①





かわらけ②

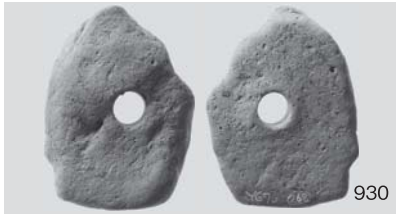




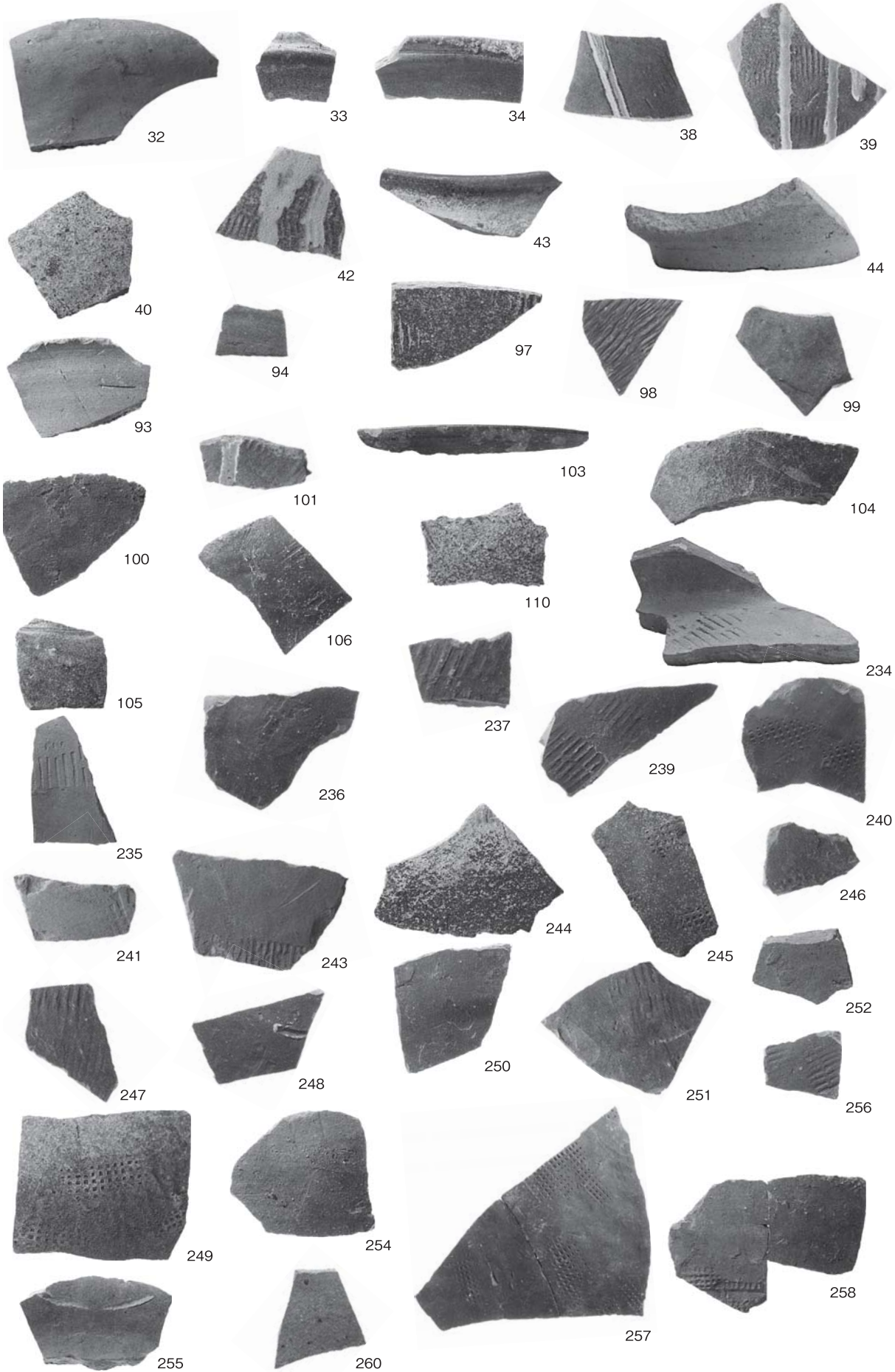
かわらけ④

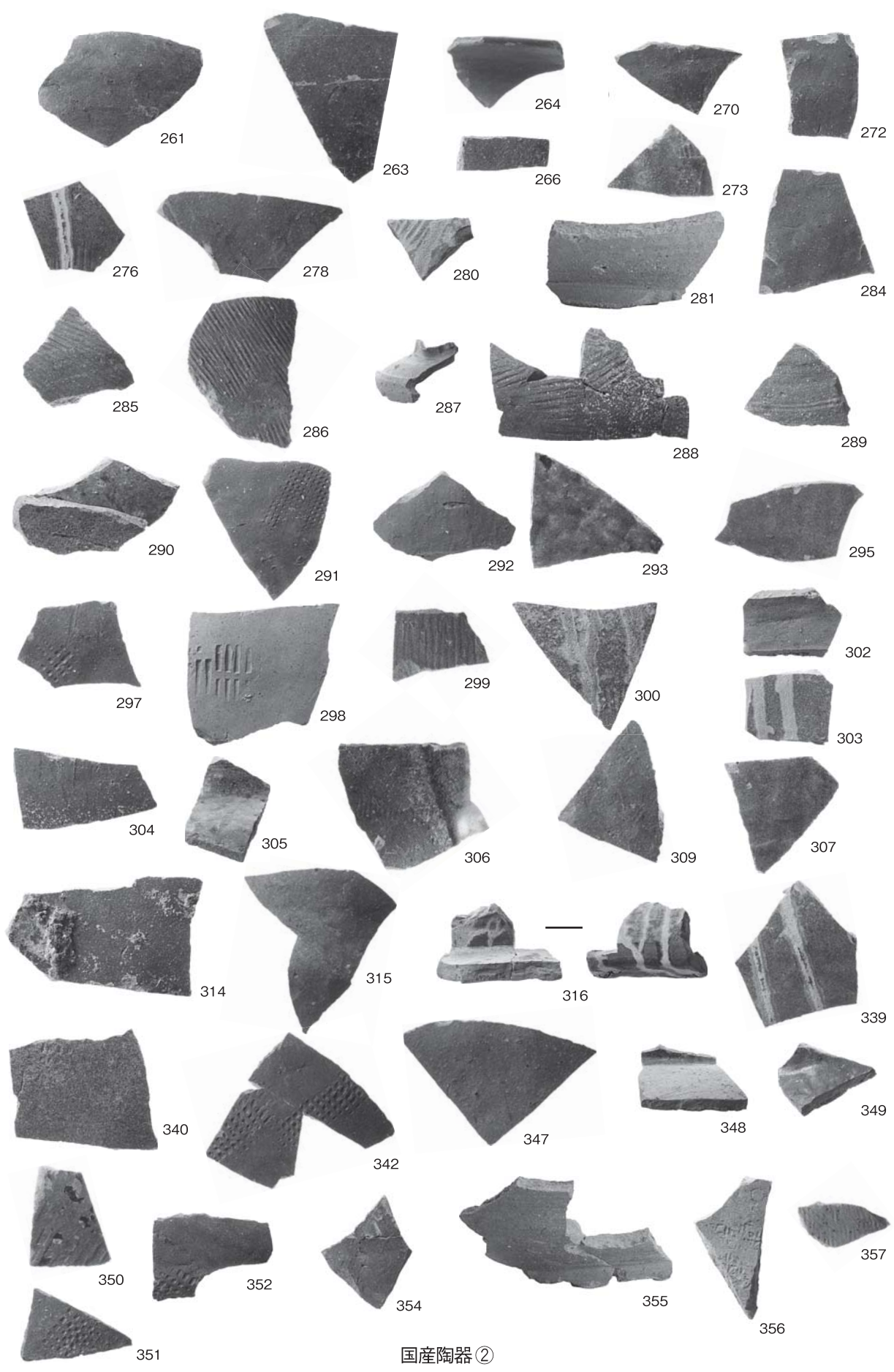






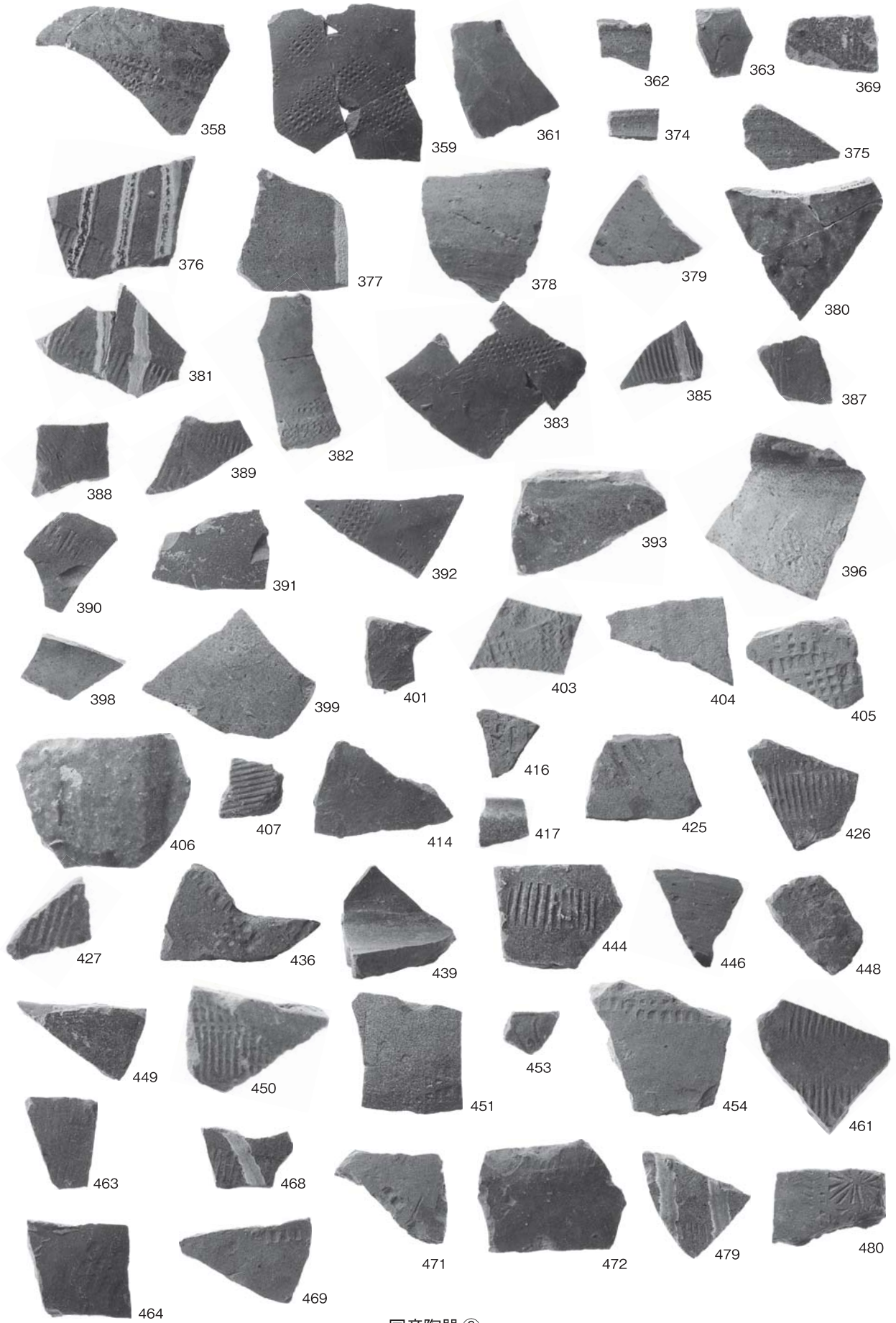
かわらけ⑥



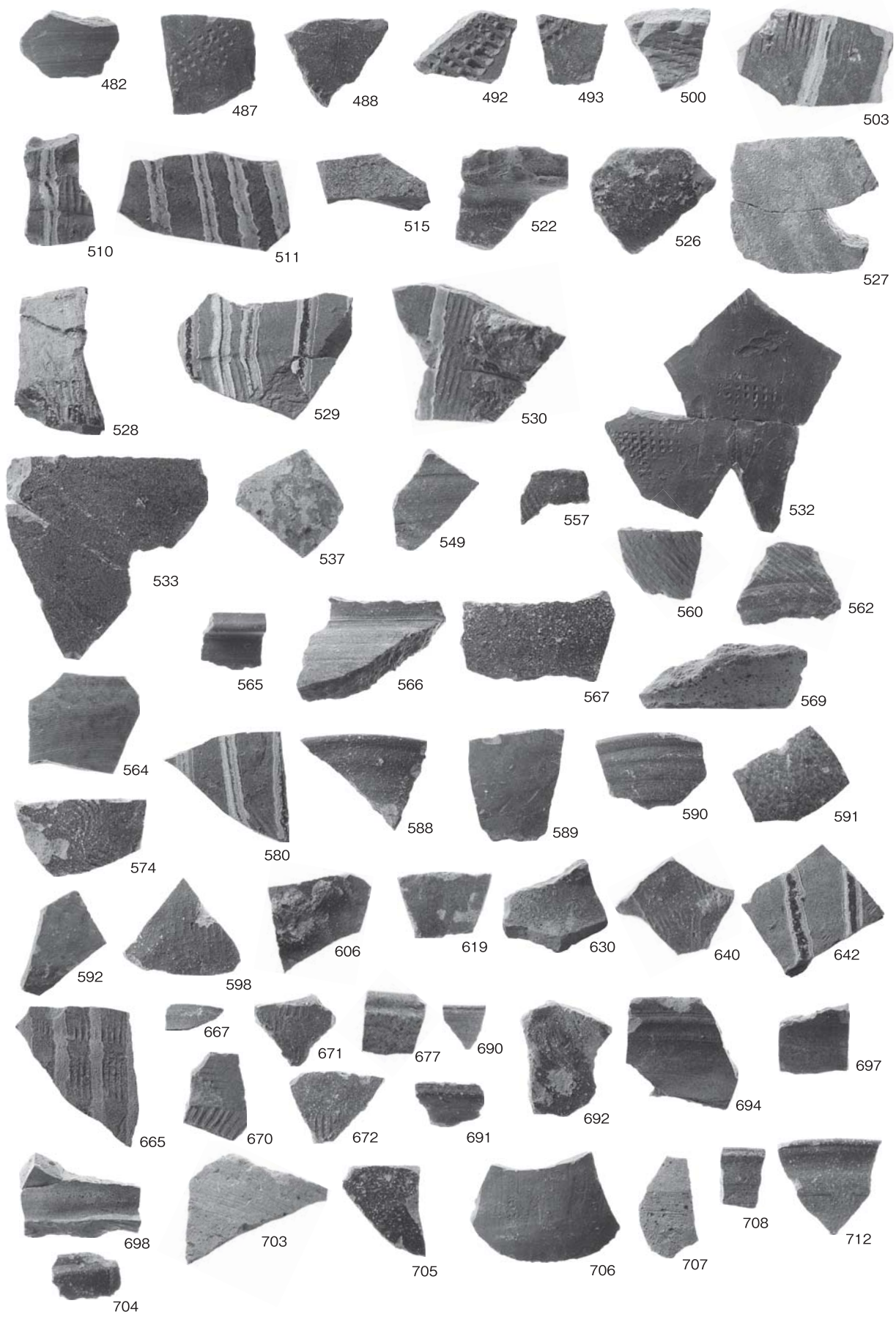


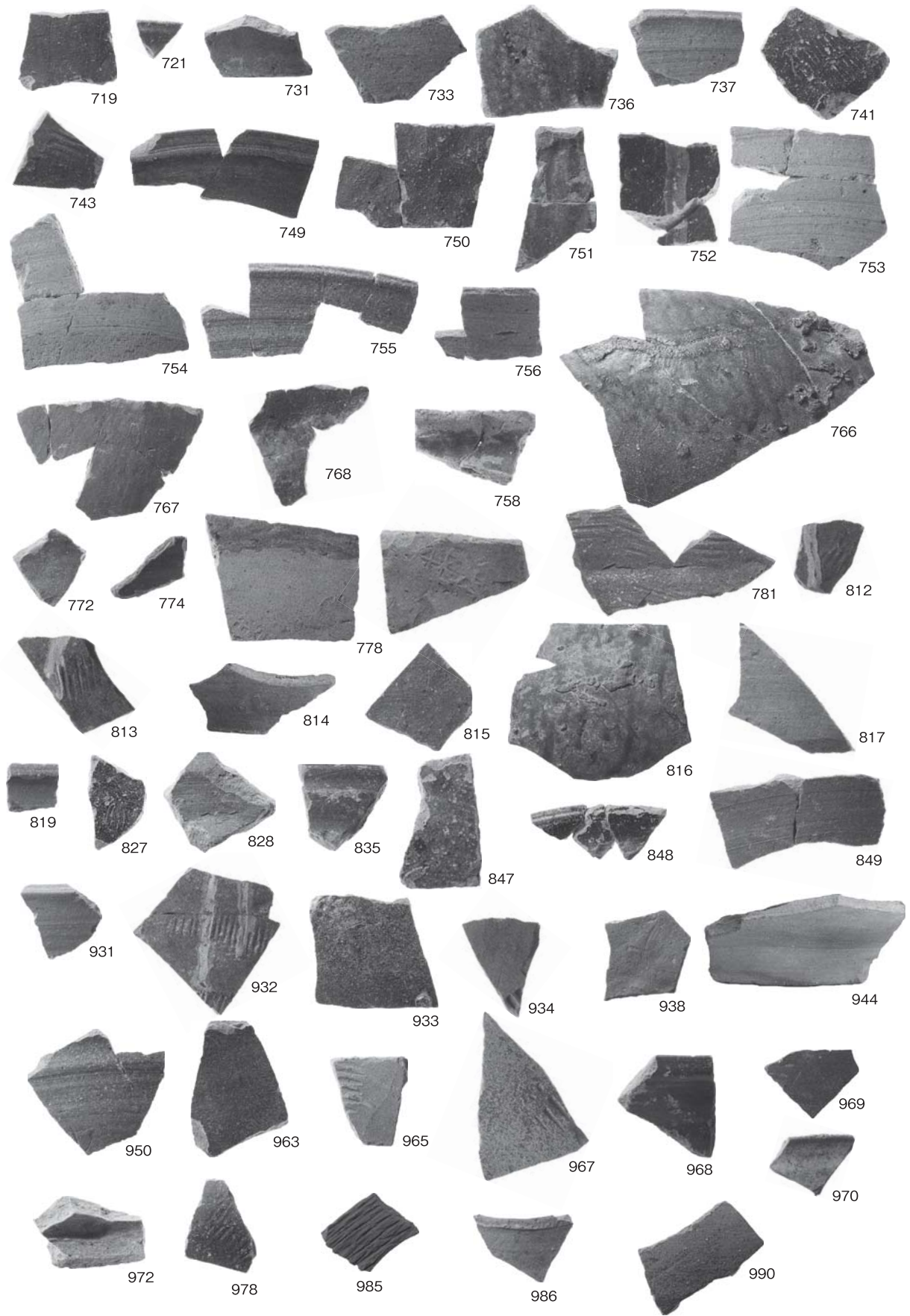
国産陶器②

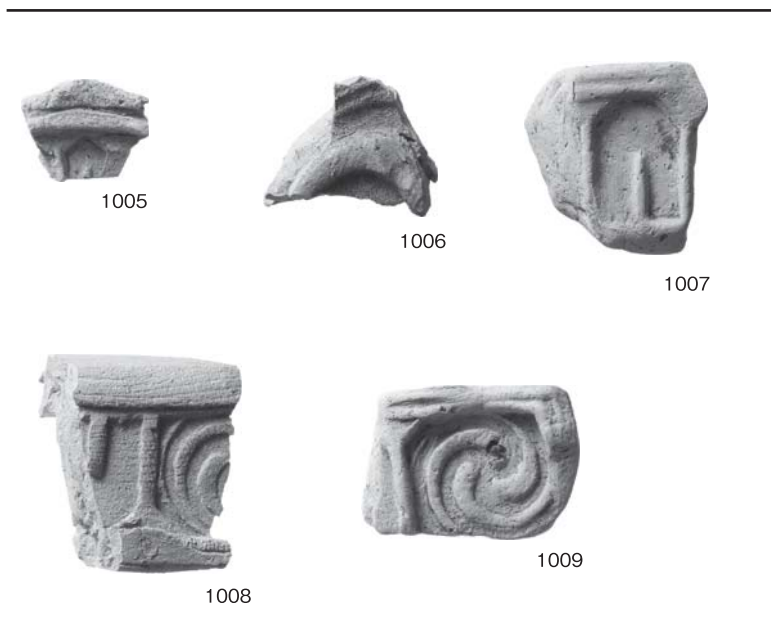
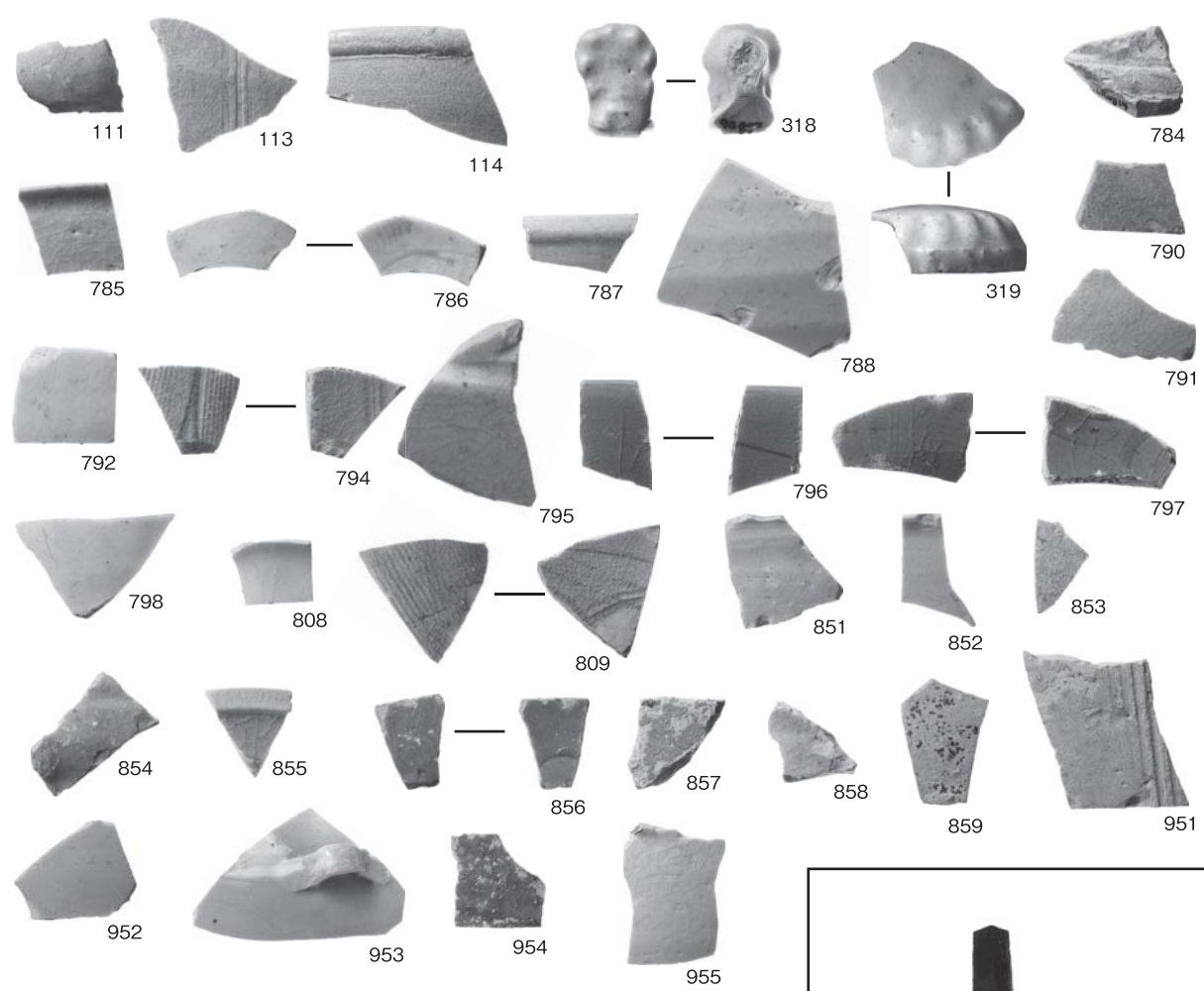












輸入陶磁器・瓦・木製品





高館①



高館②



# 報告書抄録

ふりがな	ひらいずみいせきぐんはっくつちょうさほうこくしょ やなぎのごしよいせき							
書名	平泉遺跡群発掘調査報告書 柳之御所遺跡							
副書名	第76次発掘調査概報							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第147集							
編著者名	櫻井友梓 村上拓							
編集機関	岩手県教育委員会							
所在地	〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1							
発行年月日	西暦2016年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やなぎのごしよいせき 柳之御所遺跡	いわてけん 岩手県 にしほわいぐん 西磐井郡 ひらいずみちょう 平泉町 ひらいずみあざ 平泉字 やなぎのごしよちない 柳御所地内	03402	NE76-0190	38度59分 28秒	141度7分 35秒	20140601 ~20141130	800m <sup>2</sup>	史跡整備に 向けた内容 確認調査
所収遺跡名	種別	おもな 時代	おもな遺構	おもな遺物		特記事項		
柳之御所遺跡	居館跡	平安 時代	堀跡2条、溝跡（中近 世を含む）、柱穴など	かわらけ 国産陶器（渥美・常滑 など） 中国産陶磁器（白磁・ 青白磁・中国陶器） 木製品など		<ul style="list-style-type: none"> <li>・柳之御所遺跡の内部南端部で2条の堀跡の規模と走行方向を確認した。</li> <li>・内側を走る21SD1では整地等の痕跡とみられる人為的な土層の崩落を確認した。</li> </ul>		
要 約	<p>柳之御所遺跡第76次調査の概報である。</p> <p>柳之御所遺跡はこれまでの調査により2条の大規模な堀跡で区画されることがわかってきたが、76次調査では未調査範囲にあたる遺跡南端部で調査を実施し、規模や位置と走行方向を確認できた。これまで想定されていた位置よりやや南側に広がるものの、これまでの調査で確認されていた規模や推定の位置から大きく離れるものではなく、遺跡全体を囲むことが改めて確認できた。</p> <p>今回の調査範囲では2条の堀跡に直交する溝跡が確認された。性格は不明だが、平面的な確認および土層の確認から、外側の堀跡から内側の堀跡へという構築時期を改めて確認できた。また、内側の堀跡の堆積土では人為的な様相をもつ土層が厚く堆積する状況を確認できた。この土層の本来的な機能は確定できないが、2条の堀跡の間に人為的な土層が一定の厚さをもって堆積していたことがわかり、圍繞施設や当該範囲のあり方を検討する上で重要な成果が得られた。</p>							

---

---

岩手県文化財調査報告書 第147集

平泉遺跡群発掘調査報告書

## 柳之御所遺跡

－第76次発掘調査概報－

印刷日 平成28年 3月30日

発行日 平成28年 3月30日

発行 岩手県教育委員会生涯学習文化課  
〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1  
電話 (019) 629-6171 (代表)

印刷 株式会社 一関プリント社  
〒021-0031 岩手県一関市青葉一丁目7-24  
電話 (0191) 23-4586

# 柳之御所遺跡 第76次発掘調査平面図

